

アイヌ英雄叙事詩

背鰭長の鯨

シヤシベタンネ

金成マツ

高橋靖以・切替英雄 訳

北海道教育委員会

目次

序	5
例言	7
原テキスト	7
表題	7
編集要綱	7
分担	10
参考文献	10
謝辞	11
物語 背鰭長の鯨	13
第1章 シレブンサンタへの上陸	13
鯨の背に乗る	13
シレブンサンタに上陸する	13
シレブンサンタの娘と出会う	14
ポイヤウンペの出自—シレブンサンタの娘の語り	15
ポイヤウンペの回想	17
第2章 シレブンサンタでの戦い	18
酒宴の座へ向かう	18
戦い始まる	21
二人の娘と弟の活躍	21
妹を責める沖つサンタ人の罵り	22
屋外でのすさまじい戦い	22
戦闘が終わる	23
無事だった弟と二人の娘	23
第3章 故郷トミサンペチ・シヌタプカ	24
故郷に向けて	24
シヌタプカの館	24

背鰭長の鯨

館に入る	25
ともに食事をとる	25
アイヌ英雄叙事詩 背鰭長の鯨	27
第 1 章 シレブンサンタへの上陸	29
1.1 鯨の背に乗る	29
1.2 シレブンサンタに上陸する	32
1.3 シレブンサンタの娘と出会う	35
1.4 ポイヤウンペの出自—シレブンサンタの娘の語り	46
1.5 ポイヤウンペの回想	67
第 2 章 シレブンサンタでの戦い	75
2.1 酒宴の座へ向かう	75
2.2 戦い始まる	99
2.3 二人の娘と弟の活躍	103
2.4 妹を責めるシレブンサンタ人の罵り	107
2.5 屋外でのすさまじい戦い	110
2.6 戦闘が終わる	116
2.7 無事だった弟と二人の娘	118
第 3 章 故郷トミサンペチ・シヌタプカ	123
3.1 故郷に向けて	123
3.2 シヌタプカの館	124
3.3 館に入る	131
3.4 ともに食事をとる	135

序

アイヌの人たちが北国の風土に根ざして育んできた文化は、本道の歴史や文化の形成に深く関わっており、特に、自然との共生の中で培われた豊かな知恵や経験は貴重な財産です。

北海道教育委員会では、アイヌ文化に関わる貴重な有形、無形の民俗文化財を後世に伝えていくため、文化庁の助成を受けてアイヌ民俗文化財調査をはじめ、様々な資料の収集や報告書の刊行など各種の保存・伝承事業を行ってまいりました。

アイヌ民俗文化財ユーカラシリーズは、口承文芸伝承者の金成マツさんが昭和3年から昭和22年にわたって、ローマ字で綴った92話のユーカラのうち、未紹介のものを順次翻訳し刊行しているものです。

今年度は、3話のユーカラを翻訳し、物語ごとに分冊で刊行いたしました。アイヌ文化を理解するための資料として、また、アイヌ語を学習するためのテキスト等として広くご活用いただければ幸いです。

翻訳にご協力いただいた研究者の方々及び本書の刊行にご尽力いただいた社団法人北海道アイヌ協会に心から感謝を申し上げ、発刊のご挨拶といたします。

平成23年3月

北海道教育委員会教育長
吉田洋一

例言

1. 原テキスト

本書に収録されているアイヌ語テキストは、金成マツ（1875-1961）によって記された英雄叙事詩のテキストである。このテキストが収録されている手帳は萱野志朗氏（萱野茂二風谷アイヌ資料館）によって所蔵されている（手帳の pp.1-41 にかけて本書に収録したテキストが記されている）。ただし、本編集者らは影印によって編集・翻訳を行い、手帳は直接閲覧していない。

2. 表題

物語の表題は次のように書かれている。

Shyashbe tanne Ao^{*1}

手帳の INDEX 欄において、金田一京助はこの表題を次のように訳している。

背鱗長の鯨に乗る物語

本書では金田一の翻訳に基づき、次のような表題とした。

アイヌ語表題 *Shiyashbetanne*

日本語表題 背鱗長の鯨（せびれながのしゃち）

3. 編集要綱

原テキストの冒頭部分を複写して p.8 に掲載した（影印）。この部分を忠実に再現すると、p.9 のようになる（翻刻）。なお、冒頭には yukar Aekirushi^{*2}と書かれており、さらに物語の始まりを示す「1」という記号が記されている。本書ではこれを以下の要領で編集し、対訳をおこなった。

- (a) 叙事詩の詩句を再現することを意図して、1 行が 4 音節ないし 5 音節に収まるように改行をおこなった。しかしながら、例外も多く、6 音節以上になることがある。また、詩句の再現が困難であり、恣意的にならざるをえなかった場合がある。

^{*1} Shyashbetanne 「シャチ」、Ao 「私が〜に乗る」。Shyashbetanne は別の個所で Shiyashbetanne とも表記されている。

^{*2} yukar 「英雄叙事詩」、Aekirushi 「中身」。

1) yukar, sekirushi
 Shiyashbe tunne ko.
 Inur okari rerur okari taban.
 Rururibe taban Tunmuchi
 fispiponbare vine. hynak-
 bakita. tunmuchi oka shak-
 kosaru. tata otta tuni-
 suikere wembe suikere. Apwa.
 yururakari hoshiri Akobeko-
 mo kusu kian uwa tabokita
 urhorebashi pa. hemanta.
 umbe kachaka wa ypu kor.
 Shiran. Iyoyanakte. Keritun.
 Ayupore. tambe kusu rur.
 Eebakita. hiphiturbekka.
 chiashyiturbka. un kane pei-
 ypu kor umbe shiriko Eui-
 tonvya. ypu vine tap itui-
 samita. hieyaothe. Inkarua.
 uwa Seernehak sui. Shiran.
 kurri Aramuroki. Shiyashbe
 tunne sirkar. Shiki iturki
 bar. shirre hweetuisan.
 urte kane Shikrubekij. shup-
 chise me makera. tpa. tunam-
 karhike komeri tambe kane-

原テキスト「背鰭長の鯨」の冒頭部分（影印） II.1-24.

yukar Aekirushi

1 Shyashbe tanne Ao

Turur okari rerur okari taban
 Rorumbe taban Tumunchi
 Aishinoshbare aine hunak-
 bakita tumunchi oka chak-
 kosanu tata otta tumi-
 suikere wembe suikere Anwa
 yaunkuru moshiri Akoheko-
 mo kusu Ikian awa rabokita
 arhorebashi wa hemanta
 ambe kaichaka wa yan koro
 shiran Iyoyamokte keutum
 Ayaikore tambe kusu rur
 Eebakita chiashtushtekka
 chiashrubushka an kane nei-
 yan koro ambe ashiriko Eni-
 tomomo yan aine tap Itui-
 samta chieyaotke Inkaran
 awa Seennenak sui shiran
 kuni Aramuroki Shiyashbe
 tanne einkar Shiki itanki
 bar shinne uwetuisam
 unte kane Shiknubeki chup-
 chise ne makna tara tumam-
 kashike komeri tanke kane-

原テキスト「背鱗長の鯪」の冒頭部分（翻刻） II.1-24.

- (b) 文の先頭と固有名詞については大文字を使用した。そのほかの大文字はすべて小文字に置き換えた。
- (c) ピリオド、コンマ、コロンの、ダッシュなどを適宜補った。また、引用符を加えた。
- (d) 語の切れ目に従い、原テキストの分かち書きを変更した。また、原テキスト

背鰭長の鯨

において、改行により分断されて表記されている語は、もとの形を再現して示した。

- (e) 2行の詩句にまたがる動詞については、1行目の末尾にハイフンを補った。
- (f) 人称接辞と人称語幹の境界にハイフンを挿入した。
- (g) 各行（詩句）に通し番号をつけ、欄外に手帳のページ番号を示した。
- (h) 物語の内容に従い全体を3つの章に分け、各章をいくつかの節に分けた。また、それぞれの章、節に見出しを付けた。
- (i) 原テキストはローマ字表記であるが、片仮名によるアイヌ語表記を新たに加えた。
- (j) 各行にアイヌ語の逐語訳を加えた。逐語訳は極めて便宜的なものであり、アイヌ語の文法を学んでから利用することが望ましい。
- (k) 脚注は最少限にとどめた。
- (l) 「物語 背鰭長の鯨」を本文の前に加えた。欄外の数字は該当する叙事詩の行番号を示すものである。

4. 分担

編集に当たっての分担を示す。

- (a) 編集全般
高橋靖以
- (b) 原テキストの解説・翻訳（数字は「背鰭長の鯨」の行番号）
高橋靖以 II. 1-1175.
切替英雄 II. 1176-2396.
- (c) 片仮名アイヌ語表記
切替英雄
- (d) 逐語訳
切替英雄・高橋靖以・蓮池悦子*3
- (e) 物語 背鰭長の鯨
高橋靖以
- (f) 組版（フォントの選定、 $\text{pL}^{\text{A}}\text{T}_{\text{E}}\text{X} 2_{\epsilon}$ ）
山下浩一*4・切替英雄

5. 参考文献

テキストの翻訳にあたって参考にした文献を以下に示す。

- (a) 金成まつ（筆録）・金田一京助（訳注）『アイヌ叙事詩ユーカラ集』I-VII. 三省堂. 1959-1966年.

*2 北海学園大学非常勤講師

*3 北海学園大学人文学部非常勤講師

*4 株式会社 VERSION2

- (b) 金田一京助『アイヌ叙事詩ユーカラの研究』II. 東洋文庫. 1931年.
- (c) 久保寺逸彦『アイヌ叙事詩神謡・聖伝の研究』岩波書店. 1977年.
- (d) 田村すず子『アイヌ語沙流方言辞典』草風館. 1996年.
- (e) 服部四郎(編)『アイヌ語方言辞典』岩波書店. 1964年.
- (f) ジョン・バチラー『アイヌ・英・和辞典(第4版)』岩波書店. 1938年.

6. 謝辞

本書の編集・印刷にあたって、事務をとった北海道アイヌ協会の竹内渉氏に心から感謝する。

物語 背鰭長の鯨

第1章 シレプンサンタへの上陸

鯨の背に乗る

1 二つの海をまわって、三つの海をまわって、私は戦いに追い回され、いつしか戦闘の後が静まり返った。ここでようやく戦いを終わらせて、ヤウンクル（内地人）の国土へ引き返そうとしていると、はるか沖から何かが波を立てて陸へ進んで来た。

20 私は不審に思った。そこで、波打ち際に立ち止まり、その上陸しつつあるものをじっと見つめた。そいつは上陸して、私のそばに体を乗り上げてきた。

31 それを見ると、よもやそのようなことがあるとは思わなかったが、そいつは鯨であり、その目は御腕の口のように並んでいる。目の光は日暈のように輝いている。そして、体の表面が光っている。その鯨は、私の方へ何か声をかけたいような様子をしている。

51 私はとても不審に思った。そこで、鯨がこのようにする理由を探してみたいと思い、しばらく鯨の背中に乗ってみようと考えて、背中に乗ると、鯨はもと来た方へさっと引き返した。

63 それから、鯨はどこかに向かって、海水の上を進んで行った。矢が飛ぶ様子、槍が飛ぶ様子さながらに進んで行く。体

の先端で波が分かれ、海上を進む音が私の耳の先で鳴り響いた。

シレプンサンタに上陸する

75 そのように進んで行って、鯨はどこかの陸地に体を乗り上げた。そこで、私は陸地へ飛び跳ねた。鯨はその様子を見て、まことに安心したらしく、再びもと来た方へ引き返し、沖へ跳ねていった。体の先端で波が分かれ、暗い闇の中をゆるらと進んでいった。

93 何か理由があって、鯨の神がこの場所に連れてきたのだと私は思い、鯨の背後で手を高く上げ、何度も拝礼を重ねた。

107 それから、陸地の方を見ると、何という村であろうか、暗い闇の中ではあるが、多くの村があって、村の一带はなめらかに広がっている。

117 村の真中へ、鳥が止まる様子さながらに私は立ち止まった。盛り上がった小山が天空を揺らしているかのようなようである。小山の上に、大きな家、大きな館が重なり合って建っている。焚かれた火は、外で燃えているかのように盛大に輝いている。

132 酒宴の音が響いており、その家の神窓の方へ私は急いで行こうとするが、突然私は行く気を失った。そして、その家の東の方向へ私の心は伸びて行き、興味をそそられた。

シレプンサンタの娘と出会う

144

そこで、私は静かに足の先をひるがえし、家を回って歩いて行った。すると、立派な小家屋があった。屋根の棟ははね上がり、側壁は堅くしまっている。焚かれた火が外で燃えているかのように盛大に輝いている。

160

その家の神窓の方へ私は急ぎ、下がっている窓の簾に近づいた。簾の間に目をあてて、家の中を調べてみると、立派な家であって、家の内部は数少ない宝物で飾られている。なんとみごとに飾られていることか。家の中のどこもかしこにも、私は感嘆する。

180

右座の火の傍らに、(貴人を包む) 小さな霧の小山が鎮座している。そして、左座の火の傍らにも、小さな霧の小山が鎮座している。右座にいる者の霧の中を私は目で散らして見ようとするが、何度繰り返しても人間の姿を見定めることができない。長い間そのようにしていると、私の目の前が急に暗くなった。

201

今まで、戦いの最中に美しい女性をたくさん見てきたが、(霧の中にいた) このような美しい人は一人も見ることがない。(これほど美しい人ならば噂になるであろうが) どこに暮らして、噂の端すらも聞こえてこないものであろうか。若い娘であり、美しく育てられた者であるらしく、こがねの刺繍衣で体の表面を覆っている。片側の肩の上には光を帯びた虹がかかっており、もう片側の肩の上には頭の折れた虹がかかっている。その虹は頭上で交叉している。頭髮は絹の糸のように、頭上を覆っている。神々しい顔が放つ輝きが、高く昇った太陽のよ

うに私の顔にそそぐ。霊能力にすぐれた者らしく、霊能力を身体の中に隠している。姿をあらわしている憑き神は、蝙蝠の群れのように娘の背後で飛び交っている。姿を隠している憑き神は、星のきらめきのように、背後で輝いている。

その娘は何かひどく悲しむことがあるのか、長い間泣いたものだから、まつげが半分しか出ていない。そうではあるが、醜い様子となっている訳ではない。どのように称賛することもできないほど美しい。悲しみの表情を顔に浮かべ、一点を見つめている。

左座にいる者を、私は霧を散らして見ると、その者もまことに美しく、どこもかしこにも感嘆するが、鼻筋にほんの少し下僕の肌色が現れている。そうではあるが、まことに美しい召使いの娘であるように私は思った。

すると、よもやそのようなことがあるとは思わなかったが、右座にいる娘は言葉を発し、その声が美しく響いた。

「さてさて、トミサンベチ、シヌタブカのヤウンクル(内地人)よ、中に入ってください。目をびくびくさせて、いつまでそのように見つめておられるのですか。」このように言われて、恥しい気持ち、驚きの気持ちを私は抱いた。そして、今やって来た者であるかのように、窓の下から魚が向きを変えるようにして離れた。家の側で私の鏝の音が鳴り響く。玄関の方へ私はまわり、垂れ下がった簾戸をゆっくりと開けた。そして、土間へ光とともに、霧とともにいった。

二人の娘はひどく畏まっており、表情がこわばっている。炉の上座に私が座る

250

270

286

295

320

音があたりに響いた。若い娘たちは顔を伏せて、髪の毛の端を床に着けている。しばらくして、右座にいる娘が髪の毛の端をかき分け、神々しい顔が家の中で輝いた。間近で見ると、なお一層、どのように称賛することもできないほど美しい。

350 娘は私に対して顔を上げた。このような神々しい人が自分をさしおいて、どのような神、どのような人を目撃したというのであろうか。(私の姿を見定めようとして) 二つの霧の根元、三つの霧の根元を私に対して散らした。人間の姿にされないように、私は懸命になって二つの強固な霧、三つの強固な霧をめぐらせた。長い間、娘は私に対して霧を散らし、ようやく私の横顔を目撃すると、顔色を変えて私の手前に視線を落として

378 しばらくして、娘は心を強く保ち次のように語った。

ポイヤウンペの出自—シレブンサンタの娘の語り

382 「さてさて、神のような勇者よ、話しますからよく聞いてください。この私たちの村の名前は、シレブンサンタというのです。私たちシレブンサンタ人は二人兄弟と二人姉妹であり、私は年下の娘です。そして、幼少の頃から、ここにいる召使いの娘と二人で仲良く成長してきました。

404 幼少の頃から、取るにたらぬ巫術で自らを守っているものですから、ある時に見ていると、トミサンベチ、シヌタブカのあなたの父親は、人間ではありませんが、その勇氣、その弁舌、その容貌は、神々のところでも、人間のところでも、

並ぶ者が一人もいません。

そして、天界には狼の神がおり、兄弟はおらず、一人の妹がいました。その妹はあなたの父親を気に入って、家とともに、宝物とともに、トミサンベチ、シヌタブカに降り立って夫婦となりました。そして、あなたとあなたの弟の二人を産みました。

440 やがて、あなたはもう歩けるほどになりました。あなたの弟はまだおしめと共に濡れた赤子でしたから、あなたの母親が背負っていました。あなたは父親に手を引かれていました。

451 あなたの父親は、熊の皮や鹿の皮をたくさん舟に積んで、交易をするために(妻子を連れて)和人の国へ舟を出しました。ヤンケカラプトの沖を通った時にも、レブンカラプトの沖を通った時にも、木幣や宝物で招かれましたが、通り過ぎました。酒や穀物や、何であれ、和人の殿様から良いものばかりをたくさん受け取って帰る時に、再びレブンカラプトで招かれると、あなたの母親はひどく立ち寄るのを嫌がりました。しかし、あなたの父親はこのように言いました。

484 『昔から、神々もこのように通り過ぎることをしないものが、木幣や宝物であるが、二度も三度も、ただの人間である私が招かれたのだから、これ以上通り過ぎて帰るのは良くないだろう。私は立ち寄るつもりだ。』

あなたの父親はこのように言いましたが、あなたの母親は立ち寄るのを拒んで、異なる方向に舟を漕ぎました。あなたの父親は沖へ顔を向けて(陸の方へ)舟を漕ぎ、あなたの母親は陸へ顔を向け

て（沖の方へ）舟を漕ぎましたが、あなたの母親は女性ですから、とてもあなたの父親にかないません。そこで、嫌々ながらレブンカラプトに上陸しました。

515 レブンカラプトの人々とヤンケカラプトの人々は結託して、和人の国にあなたたちがいる間に、酒を造り、毒の酒を別に造り、あなたの父親の帰りを待ち構えました。そして、あなたの父親を殺したら、何も恐れずに、トミサンベチ、シヌタブカに激しい戦闘を巻き起こして、トミサンベチの名高い神宝を盗み出し、『カラプトの村へ背負って行って分配して所有すれば、断崖にある館の中でよく眠るかのよう安心してできるだろう。』と計略をめぐらせたのです。

560 あなたの父親は酒で酔わされて、酔ってしまうと、さらに毒の酒で酔わされたのです。そして、舟の魂である宝について尋ねられたのですが、酔っているので、『カラプトの村の人々の宝物が同じようにあって、土の塊とともに私に出してくれたなら、舟の魂であるものを見せてやろう。』

と言うと、そのことから戦いが始まりました。その間、あなたの父親は、毒にやられたまま戦いました。あなたもまだ赤子でしたが、戦いました。あなたの母親は赤子（弟君）を背負っていました。

590 戦いの中でも恐ろしいものが始まりました。夜も昼も、あなたの父親は毒にやられたまま戦ったあげく、戦闘の最中に斬り殺されました。その間に、あなたは別の村へ追われてしまいました。

605 あなたの母親は激しく怒り、レブンカ

ラプト、ヤンケカラプトを表土とともにひっくり返して荒らしました。そして、泣きながら、

『今はもう嫉みを受けたトミサンベチ、シヌタブカであるから、立ち去って、年若い私の兄（狼の神）の遠くの道のり、近くの道のりをたどろう。』

と言って、神の世界へ去りました。

あなたの母親は、天界の入り口に行った時に、子供を背負っていたことを思い出し、背中からあなたの弟君を降ろして板綴舟に縛り付け、人間の世界の上に放り投げてこのように言いました。

627 『今、私は人間の世界を立ち去ります。神々よ、私を憐れんで、どうかしてこの子を守ってください。神慮をうかがいます。』

640 と言って、神の世界へ行ってしまったのです。しかし、私の見るところでは、あなたの父親が祭っていた神々は大勢いるのですが、一柱の神も振り向きはしないように思われました。

662 そこで、ただ私の思いだけで、あなたの弟君、おしめと共に濡れた者を私は受け取って、今まで隠して育てていました。懐の子として育てていましたが、弟君は霊能力にすぐれた者であるので、周囲に気付かれてしまいました。アトゥイヤ人、エサンノッ人の勇者ばかりがシレブンサンタに集ってこのようなことを言いました。

680 『ポイヤウンベ（小内地人）は、どのような素性の者、どのような生まれ育ちの者であるのか。異国の者は、死にたいと思ひ、このようなことをするのか。厄介なことだ。二つの海をまわって、三つの

海をまわって、ポイヤウンペは仲間を斬り殺したのだ。しかし、なんとまあ、あなたの妹はポイヤウンペの弟を長い間育てていたのか。早く、まだ幼いうちに殺してしまおう。それから、トミサンベチ、シヌタプカに激しい戦闘を巻き起こして、トミサンベチの名高い神宝をすべて運び出し、それで良い思いをしよう。』

と言って、大勢の勇者たちが、私の兄たちのところへ集り、相談をしました。そこでようやく、兄たちも姉も、村人たちも、このような出来事に気がきました。

729 『なんと汚らしい。性悪の妹、碌でもない者め。どこの血筋を引く者かわからないポイヤウンペを隠して育てているというのか。』

と何度も私の陰口を言って、ひどく怒っていることも私は知っていました。しかし、私に向かっては何も言いません。そして、激しい戦闘をやウンクル（内地人）の国土に巻き起こす前に、神を祭るために酒を造り、今晚からその酒を飲んでいきます。そして、私が育てた弟君を殺すために、このような嘘をつきました。

762 『おまえの育てた子供と、今晚遊んでみたい。しばらく連れ出すぞ。』

と言って、私が育てた弟君を奪って、今まさに酒を飲んでいるのです。

773 その間に、あなたが戦いを終わらせて、帰途につく様子を私は見ました。そこで、幼い鯨の神にお願いし、あなたがシレブンサンタへ来るように仕向けたのです。

784 そして、これからの戦闘はどうやら小規模なものではないようです。私たちは、この召使いの娘とともに、少しの悪

意も持ってはいないのです。理不尽なことに加担することはできないので、破れたむしろが物に絡みつ়程度ではありますが、神である者（ポイヤウンペ）の側に加勢したいと思うのです。何かの邪心を持って、このようなことをするのはありません。身寄り無き者よ、二人分の働き、三人分の働きをなさってください。神の如き勇者よ、頑張って戦ってください。』

娘はこのように語った。

ポイヤウンペの回想

私は話を聞いただけではあるが、驚きの気持ちを抱いた。まことにこのようなことがあるのか。異国の者たちは、このような尋常ではないことをするというのか。（親が亡くなった時）私は赤子であったので、どのような宿命か、戦闘の中で人となったのだが、驚いたことに、私はこのような先祖を持つものであったのだ。おぼろげながら、私は父親や母親、弟君を思い出した。どのような理由で戦闘があったのか、今まで父親、母親を探し求めて、二つの海をまわり、三つの海をまわり、追い回されるようなことをしているのだと思っていた。しかし、驚くべきことに、随分前に両親は神の世界へ去ってしまったということなので、私は勇者の末裔であるが、目の端から涙を流した。

さらに、本当のことであるのか。私の弟君、国土の神がこの村で立派な成長を遂げているというので、私は心の底から嬉しく思った。そして、私は喉元を響かせて次のように言った。

「さてさて、シレブンサンタの神の如き

823

871

886

婦人よ、話すから聞きなさい。私はどのような素性の者、どのような生まれ育ちの者であって、先祖から宿命により嫉まれていたのであったのか。私は戦闘の中で人となった。巫術の力の無い者、霊能力の無い者であるから、これまでの出来事も見逃していた。あなたは霊能力に優れているので、戦闘が生じた理由をすべて理解した。あなたは婦人の気立て、婦人の振る舞いに優れているので、私の弟を憐れに思い、長い間立派な養育をほどこしてくれたこと、本当に感謝して拝礼する。私は犬にさえも身内がないものであったが、あなたは私に身寄りを与えるために、召使いの娘とともに私の側に加勢してくれるとのこと、本当に有難く思う。」私はこのように言った。そして、深く感謝の意を表すと、娘は当たり前喜びものであるならばさもあるうが、まことに安心した様子である。

951 それから、娘は起き上がって二つの水滴、三つの水滴を用い、見事な煮炊きをかいがいしくおこなった。そして鍋が煮え、良い食物の高盛りの御椀を、畏まりながらみずからの上に持ち上げて、私に差し出した。私はそれを受け取って高くかざし、低くかざし、拝礼した。

969 あまりに食物が無く、空腹を感じていたので、良い食事をして、心臓の上から心臓の下まで落ち着いた気持ちになった。二人の娘も、高盛りの御椀をみずから用意した。そして私たちは食事を終えた。

第2章 シレプンサンタでの戦い

酒宴の座へ向かう

それから、私は煙り出しの窓の上に、飛び上がり、酒宴がおこなわれている家の神窓へ急いだ。そして、垂れ下がった窓の簾の裾に膝をつき、簾の表面に顔をつけた。 986

簾の間に目をあてて見ると、なんとまあ、シレプンサンタの人々は長者であることか。大きな家の梁の下に、隙間なく神宝が積み上がっており、家の中のどこもかしこにも私は感嘆した。 998

家の中には、目元に見覚えのない者がたくさんいる。今は酒宴の座が伸びており、酒宴の座の上手はかすんでいる。酒宴の座の下手もかすんでいる。そして、武装した集団が光り輝いている。 1013

漆塗りの器の奥には、話聞いたアトウイヤ人らしき者が座っている。その周囲には、エサンノッ人やカイボク人、シララカ人、ポンモシリ人らしき者たちがいる。一体どこに私が殺すべきものがあるというのだろうか。勇者ばかりが肩を並べている。 1025

アトウイヤ人に向かっていく者は、話聞いたシレプンサンタの年少の者であるらしく、身内の女性に美しい者がいるのも頷ける容姿である。今年あたりに、私よりも成長を遂げた幼い少年であり、こがねの小袖を重ねて身にまとっている。こがねの兜を被り、兜の紐を顔に縛り、兜の縁で顔が輝いている。そして、霧の中に包まれている。 1042

その座の漆塗りの器のそばに、濃い霧があり、霧の中で神々しい光が輝いてい 1067

る。私は何度も霧の根元を目で散らした。しかし、強固な霧をいくつもめぐらせている者であり、何度繰り返しても、人間の姿を見定めることができない。長い間、霧を目で散らしていると、私の目の前が急に暗くなった。

11091 何ということか、(霧の中にいたのは)話に聞いた私の弟君、幼い子供である。異国のこがねの小袖を身にまとい、異国の刀を帯に差している。そしてこがねの兜を被り、兜の紐を締めている。兜の縁で顔が輝いているが、二つの悲しみの表情、三つの悲しみの表情を浮かべている。それを見て、私の心臓は上から下までかきむしられたようになる。息をする喉も塞がれたような気になる。二つの僅かな涙、三つの僅かな涙を私は流した。

1119 何ということか、私たちは周囲から嫉みを受けた者であるのだ。立派な先祖を持つ者であったのに、性悪のレブンペ(沖の者)の集団が悪事をなし、私は(戦いの中で)成長してきた。しかし、人殺しの血統ではあるが、シレブンサンタの神の如き婦人のおかげで、私の弟君は立派に成長し、見事に飾り立てられている。そこで、今すぐにも、家の中に入って、弟君を抱きしめたいと私は思った。

1152 酒を出している者を見ると、シレブンサンタの年長の者であるらしく、どの者も容貌において、勇敢さにおいて、優劣があるのだろうか。同じような目元の者、同じような眉の者が並んでいる。そして、光のために、霧のために、正視することも難しい。

1169 酒宴の座の間を行き来する者を見る

と、話に聞いたシレブンサンタの年長の婦人であるが、(ここまで高橋靖以訳、以下切替英雄訳)

すばらしい教育と養いを受けた者らしくどこからどこまでも、言葉では誉めようもないほど完璧な女だった。酒宴のため着飾った者たちを凌いで耳の上に首の上に気品が匂っていた。私の弟を育ててくれた娘の妹であるから、それと同じ眉の形、そっくりな眼窩を備え、酌をして回っていた。

1176 宴の筵の上手に、下手に多くの者どもが膝をつつき、肘をつつきあい、ひそひそと言葉を交わしていた。我が聞き耳を立てると、「一体どんな生まれの者か、口の端にのぼるヤウンクルの小僧(ポイヤウンペ)、地べた野郎として多くの国々に名が通っている。外外国に住む者であるから、我らとは異なり、やりたいことといったら死ぬことだから、国を巡って我らが仲間を斬り殺そうというのだな。我らと同じ二本の手を生やした人間、二本の足の付いた男なのであろうが、ここにやって来たなら、こてんぱんにしてやる。」と同じ言葉を一人が言い終わらぬうちに皆が取り合い、声に力をこめて鎮き合っていた。

1231 沖つサンタ(シレブンサンタ)の長男がおもむろに顔をあげて宴の座を注意深く見渡し、小声でささやくようにこう言った。「臆病者でもないのにそんな口をきくのは首領の徳を陰でそしるというものだ。そんなことを言っていると自分の方が憑きの神の力を弱くするぞ。」と説諭した。たちまち皆沈黙した。しかし、少しするとまた同じことを言う声が

1176

1193

1231

1238

した。私はそれを聞いただけで怒りがこみあがった。我がさしたる訳もなく腐れ沖つ人を、悪党沖つ人の一統を斬り殺したというので、我に陰口をなしていた。

1287 わが弟の耳の孔に口をつけて数々の言葉を（呪文を）述べつつわが背に跳ね上げた。解いた帯をおんぶ紐にして締めた。行器（ほかい、シントコ）の陰に我は座った。

1299 我がいるにもかかわらず、誰か我を見る者がいてもよさそうなのに一人として我を見ない。我が弟だけがいると大勢の者らは思つて我に酒を注ぐ。飲んでみると、存外おいしく思われ、驚く。今初めて酒というものを飲み、味わう。実に我が心臓かみの上から下までが寛ぐ。心臓しもがのびやかになった。我は多飲した。

1322 沖つサンタの長男が言うことには、「さあ、さあ、陸の子供と遊んでやろう。どうしたとか、我が守り神が怖じ気づき、びくびく、どきどきしているように思われる。この子供をさっさとやっしまわないと心落ち着かず酒も飲めないぞ。」と言うと、大勢の者らが「なるほど、確かにそうだ。我らもどうしたとか先程から心の持ちようがざわざわどきどきして怯えが走るような気がした。」と口々に言葉を交わす声があるので、我は密かな嘲りの笑いを禁じえない。「さあさあ、陸の子供よ、ここに、焔のそばに出ておいで。いささかお遊びしてあげよう。」と沖つサンタの者らが言うので、我は行器の陰から滑るように上座に現れた。

1367 我はわが身から帯をほどく。すると思ひもかけずわが後ろに我が弟が透明な風

となって煙出しの孔から滑るように降りてきた。

1378 我はバックルの付いた帯を胴に締めて耳に痛い激しい言葉を浴びせた。「ああ、いやだ、いやだ。腐れ沖つ人、沖つ人のこん畜生どもが言う言葉こそあきれ果てたこと。どんな理由があるものか、いつまでも皆してそねみ、殺してやりたい、斬り殺したいという思いを汝ら是我に対して抱く。陰でこそそ言うのでさえ由々しいことなのに汝らがすることとはこんなことなのか。いったい、この酒でどんな神を祭ろうとて酒醸みしたものであるのか。弟をいったいどのように構いたいというのか。我もまた遊んでやりたいものだ。さあさあ、かかってこい。あつて良いものが死であるというのなら（死んでもいいというのなら）、お相手してさしあげよう。理において汝らが勝るものならば、我は、一介の幼児、一介の青臭い男であるのだから、汝ら是我を一刀両断にできるであろうが、理において汝らが劣るならば、沖つサンタ（シレブンサンタ）の国が長かるうが短かるうが（その国土は）一片たりとも残らず無くなってしまふぞ。覚悟しろ。」と我は言う、焔の上手に頑丈な網代（川の止め）のように立ちふさがった。

1440 大勢の者たちを見渡し、我がそれもて見るもの、すなわちわが目が二つの小さな星となって並び立ちにらみつけていると、この大勢の者らは大いに驚いて一度に我に眼差しを据えた。我を包むおびただしい霧の根元を払い、われの正体を見ようと激しい声を我に浴びせた。我は固い霧をふんだんにわが身の周りに巡ら

せた。シレプンサンタ人はしばらく我が周りから霧を散らそうとしていたが、ある者には我が見られて、ある者には我が見られない。我を見た者は我がどんな神であるか、何という人かと恐れ感嘆し、我に眼差しを留め、顔色を失い、我の手前に目を落とす。皆一斉に驚き、心臓が飛び出ないようにと鼻をふさぎ口をふさぐ。

1481 「なんとまあ、ポイヤウンベ、汚い陸の人。ただの凡人がこの行器のそばにその弟を背負って座っていたとは。弟だけが座っていると思っていたから今こそ相手になって殺してやるべしと思っていたので、わざわざ貴重な酒を飲ませようと思っていたが、たまげたことにおまえはちびのヤウンクル、地べた這いずる内地人であった。我らが沖つサンタ（シレプンサンタ）には霊の力のある者ばかりが五万といるはずだが、ポイヤウンベが優れた霊の力のうちでもとてつもないものを我らに向けて発揮しているのだな」と皆して驚嘆の声をあげた。

戦い始まる

1519 「弟を逃がしてしまっても、ポイヤウンベと遊んでやろう。」と雄叫びをあげて励まし合い、猛者どもが一人ずつ我が前にさっと現れた。まずは手を伸ばし捉えると鳥のように胴の力、腕の力を発揮した。長々と伸びた炬縁木の上に叩きつけると、その音が響き渡った。ぐにやりとなった骸がごろりと転がった。

1543 我が腕は燃え立つ。激しい太刀をひらめかせると死んだ魂の飛び立つ音が鳴り渡った。皆々の呆れかえる声、うなる声が交錯した。次に挑みくる者も全く同様

な目に遭う。すぐにおびた敵が我の手にかかった。

それと同時に屋根の上で我が憑き神、おびた敵の予見の神が爆発的に音を鳴らす。まさにそのとき首領たちが一斉に立ち上がり、我に向かって蝟集し、我につかみかかろうとするので、最初のやつを捉え、さらに次々と炬縁の上に叩きつけ、その上で斬り殺す。

1578 今や、窓から多くの巻き風が入ってきた。我は右座で暴れまわり、左座で跳ねまわった。知らん顔して大きな燃えさしと小さな燃えさしを蹴散らすと、寝床の上に薄い布のように炎が舞い上がった。笑うべし、火を消そうとする者が炎に向けて駆けつけた。我は炎とともに切り捨て、炎とともに突き殺す。

二人の娘と弟の活躍

1600 何者かが戸外で、窓から外に逃れようとする者の頭を切り飛ばす。何者かが戸口から外に出ようとする者の頭を切り飛ばす。

1609 今やようやく館を打つ風の音がほのかに聞こえた。地を打つ風の音が響いた。広大な家屋に火が付く。今や焼け落ちんとするときには我は外に飛び出た。気づくとこの大きな村一面に声があがっていた。どこのどいつが攻めているのか、虫が湧くかのようにてんやわんやの大騒ぎ。逃げ惑う人々のおびた敵の群れがうち重なっていた。上空には樺の灯りの輝きが照り映えていた。軍勢に向かい沖つサンタの尊い女と小娘の奴婢、我が弟の三人が刀を振るっていた。髪は戦闘のため乱れていた。我は敵方の群れのそばを走り抜けた。

1643 今こそ弟をつかまえ荒れ果て静まり返った峰の上に滑るように登った。「弟よ」「愛しい君よ」と我は言いながら我は抱擁した。そうしながらおびただしい涙を流すと弟は我に向けて顔を上げた。神とも見まがうりりしい姿だ。自分を抑えて慎んでいた。どんな神をどんな人を目にしたからというのか、顔がサッと青ざめた。形ばかりでも我を賞賛するのならばありそうなことだが、我の一つ手前に目を落として「兄さん」と言いながら我が首からぶら下がった。弟の目から涙が雨のように流れた。子供を抱きしめるように、赤子を抱きしめるように我は弟を愛しんだ。我らは挨拶とねぎらいの礼をすます。二人一斉に肩を並べて敵方のそばを駆け抜けた。

妹を責めるシレブンサンタ人の罵り

1687 雑兵どもの背後に沖つサンタの兄弟らが叱咤する声のはじけた。「なんと汚らわしい、我が悪しき妹の割れ目アママ、女が大きくなり少女が大きくなり色気づき、どこにも縁故のないくそガキポイヤウンベとの姦淫・淫行ふけりたいたがため、おのれの村もおのれの一族も裏切りやがった。その奴婢の小娘、醜い卑しい女もいっしょになって淫らに走るさまのなんたることか。いったいそんなふるまいをしてただでは済まないだろう。」と激しく罵った。二人の娘はつんぼの耳を人に向け（聞こえない振りをして）少しも顧慮しない。

1726 大勢の雑兵どもは我が太刀の先で音を立てて斬られていく。驚くべし、我が弟はこんなに幼いのになんともはや、すばらしく活躍することか。通過する所が広

げた敷物のように乱れた敷物のようになった。二人の娘が当たる所は小さな畑のように大きな畑のように刈り取られた。我は恐れ入った。

屋外でのすさまじい戦い

いつものように我が憑き神たちは我が上空でたくさんの固い音を響かせ、おびただしい巻き風が戦たけなわのところに吹き降りた。武装の軽い者は吹き飛ばされ枯れ葉が舞い飛ぶかのようだ。我が遠くの者を斬るには我は上体を伸ばす。近くの者を斬るには腕の下に太刀を握った。右手にいて我が太刀に斬られる者にはその上体に垂れ込めた靄のように太刀を振り下ろした。左手にいて我が手に打たれる者は、死んだ魚が落ちるようになった。我はその下肢をうち捨てられた敷物のように引きずった。夜も昼も我は、この戦闘にひどくまがまがしい者となって携わった。

雑兵どもは、ある者は空へと押し合いへし合い昇っていく。

ある者は反対方向に、海の上に落ち、泳げない者は石が沈むように沈んで行く。泳げる者は海面に頭をしゃもじのようにくるくる回し海水にむせて呪いの声を、悪たれをまき散らす。海におぼれ潮に死ぬ者のおびただしい魂の、体から離れていく音が絶え間なく続く。遠くの岩山、さては近くの岩山に落ち打たれ死んだ数限りない者の魂が体から離れて行く。その音が響き渡った。多くの者らのうちあるものは水に浸かっている昆布のように、またあるものは顔がぶるぶるふるえていた。ある者はおのれの鼻をふさぎ、おのれの口をふさぐ。「まことポイ

1745

1784

1789

ヤウンベはつまらぬ人間と人はいうが憑依のしかたも身のさばき方も人の心を転がし、人の心を土塊のように萎えさせるものだ。もう懲り懲りだ。」という声がじゃぶじゃぶと騒がしい。

1840 それから、今ははや、敵方は僅かとなり、浜をぐるりとこのいくさはたちまちに推移した。我は戦闘を急ぎ進めた。それと同時に我の見ものが二つになり、三つになっていく。^{*5}低い声で歌を我は歌う。わが喉元を美しく捻った。我のつきだした口から声が響く。わが憑き神のおびただしく響く強い音は国土が崩れるときのよう、天が壊れるときのようだ。我は多くの巻き風の先に軽々と乗せられて舞い上がった。砂浜の表面が風にめくれた。すさまじい砂が激しい吹雪のようになり、真っ黒な雲のようになり天のあいだに跳ね上がった。その下で追いつ追われつしているうちにいったいどうしたことか、我が心の持ちようが激しい狂気を帯び、鍋が煮えたようになり、忘我の状態となった。

戦闘が終わる

1885 どれほどときがたったのか、我に帰ってあたりを見回すとどこに村があったのか、シレプンサンの山の狩り場もろともにならした畑のように平らになっていた。我は浜に逆さまになって長々と体を伸ばしていた。^{*6}沖つサンの一族のもげた頭をあちらこちらへ我は打ちつけていた。我ははっきりと覚醒した。

1906 改めて激しい怒りがわが中で頭をもた

げた。ぱっと立ち上がり、沖つサンの死体をまん中から裂き半分を遠く沖に投げて海の妖魔の婿にやり、半分を遠くの岩山の陰に投げ捨てて岩山の妖魔、草の妖魔の婿にくれてやった。「こんなことはまだお遊びのうち。この先、ずっとのちにおまえらが生き返ることがあればそのときこそ真の戦い、紛れのないいくさをしよう。改めて対決しよう。何度だってひどい目にあわせてやる。」と我は言うと言を鞘に収めた。

無事だった弟と二人の娘

わが弟と二人の娘の姿が見えない。激しい不安、もの狂わしい不安に口もきけずにいて、「もしや二人は殺されでもしたのだろうか」と一人もの憂く考え込むと我が心は疲れてしまい倒れ木の上に腰をおろす。我が体には爪きずさえもついていない。我は休息した。遠くに人の気配がした。私の方にまっすぐにやって来た。すぐそばまでやって来たのはなんと弟と二人の娘で、遠くから走ってきたのであるから三人とも汗で濡れていた。しかし三人とも爪の傷さえ負っていない。弟が口元で笑いながら喉元を響かせ言うことには、「身のこなしといい、動きといい兄さんのただならぬ働きに瞠目しました。私の貧しい体はもう少しで滅ぼされようとなりましたので、敵方を一人でも斬り殺し、兄さんを助けようと思いましたが、それもかなわずただひたすら逃げてばかりで心苦しく思っているうちに戦闘終わりました。」と弟は言うので我は声をあげて笑う。我は首の骨もなくなるほどうなずき、三人をそばに呼び寄せた。三人は恐懼しているものだから、膝をす

1934

1977

^{*5} 殺戮に酔いしれて視点が定まらなくなったのか？

^{*6} 大量殺人の後、殺害者は昏々と眠る。

り這いつくばってわが傍らにやってきた。我は自分の周りに引き寄せ慈しみをこめて一人一人を撫でさすりながら、いくさの過程で頑張ってくれたからこそこの戦闘をすみやかに終えたことをそろって喜び、しばし休息した。

第3章 故郷トミサンベチ・シヌタブカ

故郷に向けて

2024 「もうそろそろ故郷、トミサンベチ・シヌタブカに戻ろうと思う。」と我は言い休息をとったのち、三人に同行を促し大空に飛び上がった。

2037 今こそいくさの終結・まがごとの終いであって、多くの国々を越えて神風の先に乗せられて昇り、かつ降下する音が鳴り響いた。帰り行くと、今まで夢のように思い出すことのあったトミサンベツ・シヌタブカの神々しい天辺の折れた岩山が天を揺らめかして我に向かってそびえ立っていた。

シヌタブカの館

2059 我らは館の外に立つ艦の上に降ろされた。見れば今初めて我が住まいの外観を目にすることができた。小山の上に非常に大きな家屋、広大な館が重なるように建っていた。大きな家の高い段ぶき屋根と低い段ぶき屋根に幅広の平金がぐりりと取り付けてあった。平金の表面はおびただしい金の渦巻き紋で飾られていた。渦巻き紋の間に群れをなす木鈴、群れをなす鎖の環が取り付けられていた。鎖の鳴る音が男の声のように、鈴の鳴る音が女の声のように響いていた。我は魅了された。

大きな家の長い柵の杭は天空へ向けて立ち後ろへそれて、短い柵を中に隠していた。^{*7}長い横木は柵なりにうねうねと曲がっていた。短い横木は地面なりにうねうねと曲がっていた。杭の上下の孔は鳥の巣となり、相対していた。杭の孔に当たる風がひゅーひゅー鳴った。館に当たる風がはたはたと鳴った。地面を打つ風の音が響き渡った。我はうっとりとなった。

館の外に建てられた幣柵はさながら森の木のものであった。幣の東端から浜手へと下る砂の道は折れた岩山の頂から肘を折ったように七曲がりに曲がり、幣柵の西端から山手へ向かう土面の道、けもの道の表土は黒々としていた。トミサンベツの浜へ降りる道は明るく輝いていた。

海面はなめらかに広がる。海の鳥、風の鳥の潜って餌をあさる鳴き声が沸き立っていた。心揺さぶられる光景だ。

館のそばに我は立ち、あちらこちらへ目をやった。我が住まいのあまりの美しさを喜び実にうれしく思った。これはもう人の住まいとは思われない。そればかりか神の住まいを凌いでいた。感嘆の思いがわき起こった。

こんな美しい邸であれば、なるほど我が父と我が母が嫉まれ、悲惨で激しいいくさをしかけられ、かたき達がああして振る舞ったのももっともだ、と思われて泣く。

わが弟も我と異なる感慨を抱いてもよ

^{*7} 高い柵が低い柵の上に覆いかぶさっていた、ということであろうか。

2091

2115

2131

2139

2153

2166

さそうなのに、後ろを向いて涙に濡れた顔を拭いていた。

2174 二人の娘はごく普通にわが住まいに感心するのであったらあたりまえのことだが、それどころではなく、顔を上げることさえできずに館の東端の地べたに座り込んで髪の毛の先を地面に垂らしているの
で、「さあ、中に入りなさい。」と促した。
館に入る

2191 我は玄関（モセム）へ赴いた。我が弟も我にすぐ続いて入った。宝物のにおい、財宝のにおいが強い風となって我を後ずさりさせた。

2203 モセムと中とを仕切る簾を我はゆっくりと開けた。土間の上に光りとともに霞とともに我は入った。見ると黒い霞と白い霞が家の中に漲っていた。しばらくして霞が弾けたので見るとたまげたことにこの大きな家の棟木の下に隙間なく宝器が並び、大きな宝壇が懸崖のように伸びていた。金の行器、木製の行器、金の箱、木製の箱がぎっしりと並んでいた。

2232 その上に首領の佩く刀の多くの下げ紐が並び、刀飾りが揺れていた。その上に神々しい光が盛んに輝いていた。

2243 宝列の手前には金の寝台が長々とあり、上面が光っていた。

2249 奥の座の東端は低くなり、奥の座の西端は平らに広がっていた。金の炉縁が伸びゆくさまはルマイベ（未詳）の色になり、右座のそばには、女物の金の箱のたいそうな列が宝列の端から火尻座の隅まで届いていた。その手前に女物の枕が伸びていた。その上にはいったいどこの誰が作ったのものであるのか、神々しい刺繍のある着物、金の着物が高い掛け竿、

低い掛け竿をしならせていた。その上でおびたしい光りが輝いていた。みごとなものだ。

ともに食事をとる

我は左座へと足を運ぶ。寝台の上で我は帯を解き、着替えをした。それから右座に下りて火を起こす。弟は炉の上手に腰をおろす。二人の娘はうやうやしく入り口のそばの敷居をまたぐ。土間を膝行、這うようにして入ってきた。ごく普通に謹んでいてもよさそうなのに、表情がかちかちになっているので、我は冗談を飛ばしてそれに応えた。

2281

「さあ、さあ、火のそばに寄って座りなさい。腹がすいて死にそうだ。沖つサンの神なる妹よ、何か食べ物があるだろ。調理してくれないか。食べてみんな元気になったらお話しでもしよう。」と言うと、命じられたことに畏まり従う女であるから、すぐに二人とも立ち上がった。

2310

若い奴婢は水を汲み沖つサンの異邦の妹はぼろぼろと水しずくを垂らして手を清め、材料をおいしそうに整え捧げ持ち、炉に掛けた。

2333

先に生まれたのが我であるから、火の神に手を高く上げて、今こそ我が住まいに戻ったことを、この経緯とともに神に述べた。

2342

家の上座にいつもいる神にも同じように述べた。

2352

我は人心地した。もう鍋も煮え、薄造りの膳に薄造りの椀が並び立つ。うまい飯が高々と盛られた椀が我に差し出された。弟にも高盛の椀が出された。二人の娘も大きな盛りを持ち、捧げ感謝した。

2355

背鰭長の鯨

ともに心をつにして今は何も恐れることもなくおびえることもなくおいしい食事、穏やかな食事を堪能した。

2378 我ら皆一つの思い、同じ気持ちを持つのであるから、二人の娘は、今はもう我になじんで食事の合間、笑い話・戯れ言を交わし合っていた。

2389 弟も数々の愉快的な話で応えてくれた。私たちは談話を楽しみながらおいしくいただき、まったく心が平らかになった。

2396 これでお終い。

Shiyashbetanne

背鰭長の鯨

第1章

シレプンサンタへの上陸

p. 1

1.1 鯨の背に乗る

- 1 Tu rur okari
トゥ ルル オカリ
二つの海 まわり
二つの海をまわって
- 2 re rur okari
レ ルル オカリ
三つの海 まわり
三つの海をまわって
- 3 taban rorumbe
タブン ロルムベ
この 戦闘
戦いに
- 4 taban tumunchi
タブン トウムンチ
この 戦争
戦闘に
- 5 a-i-shinoshbare*¹ aine
ア・イ・シノシバレ アイネ
我・追い回される (接続)
私は追い回され、
- 6 hunak bak i ta
フナク バク イ タ
どこ まで とき (場所)
いつしか
- 7 tumunchi oka
トウムンチ オカ
戦争 あと
戦闘の後が
- 8 chakkosanu.
チャクコサヌ。
静まり返る
静まり返った。
- 9 Tata ot ta
タタ オツ タ
ここ 所 (場所)
ここでようやく
- 10 tumisuikere
トゥミスイケレ
戦いを終わらせる
戦いを終わらせて
- 11 wembesuikere-an wa
ウエムベスイケレ・アン ワ
戦闘を終わらせる・我 (接続)
凶事を終わらせて
- 12 Yaunkuru moshiri
ヤウンクル モシリ
内地人 国土
ヤウンクル (内地人) の国土へ
- 13 a-kohekomo kusu
ア・コヘコモ クス
我・引き返す (理由・目的)
引き返そうと
- 14 iki-an awa
イキ・アン アワ
する・我 (展開)
していると、
- 15 raboki ta
ラボキ タ
間 (場所)
その間に

*¹ a-i-y-eshinoshbare と表記されていない理由
については未詳。

背鰭長の鯨

- 16 **arhorebashi wa**
 アラホレバシ ワ
 沖から から
 はるか沖から
- 17 **hemanta am be**
 ヘマンタ アム ベ
 何 あるもの
 何かが
- 18 **kai chaka wa**
 カイ チャカ ワ
 波 開ける (接続)
 波を立てて
- 19 **yan koro shiran.**
 ヤン コロ シラン。
 上陸する (同時) 有様である
 陸へ進んで来た。
- 20 **Iyoyamokte keutum**
 イヨヤモクテ ケウトウム
 不思議に思う 心
 私は不審に
- 21 **a-yaikore.**
 ア・ヤイコレ。
 我・もつ
 思った。
- 22 **Tam be kusu**
 タム ベ クス
 このもの (理由・目的)
 そこで、
- 23 **rur eebaki ta**
 ルル エエバキ タ
 海 端 (場所)
 波打ち際に
- 24 **chiashtushtekka**
 チアシトウシテッカ
 沈黙して立つ
 立ち止まり
- 25 **chiashrubushka-an kane**
 チアシルブシカ・アン カネ
 凍りつく・我 (程度)
 凍りついたように立ち止まり、
- 26 **nei yan koro am be**
 ネイ ヤン コロ アム ベ
 その上陸する (同時) あるもの
 その上陸しつつあるものを
- 27 **a-shirikoentomomo.**
 ア・シリコエニトモモ。
 我・ひどく睨む
 じっと見つめた。
- 28 **Yan aine**
 ヤン アイネ
 上陸する (接続)
 そいつは上陸して
- 29 **tap i-tuisam ta**
 タプ イ・トウイサム タ
 これ 我・傍 (場所)
 私のそばに
- 30 **chieyaotke.**
 チエヤオツケ。
 先端が浜に上がる
 体を乗り上げてきた。
- 31 **Inkar-an awa**
 インカラ・アン アワ
 見る・我 (展開)
 見ると、
- 32 **seenne nak sui**
 セエンネ ナク スイ
 (否定) (?) 再び
 よもや
- 33 **shiran kuni**
 シラン クニ
 有様である すべきこと
 そのようなことがあるとは
- 34 **a-ramu rok i**
 ア・ラム ロク イ
 我・思う (完了) こと
 思わなかったが、
- 35 **Shiyashbetanne**
 シヤシベタンネ
 シヤチ
 鯨 (であって)、
- 36 **einkar shiki**
 エインカラ シキ
 見る 目
 その目は
- 37 **itanki bar shin ne**
 イタンキ バラ シン ネ
 御椀 口 様子 (繫辞類)
 御椀の口のように

- 38 uwetuisam-
ウウエトウイサム・
並んで
並んで
- 39 unte kane.
ウンテ カネ。
あらしめる (音節調整)
いる。
- 40 Shik nubeki
シク ヌベキ
目 光
目の光は
- 41 chup chise*² ne
チュプ チセ ネ
日 暈 (繫辞類)
日暈のように
- 42 maknatara.
マクナタラ。
輝いている
輝いている。
- 43 Tumam kashike
トゥمام カシケ
胴体 上
(そして) 体の表面が
- 44 komeritanke
コメリタンケ
光る
光って
- 45 kane okai be
カネ オカイ ベ
(程度) ある もの
いるもの (であって)
- 46 chieyaotke.
チエヤオツケ。
先端が浜に上がる
(そいつは) 頭を乗り上げてきた。
- 47 Chikibo ne wa
チキボ ネ ワ
行為 (繫辞類) (接続)
もう少しで
- 48 nep ka i-or un
ネプ カ イ・オロ ウン
何 (不定) 我・ところ (方向)
何か私の方へ
- 49 ye ankeno
イエ アンケノ
言う しようとする
声をかけたいような
- 50 katun ruwe okai.
カトゥン ルウェ オカイ。
形をとる 跡 ある
様子をしている。
- 51 Oar oar
オアラ オアラ
全く 全く
私はとても
- 52 a-oyamokte.
ア・オヤモクテ。
我・不思議に思う
不審に思った。
- 53 Tam be kusu
タム ベ クス
この もの (理由・目的)
そこで
- 54 ene katkoro shiri
エネ カッコロ シリ
このように 振舞う 様子
このような (鯨の) おこないが
- 55 okai kuni
オカイ クニ
ある すべきこと
ある理由を
- 56 a-nukar rusui kusu
ア・ヌカラ ルスイ クス
我・見る (欲求) (理由・目的)
探ってみたいと思い、
- 57 irukai a-o wa
イルカイ ア・オ ワ
しばらくの間 我・入る (接続)
しばらく (鯨の背中に) 乗って
- 58 inkar-an
インカラ・アン
見る・我
みようと

p. 2

*² chup chise は「日暈」とされる (ユ集 III,p.340)。

背鰭長の鯨

- 59 **yainu-an kusu**
 ヤイヌ・アン クス
 考える・我 (理由・目的)
 考えて
- 60 **a-o awa**
 ア・オ アワ
 我・入る (展開)
 (背中に) 乗ると、
- 61 **hetobo**
 ヘトボ
 逆に
 鯨はもと来た方へ
- 62 **yayohoshibitek.**
 ヤヨホシビテク。
 みずからさっと戻る
 さっと引き返した。
- 63 **Orowano**
 オロワノ
 (始点)
 それから
- 64 **inehunak un**
 イネフナク ウン
 どこかへ (方向)
 どこかに向かって
- 65 **kambe kurka**
 カムベ クルカ
 水面 上
 海水の上を
- 66 **echararse.**
 エチャララセ。
 滑る
 進んで行った。
- 67 **Ai tune shiri**
 アイ トゥネ シリ
 矢 筋のようである 様子
 矢が飛ぶ様子
- 68 **op tune shiri**
 オプ トゥネ シリ
 槍 筋のようである 様子
 槍が飛ぶ様子
- 69 **ekannayukar.**
 エカンナユカラ。
 ようである
 さながらに (進んで行く)。
- 70 **Kotbok riri**
 コツボク リリ
 前 波
 k 体の先端の方で波が
- 71 **tososatki**
 トソサッキ
 ザザァとする
 分かれ、
- 72 **hoyubu hum**
 ホユブ フム
 走る 音
 海上を進む音が
- 73 **an-ekisarsut-**
 アネキサラスツ・
 我・耳元
 私の耳の先で
- 74 **maukururu.**
 マウクルル。
 風が渦巻く
 鳴り響く。

1.2 シレプンサンタに上陸する

- 75 **Oman aine aine**
 オマン アイネ アイネ
 行く (接続) (接続)
 (そのように) 進んで行って
- 76 **hunak ta**
 フナク タ
 どこ (場所)
 どこかの陸地に
- 77 **chieyaotke wa kusu**
 チエヤオツケ ワ クス
 先端が浜に上がる (接続) (理由・目的)
 体の先端を乗り上げたので、
- 78 **orowa**
 オロワ
 (始点)
 それから
- 79 **heyashi terke-an.**
 ヘヤシ テレケ・アン。
 陸へ 跳ねる・我
 私は陸地へ飛び跳ねた。
- 80 **Shiyashbetanne**
 シヤシベタンネ
 シヤチ
 鯨は

- 81 nukar
ヌカラ
見る
その様子を見て
- 82 sonno
ソンノ
真に
まことに
- 83 eramushinne p korachi
エラムシンネ プ コラチ
安心する もの ように
安心したらしく、
- 84 sui horka
スイ ホロカ
再び 逆である
再びもと来た方へ
- 85 hoshibitek
ホシビテク
さっと戻る
引き返し、
- 86 reboterke.
レボテレケ。
沖で跳ねる
沖へ跳ねていった。
- 87 Kotbok riri
コツボク リリ
前 波
体の先端で波が
- 88 tososatki
トソサッキ
ザザァとする
分かれ
- 89 kuroma to ta
クロマ ト タ
暗い 日 (場所)
暗い闇の中を
- 90 kunne to ta
クンネ ト タ
暗い 日 (場所)
夜の闇の中を
- 91 oman shiri konna
オマン シリ コンナ
行く 様子 は
ゆらゆらと進んで
- 92 ramamatki.
ラママッキ。
ふらふらとする
いった。
- 93 Shiriki chiki
シリキ チキ
そのような有様である (条件)
そうすると、
- 94 nep ka ikkewe
ネプ カ イクケウエ
何 (不定) 元
何か理由が
- 95 am be kusu
アム ベ クス
ある もの (理由・目的)
あつて
- 96 Shiyashbetanne kamui
シヤシベタンネ カムイ
シャチ 神
鯨の神が
- 97 taban ushike
タバノ ウシケ
この ところ
この場所に
- 98 i-orura
イ・オルラ
我・連れる
私を連れて
- 99 shiri ne kuni
シリ ネ クニ
様子 (繫辞類) すべきこと
きたのだと
- 100 a-ramu kusu
ア・ラム クス
我・思う (理由・目的)
思い、
- 101 oshi
オシ
後から
鯨の背後で
- 102 a-tekrikikur-
ア・テクリキクル・
我・手を高く
私は手を高く

p. 3

背鰭長の鯨

- 103 **buni kane**
 ブニ カネ
 上げる (音節調整)
 上げて
- 104 **tu wan onkami**
 トウ ワン オンカミ
 二つの 十の 拝礼
 二十の拝礼
- 105 **re wan onkami**
 レ ワン オンカミ
 三つの 十の 拝礼
 三十の拝礼を
- 106 **a-ukakushte.**
 ア・ウカクシテ。
 我・重ねる
 重ねた。
- 107 **Tap orowa**
 タプ オロワ
 これ (始点)
 それから
- 108 **inkar-an ko**
 インカラ・アン コ
 見る・我 (条件)
 (陸地の方を) 見ると
- 109 **konep kotani**
 コネプ コタニ
 何 村
 何という村
- 110 **ne nankor a,**
 ネ ナンコラ、
 (繫辞類) だろう か
 であろうか、
- 111 **kuroma to ta**
 クロマ ト タ
 暗い 日 (場所)
 暗い闇の中、
- 112 **kunne to ta**
 クンネ ト タ
 暗い 日 (場所)
 夜の闇の中
- 113 **iki korkaiki**
 イキ コロカイキ
 する (逆接)
 ではあるが
- 114 **inne kotan**
 インネ コタン
 多い 村
 多くの村 (があって)
- 115 **kotan kurkashi**
 コタン クルカシ
 村 上
 村の一带は
- 116 **teshnatara.**
 テシナタラ。
 平らである
 なめらかに広がっている。
- 117 **Shiran chiki**
 シラン チキ
 有様である (条件)
 すると
- 118 **kotan noshki un**
 コタン ノシキ ウン
 村 真中 (方向)
 村の真中へ
- 119 **chikap reu shiri**
 チカプ レウ シリ
 鳥 (鳥が) とまる 様子
 鳥が止まる様子
- 120 **a-shikobayar.**
 ア・シコバヤラ。
 我・見せかける
 さながらに私は立ち止まった。
- 121 **Chibuni tapkop**
 チブニ タプコフ
 盛り上がる 小山
 盛り上がった小山が
- 122 **chiekantoor-**
 チエカントオロ・
 天空
 天空を
- 123 **suiba kane.**
 スイバ カネ。
 揺する (音節調整)
 揺らしている (かのようだ)。
- 124 **tapkop ka ta**
 タプコフ カ タ
 小山 上 (場所)
 小山の上に

第1章 シレプンサンタへの上陸

- 125 **tam boro chise**
 タム ボロ チセ
 この 大きい 家
 大きな家
- 126 **tam boro chashi**
 タム ボロ チャシ
 この 大きい チャシ
 大きな館が
- 127 **uworeroshki.**
 ウウォレロシキ。
 重なってそびえる
 重なり合って建っている。
- 128 **Chiare abe^{*3}**
 チアレ アベ
 焚かれる 火
 焚かれた火が
- 129 **soi ta barse**
 ソイ タ バラセ
 家の外 (場所) 燃える
 外で燃えている (かのように)
- 130 **abe nubek**
 アベ ヌベク
 火 光
 炎の光が
- 131 **maknatara.**
 マクナタラ。
 輝いている
 盛大に輝いている。
- 132 **Tonoto kan hau**
 トノト カン ハウ
 酒 上 声
 酒宴の声、
- 133 **iku hau**
 イク ハウ
 酒を飲む 声
 酒を飲む声が
- 134 **hau ronroratki**
 ハウ ロンロラッキ
 声 色々な音が入り交じる
 響いて
- 135 **koro shiran ko**
 コロ シラン コ
 (同時) 有様である (条件)
 おり、
- 136 **rorunburai ne**
 ロルンブライ ネ
 神窓 (繫辞類)
 (その家の) 神窓の方へ
- 137 **koyaitunashka**
 コヤイトウナシカ
 急ぐ
 私は急ごうと
- 138 **a-ki kusu ne awa**
 ア・キ クス ネ アワ
 我・する (理由・目的) (繫辞類) (展開)
 するが、
- 139 **a-kon ram konna**
 ア・コン ラム コンナ
 我・もつ 心 こそ
 突然私の心が
- 140 **esakkaoshma.**
 エサクカオシマ。
 さっと消える
 ふっと消える (行く気がなくなる)。
- 141 **Chise mauka un**
 チセ マウカ ウン
 家 東 (方向)
 そして、その家の東の方向へ
- 142 **a-kon ram konna**
 ア・コン ラム コンナ
 我・もつ 心 は
 私の心が
- 143 **chiturituri.**
 チトゥリトゥリ。
 伸びる
 伸びて行く (興味をそそられる)。

1.3 シレプンサンタの娘と出会う

- 144 **Tam be kusu**
 タム ベ クス
 この もの (理由・目的)
 そこで、
- 145 **humimoapkash**
 フミモアアカシ
 静かに歩く
 静かな歩みで

*3 原ノートでは **chiarebe** と表記されている。

背鰭長の鯨

- 146 a-kourebentok-
ア・コウレベントク・
我・足先
私は足の先を
- 147 kiru kane
キル カネ
向ける (音節調整)
ひるがえし、
- 148 chise a-ekari wa
チセ ア・エカリ ワ
家 我・回る (接続)
家を回って
- 149 oman-an.
オマン・アン。
行く・我
歩いて行った。
- 150 Inkar-an ko
インカラ・アン コ
見る・我 (条件)
見ると、
- 151 pirika pon chise
ピリカ ポン チセ
良い 小さい 家
立派な小家屋 (があつて)、
- 152 chikitaiko-
チキタイコ・
屋根
屋根の棟が
- 153 raiba kane
ライバ カネ
移動させる (音節調整)
はね上がり、
- 154 chitumamko-
チトゥمامコ・
側壁
側壁が
- 155 yupba kane.
ユプバ カネ。
締める (音節調整)
堅くしまっている。
- 156 Chiare abe
チアレ アベ
焚かれる 火
焚かれた火が
- 157 soi ta barse
ソイ タ バラセ
家の外 (場所) 燃える
外で燃えている (かのように)
- 158 abe nubek
アベ ヌベク
火 光
炎の光が
- 159 maknatara.
マクナタラ。
輝いている
輝いている。
- 160 Rorunburai ne
ロルンブライ ネ
神窓 (繫辞類)
その家の神窓の方へ
- 161 a-koyaitunashka
ア・コヤイトウナシカ
我・急ぐ
私は急ぎ、
- 162 ratki burai
ラッキ ブライ
垂れ下がった 窓
下がっている窓の簾に
- 163 a-yaikotukka.
ア・ヤイコトウッカ。
我・接触する
近づいた。
- 164 Sepka utur
セプカ ウトゥル
簾の隙間 間
簾の隙間に
- 165 a-shikbekare wa
ア・シクベカレ ワ
我・目を付ける (接続)
目をあてて
- 166 chise upsoro
チセ ウプソロ
家 内部
家の中を
- 167 a-uwambare wa
ア・ウワムバレ ワ
我・調べる (接続)
調べて

- 168 **inkar-an ko**
 インカラ・アン コ
 見る・我 (条件)
 みると、
- 169 **pirika pon chise**
 ビリカ ポン チセ
 良い 小さい 家
 立派な家 (であって)、
- 170 **chise uporo*4**
 チセ ウプソロ
 家 内部
 家の内部は
- 171 **moyotek ikor**
 モヨテク イコロ
 少ない 宝物
 数少ない宝物
- 172 **moyotek iyoibe**
 モヨテク イヨイベ
 少ない 宝物
 数少ない宝列で
- 173 **a-etomtekar.**
 ア・エトムテカラ。
 飾り立てられる
 飾られている。
- 174 **Ineapksu**
 イネアプクス
 何と
 なんとみごとに
- 175 **a-tomte wa**
 ア・トムテ ワ
 輝いている (接続)
 飾られている
- 176 **shiran nankor a,**
 シラン ナンコラ、
 有様である だろう か
 ことか、
- 177 **huihuina wano**
 フイフイナ ワノ
 隅々 から
 (家の中の) どこもかしこにも、
- 178 **a-koomommomo**
 ア・コオモムモモ
 我・詳述する
 私は詳しく述べ (はしないが)、
- 179 **a-erayap kashba.**
 ア・エラヤブ カシバ。
 我・感心する 甚だしい
 感嘆する。
- 180 **Oshiso un**
 オシソ ウン
 右座 ある
 右座の
- 181 **abe teksam**
 アベ テクサム
 火 すぐそば
 火の傍らに
- 182 **pon urar tapkop**
 ポン ウララ タブコブ
 小さい 霧 小山
 (貴人を包む) 小さな霧の小山が
- 183 **ehorarba.**
 エホララバ。
 居る
 鎮座している。
- 184 **Oharkiso un**
 オハラキソ ウン
 左座 ある
 左座の
- 185 **abe teksam**
 アベ テクサム
 火 すぐそば
 火の傍らにも
- 186 **pon urar tapkop**
 ポン ウララ タブコブ
 小さい 霧 小山
 小さな霧の小山が
- 187 **ehorarba**
 エホララバ
 居る
 鎮座して
- 188 **kane shiran.**
 カネ シラン。
 (程度) 有様である
 いる。
- 189 **Oshiso un ambe**
 オシソ ウン アムベ
 右座 ある あるもの
 右座にいる者の

*4 原ノートでは uporo と表記されている。

背鰭長の鯨

- 190 **urur tumu**
 ウララ トゥム
 霧 中
 霧の中を
- 191 **a-shikechari**
 ア・シケチャリ
 我・目で散らす
 私は目で散らして
- 192 **ki p ne koroka**
 キ プ ネ コロカ
 するもの (繫辞類) (逆接)
 見ようとするが
- 193 **naani tu sui**
 ナアニ トゥ スイ
 まさに 二つの 回
 何度
- 194 **naani re sui**
 ナアニ レ スイ
 まさに 三つの 回
 繰り返しても
- 195 **ainu kat ne**
 アイヌ カツ ネ
 人間 姿 (繫辞類)
 人間の姿を
- 196 **a-kar eaikap.**
 ア・カラ エアイカプ。
 我・する できない
 見定めることができない。
- 197 **Hushkotoi wano**
 フシコトイ ワノ
 以前 から
 長い間
- 198 **a-kar aine**
 ア・カラ アイネ
 我・する (接続)
 そのようにしていると、
- 199 **a-shiketoko**
 ア・シケトコ
 我・目先
 私の目の前が
- 200 **raikosanu.**
 ライコサヌ。
 くらむ
 急に暗くなった。
- 201 **Tane bakno**
 タネ バクノ
 今 まで
 今まで
- 202 **tumi ka ta**
 トゥミ カ タ
 戦い 上 (場所)
 戦いの最中に
- 203 **pirika ike**
 ピリカ イケ
 良い こと
 美しい者を
- 204 **boronno**
 ボロンノ
 たくさん
 たくさん
- 205 **a-nukar be**
 ア・ヌカラ ベ
 我・見る もの
 見てきたものが
- 206 **menoko ne a koroka**
 メノコ ネ ア コロカ
 女 (繫辞類) (完了) (逆接)
 女性であったが、
- 207 **ene kane okai**
 エネ カネ オカイ
 このように (程度) ある
 このような
- 208 **pirika menoko**
 ピリカ メノコ
 良い 女
 美しい女性を
- 209 **shinep ka**
 シネプ カ
 一つ も
 一人も
- 210 **somo a-nukar rok i**
 ソモ ア・ヌカラ ロク イ
 (否定) 我・見る (完了) こと
 見たことがなかったのに、
- 211 **nei ta okai wa**
 ネイ タ オカイ ワ
 どこ (場所) ある (接続)
 どこに暮らして

p. 5

- 212 **oasurkeshta**
オアスルケシタ
噂の端に
噂の端すらも
- 213 **kokishnu rok be**
コキシヌ ロク ベ
静まる (完了) もの
聞こえてこないもの
- 214 **okai nankor a,**
オカイ ナンコラ、
ある だろう か
であろうか、
- 215 **pom menoko**
ポム メノコ
小さい 女
若い娘 (であって)
- 216 **chitomteresu p**
チトムテレス プ
立派に育てられる もの
美しく育てられた者
- 217 **chiararesu p**
チアラレス プ
大切に育てられる もの
立派に育てられた者
- 218 **sone kusu**
ソネ クス
らしく (理由・目的)
であるらしく、
- 219 **kani chikirbe**
カニ チキリベ
黄金 刺繍衣
こがねの刺繍衣
- 220 **kamui chikirbe**
カムイ チキリベ
神 刺繍衣
みごとな刺繍衣で
- 221 **etumankashi-**
エトゥマムカシ・
身体の上
体の表面を
- 222 **koirkutomne.**
コイリクトムネ。
覆う
覆っている。
- 223 **Attapkashi**
アッタプカシ
片方の肩の上
片側の肩の上に
- 224 **shikush rayochi**
シクシ ラヨチ
日差し 虹
光を帯びた虹 (があり)
- 225 **attapkashi**
アッタプカシ
片方の肩の上
片側の肩の上に
- 226 **ekai rayochi**
エカイ ラヨチ
半折れの 虹
頭の折れた虹が
- 227 **chieomare**
チエオマレ
入る
かかっており、
- 228 **kimuikashi ta**
キムイカシ タ
頭上 (場所)
それが頭上で
- 229 **unottasare.**
ウノッタサレ。
喉を交叉させあう
交叉している。
- 230 **Kamui otobi**
カムイ オトビ
神 髪
みごとな頭髮は
- 231 **sarambe ka ne**
サラムベ カネ
絹 糸 (繫辞類)
絹の糸のように
- 232 **ekimuikashi**
エキムイカシ
頭上
頭上を
- 233 **chiesurure.**
チエスルレ。
覆う
覆っている。

背鰭長の鯨

- 234 **Reuboki ta**
レウボキ タ
下 (場所)
その下には
- 235 **kamui sannanu**
カムイ サンナヌ
神 顔
神々しい顔が
- 236 **rik oma chup ne**
リク オマ チュプ ネ
高所 ある 日 (繫辞類)
高く昇った太陽のように
- 237 **i-nantasare.**
イ・ナントサレ。
我・返す
私の顔に照りかえす。
- 238 **Nubur be sone**
ヌブル ベ ソネ
霊力が強い もの らしく
霊能力にすぐれた者らしく
- 239 **nubutchannoye**
ヌブッチャンノイエ
霊能力
霊能力を
- 240 **eshirutom ta**
エシルトム タ
みずからの身体の中 (場所)
身体の中に
- 241 **nuina kane.**
ヌイナ カネ。
隠す (音節調整)
隠している。
- 242 **Sara turem be**
サラ トゥレム ベ
姿を現す 憑く もの
姿をあらわしている憑き神は
- 243 **kabap sai kunne**
カバパ サイ クンネ
蝙蝠 輪 ように
蝙蝠の群れのように
- 244 **esermakkashi**
エセレマクカシ
背後
(娘の) 背後で
- 245 **earutasa.**
エアルタサ。
交叉する
飛び交っている。
- 246 **Mukke turem be**
ムクケ トゥレム ベ
姿を隠す 憑く もの
姿を隠している憑き神は
- 247 **nochiu kiyai ne**
ノチウ キヤイ ネ
星 光 (繫辞類)
星のきらめきのように
- 248 **esermakkashi**
エセレマクカシ
背後
背後で
- 249 **ekiyaiomaoma.**
エキヤイオマオマ。
またたく
輝いている。
- 250 **Nep ba*⁵ shino**
ネプ バ シノ
何 上 まことに
(娘は) 何かひどく
- 251 **eimokir kuni p**
エイモキリ クニ プ
嘆く べき もの
悲しむことが
- 252 **okai nankor a,**
オカイ ナンコラ、
ある だろう か
あるのか、
- 253 **hushkotoi wano**
フシコトイ ワノ
以前 から
長い間
- 254 **chish be ne kusu**
チシ ベ ネ クス
泣く もの (繫辞類) (理由・目的)
泣いたものだから
- 255 **shikrap emko**
シクラフ エムコ
まつげ 半分
まつげが半分しか

p. 6

*⁵ 副助詞の **ka** が先行する子音に同化した形。

- 256 kootukukke kane.*6
 コオトウククケ カネ。
 末端が出る (程度)
 出ていない。
- 257 Ki p ne koroka
 キ ッ ネ コロカ
 するもの (繫辞類) (逆接)
 そうではあるが、
- 258 kusu ne wa
 クス ネ ワ
 (理由・目的) (繫辞類) (接続)
 そのために
- 259 wen ruwe ka isam.
 ウエン ルウエ カ イサム。
 悪い跡も無い
 醜い姿となっている訳ではない。
- 260 Ene wa boka
 エネ ワ ボカ
 このように (接続) さえ
 どうにも
- 261 a-reka i ka
 ア・レカ イ カ
 我・ほめる こと も
 称賛することが
- 262 oarar isam.
 オアララ イサム。
 全く 無い
 できないほど (美しい)。
- 263 Kamui shiri ne okai.
 カムイ シリ ネ オカイ。
 神 様子 (繫辞類) ある
 まことに神々しい様子である。
- 264 Tu okne ibor
 トウ オクネ イボロ
 二つの 悲しむ 顔色
 二つの悲しみの表情、
- 265 re okne ibor
 レ オクネ イボロ
 三つの 悲しむ 顔色
 三つの悲しみの表情を
- 266 enuratkire
 エヌラツキレ
 顔に浮かべる
 顔に浮かべ、
- 267 shineanibo
 シネアニボ
 一個所
 一点を
- 268 shikomare
 シコマレ
 見つめる
 見つめ
- 269 kane okai.
 カネ オカイ。
 (同時) ある
 ている。
- 270 Harkisotta am be
 ハラキソツタ アム ベ
 左座に ある もの
 左座にいる者を
- 271 a-kourarchari wa
 ア・コウララチャリ ワ
 我・靄を散らす (接続)
 私は靄を散らして
- 272 inkar-an ko
 インカラ・アン コ
 見る・我 (条件)
 見ると、
- 273 ne yakka
 ネ ヤッカ
 (繫辞類) (譲歩)
 その者も
- 274 sonno
 ソンノ
 真に
 まことに (美しく)
- 275 huihuina wano
 フイフイナ ワノ
 隅々 から
 どこもかしこにも
- 276 a-reka koroka
 ア・レカ コロカ
 我・ほめる (逆接)
 私は感嘆するが、

*6 shikrap emko koetukke kane は「まぶたが腫れているので半分しか見えないさま」とされる (ユ集 III,P.87)。なお、原ノートでは kootukke と表記されている。

背鰭長の鯨

- 277 **etu mekka ta**
 エトウ メツカ タ
 鼻 折り山 (場所)
 鼻筋に
- 278 **isam korachi**
 イサム コラチ
 無い ように
 ほんの少し
- 279 **ponno ushshiu mimtum**
 ポンノ ウシシウ ミムトウム
 少し 召使い 肌
 下僕の肌色が
- 280 **iyeeunu p**
 イイエウス プ
 つく もの
 現れている娘
- 281 **ne koroka**
 ネ コロカ
 (繫辞類) (逆接)
 ではあるが、
- 282 **sonno shiretokkor**
 ソンノ シレトクコロ
 真に 美しい
 まことに美しい
- 283 **pom matushiu**
 ポム マトウシウ
 小さい 召使いの女
 召使いの娘
- 284 **ne noine**
 ネ ノイネ
 (繫辞類) らしく
 であるように
- 285 **a-ramu.**
 ア・ラム。
 我・思う
 私は思った。
- 286 **Seenne nak sui**
 セエンネ ナク スイ
 (否定) (?) 再び
 すると、よもや
- 287 **hawash kuni**
 ハワシ クニ
 言われる すべきこと
 そのように言うとは
- 288 **a-ramu rok i**
 ア・ラム ロク イ
 我・思う (完了) こと
 思わなかったが、
- 289 **shisotta an**
 シソッタ アン
 右座に ある
 右座にいる
- 290 **pom menoko**
 ポム メノコ
 小さい 女
 娘は
- 291 **itak ne manu p**
 イタク ネ マヌ プ
 言葉 (繫辞類) という もの
 言葉 (を発し)
- 292 **ehautumkonna-**
 エハウトウムコンナ・
 声の中
 その声が
- 293 **uwetunuisse.**
 ウウエトウヌイセ。
 美しく響く
 美しく響く。
- 294 **Ene okai i:—**
 エネ オカイ イー
 このように ある こと
 そして、このように言った。
- 295 **“Koninkar kusu**
 「コニンカラ クス
 さて (理由・目的)
 「さてさて、
- 296 **Tomisambechi**
 トミサムベチ
 (地名)
 トミサンベチ、
- 297 **Shinutapka ta**
 シヌタプカ タ
 (地名) (場所)
 シヌタプカの
- 298 **Yaunkuru kamui**
 ヤウンクル カムイ
 内地人 神
 ヤウンクルよ、

p. 7

- 299 ahup wa i-kore
 アフア ワ イ・コレ
 入る (接続) 我・与える
 中に入って
- 300 kunak ramu yan.
 クナク ラム ヤン。
 (引用) 思う (命令)
 ください。
- 301 Ishikibipka
 イシキビツカ
 目をびくびくさせる
 目をびくびくさせて
- 302 hembara bakno
 ヘムバラ バクノ
 いつ まで
 いつまで
- 303 ene chiyainukare
 エネ チヤイヌカレ
 このように みずから見る
 そのように見つめて
- 304 i-y-ekarkar wa
 イ・イエカラカラ ワ
 我・する (接続)
 おられる
- 305 ene shiran i ta an?」
 エネ シラニ タ アン?」
 この 有様である こと これ ある
 のですか。」
- 306 ari hawash chiki
 アリ ハワシ チキ
 (引用) 言われる (条件)
 このように言われて、
- 307 yayikush keutum
 ヤイクシ ケウトウム
 悔しい 心
 恥しい気持ち
- 308 shiyoro keutum
 シヨロ ケウトウム
 驚く 心
 驚きの気持ちを
- 309 a-yaikore.
 ア・ヤイコレ。
 我・みずから持つ
 私は抱いた。
- 310 Tanebo ek be
 タネボ エク ベ
 今 来る もの
 今やって来た者
- 311 a-shikobayar
 ア・シコバヤラ
 我・見せかける
 であるかのように、
- 312 burai reubok wa
 ブライ レウボク ワ
 窓 下 から
 窓の下から
- 313 chep shikiru
 チェプ シキル
 魚 振り向く
 魚が向きを変える
- 314 a-shikobayar
 ア・シコバヤラ
 我・見せかける
 ようにして (離れ)
- 315 chise sam ka ta
 チセ サム カ タ
 家 そば 上 (場所)
 家の側の上で
- 316 a-tumbamaikan-
 ア・トゥムバマイカン・
 我・鐙の音
 私の鐙の音が
- 317 tununitara.
 トウヌニタラ。
 美しい音が響く
 鳴り響く。
- 318 Mosem tuyor
 モセム トウヨロ
 玄関納屋 中
 玄関の方へ
- 319 a-oshikiru
 ア・オシキル
 我・まわる
 私はまわり
- 320 ratki aba
 ラッキ アバ
 垂れ下がった 簾戸
 垂れ下がった簾戸を

背鰭長の鯨

- 321 **a-moirechaka.**
ア・モイレチャカ。
我・ゆっくり開ける
ゆっくりと開けた。
- 322 **Mintar ka ta**
ミンタラ カ タ
土間 上 (場所)
土間の上に
- 323 **imeru tura**
イメル トウラ
光 とともに
光とともに
- 324 **urar tura**
ウララ トウラ
霧 とともに
霧とともに
- 325 **a-rutkosanu.**
ア・ルッコサヌ。
我・押し入る
私は入った。
- 326 **Tu pon menoko**
トゥ ポン メノコ
二つの 小さい 女
二人の娘は
- 327 **oribak rui be**
オリバク ルイ ベ
畏まる 激しい もの
ひどく畏まって
- 328 **kone p ne kusu**
コネ プ ネ クス
である もの (繫辞類) (理由・目的)
おり、
- 329 **kurka konna**
クルカ コンナ
上 は
表情が
- 330 **uyanitara.**
ウヤニタラ。
こわばっている
こわばっている。
- 331 **Hoka etok ta**
ホカ エトク タ
炉 前方 (場所)
炉の上座に
- 332 **a-an hum konna**
ア・アン フム コンナ
座る・我 音 こそ
私が座る音が
- 333 **naikosanu.**
ナイコサヌ。
鳴り響く
あたりに響いた。
- 334 **Pom menoko utar**
ポム メノコ ウタラ
小さい 女 たち
若い娘たちは
- 335 **otop chinki**
オトプ チンキ
髪 裾
(顔を伏せて) 髪の毛を
- 336 **eshitchiure wa**
エシッチウレ ワ
頭を下げる (接続)
床に着けて
- 337 **okai rok ine**
オカイ ロク イネ
ある (完了) (接続) どこ
おり、しばらくして、
- 338 **oshiso un ambe**
オシソ ウン アムベ
右座 ある あるもの
右座にいる娘が
- 339 **kanru chinki**
カンル チンキ
髪 裾
髪の毛を
- 340 **usaraiba.**
ウサライバ。
分ける
かき分けた。
- 341 **Kamui sannanu**
カムイ サンナヌ
神 顔
神々しい顔が
- 342 **chise upsoro**
チセ ウプソロ
家 内部
家の中で

- 343 eemakkosanu.
エエマクコサヌ。
輝く
輝く。
- 344 Tap shisam un
タップ シサム ウン
これ 自分の側 (方向)
間近で
- 345 a-nukar be
ア・ヌカラ ベ
我・見る もの
見たものだが、
- 346 mashkin
マシキン
ますます
ますます
- 347 ene wa boka
エネ ワ ボカ
このように (接続) さえ
どうにも
- 348 a-reka i ka
ア・レカ イ カ
我・ほめる こと も
称賛しようが
- 349 isam kane.
イサム カネ。
無い (音節調整)
ないほど (美しい)。
- 350 I-kohebuni
イ・コヘブニ
我・頭を上げる
私に対して顔を上げ、
- 351 ene an kamui
エネ アン カムイ
このように ある 神
このような神
- 352 ene am bito
エネ アム ビト
このように ある 人
このような人が
- 353 hem shiehose
ヘム シエホセ
(否定) みずからに背を向ける
自分をさしおいて
- 354 nep kamuye
ネプ カムイエ
何 神
どのような神
- 355 konep bitoho
コネプ ビトホ
何 人
どのような人を
- 356 koshikebumba p
コシケブムバ プ
見上げる もの
目撃したというの
- 357 ikichi nankor a,
イキチ ナンコラ、
する だろう か
であろうか、
- 358 tu urar ikkeu
トゥ ウララ イクケウ
二つの 霧 元
二つの霏の根元
- 359 re urar ikkeu
レ ウララ イクケウ
三つの 霧 元
三つの霏の根元を
- 360 i-kochari.
イ・コチャリ。
我・散らす
私に対して散らした。
- 361 Ainu kat ne
アイヌ カツ ネ
人間 姿 (繫辞類)
人間の姿に
- 362 i-kar-an kuni
イ・カラ・アン クニ
我・される ように
されないように
- 363 wen turaisam
ウエン トウライサム
悪い (不明)
私は懸命に
- 364 a-i-y-ekote
ア・イ・イエコテ
我・結び付けられる
なつて

背鰭長の鯨

- 365 tu nishte urar
トウ ニシテ ウララ
二つの かたい 霧
二つの強固な霧
- 366 re nishte urar
レ ニシテ ウララ
三つの かたい 霧
三つの強固な霧を
- 367 a-shiokarire.
ア・シオカリレ。
我・めぐらせる
めぐらせた。
- 368 Hushkotoi wano
フシコトイ ワノ
以前 から
長い間
- 369 i-kourarchari aine
イ・コウラヲチャリ アイネ
我・霧を散らす (接続)
(娘は) 私に対して霧を散らし、
- 370 tanebo konna
タネボ コンナ
今こそ
ようやく
- 371 a-annankashi
ア・アンナンカシ
我・横顔の上
私の横顔を
- 372 koshikraiba p
コシクライバ プ
目撃する もの
目撃すると、
- 373 kan ibor kashi
カン イボロ カシ
上 顔色 上
顔色を
- 374 koraikosamba
コライコサムバ
蒼ざめる
変えて
- 375 i-tukarikepo
イ・トゥカリケポ
我・手前
私の手前に
- 376 koshikerana-
コシケラナ・
目を低く
視線を落として
- 377 atte kane.
アッテ カネ。
たたせる (音節調整)
いる。
- 378 Ikichi aine
イキチ アイネ
する (接続)
しばらくして
- 379 yupke rampo
ユフケ ラムポ
強い 心
(娘は) 心を強く
- 380 yaikorbare
ヤイコロバレ
みずから持つ
保ち、
- 381 ene itak hi:—
エネ イタク ヒー
このように 言う こと
次のように語った。

1.4 ポイヤウンペの出自—シレ ブンサンタの娘の語り

- 382 “Koninkar kusu
「コニンカラ クス
さて (理由・目的)
「さてさて、
- 383 kamui rametok
カムイ ラメトク
神 勇者
神のような勇者よ、
- 384 itak-an chiki
イタク・アン チキ
言う・我 (条件)
話しますから
- 385 pirikano nu wa
ピリカノ ヌ ワ
良く 聞く (接続)
よく聞いて

- 386 **i-kore yan.**
イ・コレ ヤン。
我・与える (命令)
ください。
- 387 **Tan a-kor kotan**
タン ア・コロ コタン
この 我・もつ 村
この私たちの村の
- 388 **reikor katu**
レイコロ カトゥ
名前をもつ 様子
名前は
- 389 **Shirebunsanta**
シレブンサンタ
(地名)
シレブンサンタ
- 390 **ne ruwe ne.**
ネ ルウェ ネ。
(繫辞類) 跡 (繫辞類)
というのです。
- 391 **Shirebunsantaunkuru**
シレブンサンタウクル
シレブンサンタ人
シレブンサンタ人は
- 392 **tu irwak ne wa**
トゥ イリワク ネ ワ
二つの 兄弟 (繫辞類) (接続)
二人の兄弟と
- 393 **tu turesh ne wa**
トゥ トウレシ ネ ワ
二つの 妹 (繫辞類) (接続)
二人の姉妹で、
- 394 **poniune mat**
ポニウネ マツ
年下である 女
私は年下の娘
- 395 **a-ne wa**
ア・ネ ワ
我・である (接続)
であり、
- 396 **pon ram orwano**
ボン ラム オロワノ
小さい 心 (始点)
幼少の頃から
- 397 **teta tan**
テタ タン
ここで この
ここにいる
- 398 **pon matushiu tura**
ボン マトウシウ トウラ
小さい 召使いの女 とともに
召使いの娘と
- 399 **tun a-ne wa**
トゥン ア・ネ ワ
二人 我・である (接続)
二人で
- 400 **shino**
シノ
まことに
とても
- 401 **uwekatarotke-an wa**
ウウェカタロツケ・アン ワ
仲がいい・我 (接続)
仲良く
- 402 **shikup-an koro**
シクフ・アン コロ
育つ・我 (同時)
成長して
- 403 **an-an.**
アナン。
いる・我
きました。
- 404 **Pon ram orwano**
ボン ラム オロワノ
小さい 心 (始点)
幼少の頃から
- 405 **ochiu tushupo**
オチウ トウシュポ
姦通 巫術
下らぬ巫術
- 406 **kinin tushupo**
キニン トウシュポ
淫乱 巫術
取るにたらぬ巫術で
- 407 **eyaishikkashima p**
エヤイシクカシマ プ
みずから守る もの
自らを守っている者

p. 9

背鰭長の鯨

- 408 a-ne kusu
ア・ネ クス
我・である (理由・目的)
ですから
- 409 inkar-an ko
インカラ・アン コ
見る・我 (条件)
(ある時に) 見ていると、
- 410 Tomisambechi
トミサムベチ
(地名)
トミサンベチ
- 411 Shinutapka ta
シヌタプカ タ
(地名) (場所)
シヌタプカの
- 412 e-kor ainu
エ・コロ アイヌ
汝・持つ 父
あなたの父親は
- 413 ainu bito
アイヌ ビト
人間 人
人間では
- 414 iki korkaiki
イキ コロカイキ
する (逆接)
ありますが
- 415 kon rametok
コン ラメトク
持つ 勇者
その勇氣、
- 416 koro bawetok
コロ バウエトク
持つ 雄弁
その弁舌、
- 417 koro shiretok
コロ シレトク
持つ 美貌の人
その容貌は
- 418 kamui ot ta hene
カムイ オツ タ ヘネ
神 所 (場所) も
神々のところでも
- 419 ainu ot ta hene
アイヌ オツ タ ヘネ
人間 所 (場所) も
人間のところでも
- 420 ebetturashi p
エベットウラシ プ
匹敵する もの
並ぶ者が
- 421 shinen ka isam.
シネン カ イサム。
一人 も いない
一人もいません。
- 422 Tam be kusu
タム ベ クス
この もの (理由・目的)
そして、
- 423 kanto ot ta
カント オツ タ
天 所 (場所)
天界では
- 424 horkeu kamui
ホロケウ カムイ
狼 神
狼の神が⁶ (いて)
- 425 yayirwakikoro
ヤイリワキコロ
兄弟がいない
兄弟がおらず、
- 426 shine turesh ne wa
シネ トウレシ ネ ワ
一つの 妹 (繫辞類) (接続)
一人の妹がおり、
- 427 nei kamui menoko
ネイ カムイ メノコ
その 神 女
その妹は
- 428 e-kor ainu
エ・コロ アイヌ
汝・持つ 父
あなたの父親を
- 429 arkatetokomare^{*7} wa
アラカテトコマレ ワ
気に入る (接続)
気に入って、

- 430 **chise turanno**
チセ トウランノ
家 とともに
家とともに
- 431 **ikot turanno**
イコツ トウランノ
宝物 とともに
宝物とともに
- 432 **Tomisambechi**
トミサムベチ
(地名)
トミサンベチ
- 433 **Shinutapkashi**
シヌタツカシ
(地名)
シヌタヅカに
- 434 **chioranke*⁸ wa**
チオランケ ワ
降りる (接続)
降り立って
- 435 **uhekotpa.**
ウヘコツパ。
連れ添う
夫婦となりました。
- 436 **Eani newa**
エアニ ネワ
汝 と
そしてあなたと
- 437 **e-akihi**
エ・アキヒ
汝・弟
あなたの弟の
- 438 **tun echi-ne wa**
トゥン エチ・ネ ワ
二人 汝ら・である (接続)
二人を
- 439 **ukosapte.**
ウコサツテ
産む
産みました。
- 440 **Eani anakne**
エアニ アナクネ
汝 は
あなたは
- 441 **tane**
タネ
今
もう
- 442 **e-apkash kane.**
エ・アツカシ カネ。
汝・歩く (音節調整)
歩けるほどになりました。
- 443 **E-akihi anakne**
エ・アキヒ アナクネ
汝・弟 は
あなたの弟は
- 444 **yarbekoteine p ne wa**
ヤラベコテイネ プ ネ ワ
おしめと共に濡れる もの (繫辞類) (接続)
おしめと共に濡れた赤子でしたから
- 445 **kamui e-kor totto**
カムイ エ・コロ トット
神 汝・持つ 母
神であるあなたの母親が
- 446 **kai.**
カイ。
背負う
背負っていました。
- 447 **Eani anakne**
エアニ アナクネ
汝 は
あなたは
- 448 **e-kor ainu**
エ・コロ アイヌ
汝・持つ 父
父親に
- 449 **e-teke**
エ・テケ
汝・手
手を
- 450 **ani kane.**
アニ カネ。
手に持つ (音節調整)
引かれていました。

*7 原ノートでは Arkatek omare と表記されている。

*8 始め chiorapte と書かれたが chioranke に訂正されている。

背鰭長の鯨

- 451 **Kamui chihoki**
カムイ チホキ
熊 毛皮
(あなたの父親は) 熊の皮や
- 452 **yuk chihoki**
ユク チホキ
鹿 毛皮
鹿の皮を
- 453 **boronno**
ボロンノ
たくさん
たくさん
- 454 **chib ekusa wa**
チベクサ ワ
舟 積む (接続)
舟に積んで
- 455 **uimam^{*9} kusu**
ウイマム クス
交易をする (理由・目的)
交易をするために
- 456 **tono moshiri**
トノ モシリ
殿 国土
和人の国へ
- 457 **ochipnere.**
オチプネレ。
舟を出す
舟を出しました。
- 458 **Yankekarapto**
ヤンケカラプト
(地名)
ヤンケカラプトの
- 459 **repke kush i ta hene**
レプケ クシ タ ヘネ
沖 通る とき (場所) も
沖を通った時にも
- 460 **Rebunkarapto**
レブンカラプト
(地名)
レブンカラプトの
- 461 **repke kush i ta hene**
レプケ クシ タ ヘネ
沖 通る とき (場所) も
沖を通った時にも
- 462 **inau ari**
イナウ アリ
木幣 で
木幣で
- 463 **ikor ari**
イコロ アリ
宝物 で
宝物で
- 464 **a-nusuiba koroka**
ア・ヌスイバ コロカ
招かれる (逆接)
招かれましたが、
- 465 **kama baye wa**
カマ バイエ ワ
越える 行く (接続)
通り過ぎて
- 466 **uimam kusu**
ウイマム クス
交易をする (理由・目的)
交易をするために
- 467 **sake usa**
サケ ウサ
酒 (譲歩)
酒や
- 468 **amam hene**
アマム ヘネ
穀物 も
穀物や
- 469 **nep ne yakka**
ネプ ネ ヤッカ
何 (繫辞類) (譲歩)
何であれ
- 470 **tono orowa**
トノ オロワ
殿 (始点)
和人の殿様から
- 471 **pirika p batek**
ピリカ プ バテク
良い もの のみ
良いものばかりを
- 472 **boronno boronno**
ボロンノ ボロンノ
たくさん たくさん
たくさん

p. 10

*9 原ノートでは uimap と表記されている。

- 473 a-korbare wa
ア・コロバレ ワ
我・与える (接続)
受け取って
- 474 yap i ta
ヤブ イ タ
上陸する とき (場所)
帰る時に
- 475 sui Rebunkarapto ta
スイ レプンカラプト タ
再び (地名) (場所)
再びレプンカラプトで
- 476 a-nusuiba ko
ア・ヌスイバ コ
招かれる (条件)
招かれると、
- 477 kamui e-kot totto
カムイ エ・コツ トット
神 汝・持つ 母
神であるあなたの母親は
- 478 oar oar
オアラ オアラ
全く 全く
ひどく
- 479 yan ekatubase
ヤン エカトゥバセ
上陸する 嫌がる
立ち寄るのを嫌がり
- 480 yan kuni
ヤン クニ
上陸する すべきこと
立ち寄るのを
- 481 koban koroka
コバン コロカ
嫌がる (逆接)
拒んだのですが、
- 482 e-kor ainu
エ・コロ アイヌ
汝・持つ 父
あなたの父親は
- 483 ene itak i:—
エネ イタキ —
このように 言う こと
このように言いました。
- 484 'Hushkotoi wano
『フシコトイ ワノ
以前 から
『昔から
- 485 kamui ka tapne
カムイ カ タプネ
神 も これである
神々もこのように
- 486 akkari p
アッカリ プ
まさる もの
通り過ぎることを
- 487 somo ki p
ソモ キ プ
(否定) する もの
しないものが
- 488 inau ne
イナウ ネ
木幣 (繫辞類)
木幣であり
- 489 ikor ne awa
イコロ ネ アワ
宝物 (繫辞類) (展開)
宝物であるが、
- 490 otusuianta
オトゥスイアンタ
二回
二度も
- 491 oresuianta
オレススイアンタ
三回
三度も
- 492 heru ainu
ヘル アイヌ
ただの 人間
ただの人間である
- 493 a-ne wa
ア・ネ ワ
我・である (接続)
私が
- 494 i-nusuiba-an ko
イ・ヌスイバ・アン コ
我・招かれる (条件)
招かれたのだから、

背鰭長の鯨

- 495 **akkari**
 アツカリ
 まさる
 これ以上
- 496 **yap-an yakne**
 ヤブ・アン ヤクネ
 上陸する・我 (条件)
 通り過ぎて帰るのは
- 497 **wen nankor.**
 ウェン ナンコロ。
 悪い だろう
 良くないだろう。
- 498 **Shirkush-an kusu ne.'**
 シルクシ・アン クス ネ。』
 立ち寄る・我 (理由・目的) (繫辞類)
 私は立ち寄るつもりだ。』
- 499 **ari itak koroka**
 アリ イタク コロカ
 (引用) 言う (逆接)
 と (あなたの父親は) 言いましたが、
- 500 **kamui e-koro tutto**
 カムイ エ・コロ トット
 神 汝・持つ 母
 神であるあなたの母親は
- 501 **oar koban wa**
 オアラ コバン ワ
 全く 嫌がる (接続)
 立ち寄るのを拒んで
- 502 **utasa chibo.**
 ウタサ チボ。
 交わる 舟を漕ぐ
 異なる方向に舟を漕ぎました。
- 503 **E-kor ainu**
 エ・コロ アイヌ
 汝・持つ 父
 あなたの父親は
- 504 **herebashi chibo**
 ヘレバシ チボ
 沖へ 舟を漕ぐ
 沖へ顔を向けて (陸へ) 舟を漕ぎ、
- 505 **e-koro tutto**
 エ・コロ トット
 汝・持つ 母
 あなたの母親は
- 506 **heyashi chibo aine**
 ヘヤシ チボ アイネ
 陸へ 舟を漕ぐ (接続)
 陸へ顔を向けて (沖へ) 舟を漕いだあげく、
- 507 **e-kot tutto**
 エ・コツ トット
 汝・持つ 母
 あなたの母親は
- 508 **menoko ne kusu**
 メノコ ネ クス
 女 (繫辞類) (理由・目的)
 女性ですから、
- 509 **tuima shit ta**
 トウイマ シツ タ
 遠い 場所 (場所)
 とても
- 510 **e-kor ainu**
 エ・コロ アイヌ
 汝・持つ 父
 あなたの父親に
- 511 **monbokashte.**
 モンボカシテ。
 劣る
 かないません。
- 512 **Ramu a-ekaye hine**
 ラム ア・エカイエ ヒネ
 思う 折られる (接続)
 そこで、嫌々ながら
- 513 **Rebunkarapto**
 レブンカラプト
 (地名)
 レブンカラプトに
- 514 **chioyapte.**
 チオヤプテ。
 上陸する
 上陸しました。
- 515 **Rebunkarapto**
 レブンカラプト
 (地名)
 レブンカラプトの
- 516 **un rup newa**
 ウン ルフ ネワ
 ある 集団 と
 人々と

p. 11

- 517 **Yankekarapto**
 ヤンケカラプト
 (地名)
 ヤンケカラプトの
- 518 **un rup**
 ウン ルフ
 ある 集団
 人々は
- 519 **ukosai wa**
 ウコサイ ワ
 団結する (接続)
 結託して、
- 520 **tono moshit ta**
 トノ モシツ タ
 殿 国土 (場所)
 和人の国に
- 521 **echi-okai**
 エチ・オカイ
 汝ら・いる
 あなたたちがいる
- 522 **raboki ta**
 ラボキ タ
 間 (場所)
 間に
- 523 **sake kar**
 サケ カラ
 酒 作る
 酒を造り
- 524 **shurku sake**
 シュルク サケ
 毒 酒
 毒の酒を
- 525 **shinnai kane**
 シンナイ カネ
 違った (音節調整)
 別に
- 526 **kar wa**
 カラ ワ
 作る (接続)
 造って、
- 527 **e-onaha**
 エ・オナハ
 汝・父親
 あなたの父親 (の帰り) を
- 528 **etoko ush wa**
 エトコ ウシ ワ
 前方 ある (接続)
 待ち構えて
- 529 **e-kor ainu**
 エ・コロ アイヌ
 汝・持つ 父
 あなたの父親を
- 530 **raike yakne**
 ライケ ヤクネ
 殺す (条件)
 殺したら、
- 531 **nep ka moshma**
 ネプ カ モシマ
 何 も ほか
 何も他に
- 532 **shitoma p ka**
 シトマ プ カ
 恐ろしい もの も
 恐ろしいことも
- 533 **isam kusu**
 イサム クス
 無い (理由・目的)
 ないのだから、
- 534 **Tomisambechi**
 トミサムベチ
 (地名)
 トミサンベチ
- 535 **Shinutapkashi**
 シヌタプカシ
 (地名)
 シヌタプカに
- 536 **attumunchi**
 アットゥムンチ
 激しい戦闘
 激しい戦闘
- 537 **anrorumbe**
 アンロルムベ
 激しい戦い
 激しい戦いを
- 538 **oyapte wa**
 オヤプテ ワ
 上陸させる (接続)
 巻き起こして、

背鰭長の鯨

- 539 fushkotoi wano
フシコトイ ワノ
長い間 から
昔から
- 540 Tomisambechi
トミサムベチ
(地名)
トミサンペチの
- 541 bentapkashi
ベンタプカシ
頂きの上
高みで
- 542 koasuruash be
コアスルアシ ベ
噂がたつ もの
名高いもの
- 543 kamui korobe
カムイ コロベ
神 持つ物
(すなわち) 神宝を
- 544 eikka wa
エイクカ ワ
盗む (接続)
盗み出し、
- 545 'Karapto kotan
『カラプト コタン
カラプト(地名) 村
『カラプトの村へ
- 546 a-ose wa
ア・オセ ワ
我・背負う (接続)
背負って行って
- 547 an-kousaraye wa
アン・コウサライエ ワ
我・分配する (接続)
分配して
- 548 a-koro yakne
ア・コロ ヤクネ
我・もつ (条件)
所有すれば、
- 549 bes or un chashi
ベシ オロ ウン チャシ
断崖 所 ある チャシ
断崖にある館の
- 550 upsoroho
ウフソロホ
内部
中で
- 551 a-emokonno
ア・エモコンノ
我・よく眠る
よく眠る
- 552 semkorachi ne
セムコラチ ネ
まるで(する)ように (繫辞類)
かのように
- 553 a-epirika
ア・エピリカ
我・よくなる
安心できる
- 554 kusu ne.
クス ネ。』
(理由・目的) (繫辞類)
だろう。』
- 555 ari okai be
アリ オカイ ベ
(引用) ある もの
ということ
- 556 eukoramkoro wa
エウコラムコロ ワ
相談する (接続)
共謀して、
- 557 ene okai
エネ オカイ
このように ある
そのような
- 558 a-shitoma*10 buri
ア・シトマ ブリ
恐ろしい 行い
恐ろしい振る舞いを
- 559 kichi i ne.
キチ イ ネ。
する こと (繫辞類)
したのです。
- 560 E-kor ainu
エ・コロ アイヌ
汝・持つ 父
あなたの父親は

*10 原ノートでは Ashtoma と表記されている。

p. 12

- 561 a-sakeekoiki aine
ア・サケエコイキ アイネ
酒で酔わされる (接続)
酒で酔わされて
- 562 ihoshki ko
イホシキ コ
酔う (条件)
酔ってしまうと、
- 563 surku sake
スルク サケ
毒 酒
(さらに) 毒の酒で
- 564 a-ekoiki.
ア・エコイキ。
攻撃される
酔わされたのです。
- 565 Chip sambe ne p
チップ サムベ ネ プ
舟 心臓 (繫辞類) もの
そして、舟の魂である宝について
- 566 a-konu rusui*¹¹ awa
ア・コヌ ルスイ アワ
尋ねられる (欲求) (展開)
尋ねられた (?) のですが、
- 567 ihoshki p
イホシキ プ
酔う もの
酔っている
- 568 ne kusu
ネ クス
(繫辞類) (理由・目的)
ので、
- 569 'Karapto kotan
『カラプト コタン
カラプト (地名) 村
『カラプトの村の
- 570 utar omai*¹²
ウタラ オマイ
村人 宝壇
人々の宝壇が
- 571 neino an wa
ネイノ アン ワ
ように ある (接続)
同じようにあつて、
- 572 toitoi tura
トイトイ トウラ
土 ともに
土の魂とともに
- 573 a-i-kosanke ko anakne
ア・イ・コサンケ コ アナクネ
我・出される (条件) は
私に出してくれたなら、
- 574 chip sambe ne p
チップ サムベ ネ プ
舟 心臓 (繫辞類) もの
舟の魂であるものを
- 575 e-nukare-an
エ・ヌカレ・アン
汝・見せる・我
見せて
- 576 kusu ne.
クス ネ。』
(理由・目的) (繫辞類)
やろう。』
- 577 ari itak awa
アリ イタク アワ
(引用) 言う (展開)
と言うと、
- 578 nei ambe
ネイ アムベ
その あること
そのことから
- 579 otumioshma.
オトゥミオシマ。
戦いが生じる
戦いが始まりました。
- 580 Raboki ta
ラボキ タ
間 (場所)
その間に
- 581 e-kor ainu
エ・コロ アイヌ
汝・持つ 父
あなたの父親は

*¹¹ この個所の解釈については未詳。*¹² omai は「宝壇」とされる (ユ集 III, p.146)。

背鰭長の鯨

- 582 **surkubashte wa**
 スルクバシテ ワ
 毒がまわる (接続)
 毒にやられたまま
- 583 **tumikoro.**
 トウミコロ。
 戦う
 戦いました。
- 584 **Eani ne yakka**
 エアニ ネ ヤクカ
 汝 (繫辞類) (譲歩)
 あなたも
- 585 **chikai teinep**
 チカイ テイネブ
 背負われる 赤子
 まだ負ぶわれた赤子
- 586 **e-ne wa**
 エ・ネ ワ
 汝・である (接続)
 でしたが、
- 587 **e-tumikoro**
 エ・トウミコロ
 汝・戦う
 戦いました。
- 588 **Kamui e-kor tutto**
 カムイ エ・コロ トット
 神 汝・持つ 母
 神であるあなたの母親は
- 589 **bakkai kane.**
 バクカイ カネ。
 背負う (音節調整)
 赤子を背負っていました。
- 590 **Tumi ne yakka**
 トウミ ネ ヤクカ
 戦い (繫辞類) (譲歩)
 戦いの中でも
- 591 **a-shitoma*13 ike**
 ア・シトマ イケ
 恐ろしい こと
 恐ろしいものが
- 592 **kohobuni.**
 コホブニ。
 立ち上がる
 始まりました。
- 593 **Kunne hene**
 クンネ ヘネ
 夜 も
 夜も
- 594 **tokap hene**
 トカブ ヘネ
 昼 も
 昼も
- 595 **e-kor ainu**
 エ・コロ アイヌ
 汝・持つ 父
 あなたの父親は
- 596 **surkubashte koro**
 スルクバシテ コロ
 毒がまわる (同時)
 毒にやられたまま
- 597 **tumikoro aine**
 トウミコロ アイネ
 戦う (接続)
 戦ったあげく、
- 598 **shisak rametok**
 シサク ラメトク
 またとない 勇者
 またとない勇者 (なのに)
- 599 **tumunchi hontom**
 トウムンチ ホントム
 戦争 途中
 戦闘の最中に
- 600 **a-etuye.**
 ア・エトウイェ。
 斬られる
 斬り殺されました。
- 601 **Raboki ta**
 ラボキ タ
 間 (場所)
 その間に
- 602 **eani**
 エアニ
 汝
 あなたは
- 603 **shinnai kotan**
 シンナイ コタン
 違った 村
 別の村へ

*13 原ノートでは *Ashtoma* と表記されている。

- 604 e-shinoshbare-an.*¹⁴
 エ・シノシバレ・アン。
 汝・追われる
 追われてしまいました。
- 605 Kamui e-kor totto
 カムイ エ・コロ トット
 神 汝・持つ 母
 神であるあなたの母親は
- 606 shino irushka
 シノ イルシカ
 まことに 怒る
 激しく怒り
- 607 tushtek wa
 トウシテク ワ
 沈黙する (接続)
 狂い、
- 608 Rebunkarapto
 レブンカラプト
 (地名)
 レブンカラプト、
- 609 Yankekarapto*¹⁵
 ヤンケカラプト
 (地名)
 ヤンケカラプトを
- 610 wen toi kan toi
 ウェン トイ カン トイ
 悪い 土 上 土
 表土とともに
- 611 kokiru.*¹⁶
 コキル。
 荒らす
 ひっくり返して荒らしました(?)。
- 612 Tap orowa
 タブ オロワ
 これ (始点)
 そして
- 613 chish koro
 チシ コロ
 泣く (同時)
 泣きながら、
- 614 'Tane anakne
 『タネ アナクネ
 今 は
 『今はもう
- 615 a-i-y-ekeshke p
 ア・イ・イエケシケ プ
 我・ひどい仕打ちをうける もの
 嫉みを受けた
- 616 Tomisambechi
 トミサムベチ
 (地名)
 トミサンベチ
- 617 Shinutapka
 シヌタプカ
 (地名)
 シヌタプカ
- 618 ne kusu
 ネ クス
 (繫辞類) (理由・目的)
 であるから、
- 619 a-yaikesure
 ア・ヤイケスレ
 我・去る
 立ち去って
- 620 pon a-kor yubi
 ポン ア・コロ ユビ
 小さい 我・もつ 兄
 年若い私の兄の
- 621 tuima ruye
 トウイマ ルイエ
 遠い 足どり
 遠くの道のり
- 622 hanke ruye
 ハンケ ルイエ
 近い 足どり
 近くの道のりを
- 623 a-yaikarire.'
 ア・ヤイカリレ。』
 我・みずからたどる
 たどろう。』
- 624 ari itak koro
 アリ イタク コロ
 (引用) 言う (同時)
 と言って、

p. 13

*¹⁴ e-shinoshbare-an とならない理由については未詳。

*¹⁵ 原ノートでは karapo と表記されている。

*¹⁶ 以上二行の解釈については未詳。

背鰭長の鯨

- 625 **kamui or un**
カムイ オロ ウン
神 所 (方向)
神の世界へ
- 626 **ikesui.**
イケスイ。
去る
去りました。
- 627 **Kanto aba ot ta***17
カント アバ オツ タ
天 簾戸 所 (場所)
天界の入り口に
- 628 **oman i ta**
オマニ タ
行く とき (場所)
行った時に
- 629 **bakkai a i**
バツカイ ア イ
背負う (完了) こと
子供を背負っていたことを
- 630 **eshikarun kusu**
エシカルン クス
思い出す (理由・目的)
思い出し、
- 631 **seturu wa**
セトゥル ワ
背中 から
背中から
- 632 **e-aktonoke**
エ・アクトノケ
汝・弟君
あなたの弟君を
- 633 **ranke wa**
ランケ ワ
下ろす (接続)
降ろして
- 634 **aritaomap**
アリタオマップ
板綴舟
板綴舟に
- 635 **koshina wa**
コシナ ワ
縛る (接続)
縛り付け、
- 636 **ainu moshiri**
アイヌ モシリ
人間 国土
人間の世界、
- 637 **moshiri so kurka**
モシリ ソ クルカ
国土 平面 上
その世界の上に
- 638 **koeyapkiri koro**
コエヤヅキリ コロ
投げる (同時)
放り投げて
- 639 **ene itak i:—**
エネ イタキ —
このように 言う こと
このように言いました。
- 640 **‘Tane anakne**
『タネ アナクネ
今 は
『今、私は
- 641 **ainu moshiri**
アイヌ モシリ
人間 国土
人間の世界を
- 642 **a-koikesui.**
ア・コイケスイ。
我・立ち去る
立ち去ります。
- 643 **Kamui utara**
カムイ ウタラ
神 たち
神々よ、
- 644 **i-eramboken wa**
イ・エラムボケン ワ
我・憐れむ (接続)
私を憐れんで
- 645 **nekonka ne wa**
ネコンカ ネ ワ
どうにか (繫辞類) (接続)
どうにかして

*17 この後 **otta** と書かれているが線で抹消されている。

- 646 **tan a-poho**
タン ア・ポホ
この 我・子
この子を
- 647 **shikkashima wa**
シッカシマ ワ
見守る (接続)
守って
- 648 **i-kore yan.**
イ・コレ ヤン。
我・与える (命令)
ください。
- 649 **Kamui tomo**
カムイ トモ
神 中
神慮を
- 650 **a-ekokanu.*18**
ア・エコカヌ。』
我・何う
うかがいます。』
- 651 **ari itak koro**
アリ イタク コロ
(引用) 言う (同時)
と言って、
- 652 **toop kamui or un**
トオプ カムイ オロ ウン
ずっと遠く 神 所 (方向)
ずっと神の世界の方へ
- 653 **oman ruwe ne koroka**
オマン ルウェ ネ コロカ
行く 跡 (繫辞類) (逆接)
行ってしまったのですが、
- 654 **inkar-an ko**
インカラ・アン コ
見る・我 (条件)
私の見るところでは、
- 655 **e-koro ainu**
エ・コロ アイス
汝・持つ 父
あなたの父親が
- 656 **nomi kamui**
ノミ カムイ
祈る 神
祭っていた神々は
- 657 **inne yakka**
インネ ヤッカ
大勢である (譲歩)
大勢いるのですが、
- 658 **shine kamui ka**
シネ カムイ カ
一つの 神 も
一柱の神も
- 659 **hosari**
ホサリ
振り向く
振り向きは
- 660 **somo ki noine**
ソモ キ ノイネ
(否定) する らしく
しないように
- 661 **iramu-an.**
イラム・アン。
思う・我
思われました。
- 662 **Tam be kusu**
タム ベ クス
この もの (理由・目的)
そこで、
- 663 **heru ram ari**
ヘル ラム アリ
ただの 心 で
ただ思っただけで
- 664 **e-aktonoke**
エ・アクトノケ
汝・弟君
あなたの弟君
- 665 **yarbakoteine p**
ヤラベコテイネ プ
おしめと共に濡れる もの
おしめと共に濡れた者を
- 666 **a-beka wa**
ア・ベカ ワ
我・受け取る (接続)
私は受け取って、
- 667 **tane bakno**
タネ バクノ
今 まで
今まで

p. 14

*18 原ノートでは Aekokani と表記されている。

背鰭長の鯨

- 668 a-nuinaresu.
ア・ヌイナレス。
我・隠して育てる
隠して育てていました。
- 669 Upsor po ne
ウブソロ ポ ネ
内部 子 (繫辞類)
懐の子として
- 670 a-reshu awa
ア・レシュ アワ
我・育てる (展開)
育てていましたが
- 671 nubur be at be
ヌブル ベ アツ ベ
霊力が強いもの 立ち昇るもの
(弟君は) 霊能力にすぐれた者
- 672 kone p ne kusu
コネ プ ネ クス
であるもの (繫辞類) (理由・目的)
であるので、
- 673 a-i-kobashte.
ア・イ・コバシテ。
我・走らせられる
気付かれてしまいました。
- 674 Atuiyaunkuru
アトウイヤウンクル
アトウイヤ人
アトウイヤ人、
- 675 Esannotunkuru
エサンノトウンクル
エサンノッ人
エサンノッ人の
- 676 rametok batek
ラメトク バテク
勇者 のみ
勇者ばかりが
- 677 Shirebunsanta
シレブンサンタ
(地名)
シレブンサンタに
- 678 kouwekarba
コウウェカラバ
集る
集って
- 679 ene hawe okai i:—
エネ ハウェ オカイ イー
このように 声 ある こと
このように言いました。
- 680 'Nekona shiko p
『ネコナ シコ プ
どのように 目がついているもの
『どのような素性の者
- 681 nekona baro p
ネコナ バロ プ
どのように 口がついているもの
どのような生まれ育ちの者が
- 682 tapne Ponyambe
タプネ ポンヤウムベ
これである 小さな内地人
このポイヤウンベ
- 683 toi Yaumbe ne wa
トイ ヤウムベ ネ ワ
土 内地人 (繫辞類) (接続)
性悪のヤウンベであって、
- 684 rebunkuru kusu
レブンクル クス
沖の人 (理由・目的)
異国の者であるので
- 685 ki rusui be
キ ルスイ ベ
する (欲求) もの
望むことは
- 686 rai ne wa hetap ne.
ライ ネ ワ ヘタップ ネ。
死ぬ (繫辞類) (接続) これ (繫辞類)
死であるのか。
- 687 Iramshitnere,
イラムシツネレ、
うるさい
厄介なことだ、
- 688 tu rur ekari
トゥ ルル エカリ
二つの 海 回る
二つの海をまわって
- 689 re ruru ekari
レ ルル エカリ
三つの 海水 回る
三つの海をまわって

- 690 iutattuye
イウタットウイエ
仲間を斬る
(ポイヤウンペは) 仲間を斬り殺した
- 691 humi okai awa
フミ オカイ アワ
気配 ある (展開)
のだが、
- 692 oroyachiki
オロヤチキ
驚いたことに
なんとまあ、
- 693 e-kot tureshihi
エ・コツ トウレシヒ
汝・持つ 妹
あなたの妹は
- 694 Ponyaambe akihi
ポイヤウムベ アキヒ
小さな内地人 弟
ポイヤウンペの弟を
- 695 hushkotoi wano
フシコトイ ワノ
以前 から
長い間
- 696 resu awan.
レス アワン。
育てる のだった
育てていたのか。
- 697 Tunashno
トゥナシノ
早く
早く
- 698 naa pon i ta
ナア ポニ タ
まだ 小さい とき (場所)
まだ幼いうちに
- 699 a-toikoraike.
ア・トイコライケ。
我・惨殺する
惨殺してしまおう。
- 700 Orowa
オロワ
(始点)
それから、
- 701 Tomisambechi
トミサムベチ
(地名)
トミサンベチ
- 702 Shinutapka un
シヌタプカ ウン
(地名) (方向)
シヌタプカに
- 703 attumunchi
アットウムンチ
激しい戦闘
激しい戦闘
- 704 anrorumbe
アンロルムベ
激しい戦い
激しい戦いを
- 705 a-yapte wa
ア・ヤプテ ワ
我・上陸させる (接続)
巻き起こして、
- 706 Tomisambechi
トミサムベチ
(地名)
トミサンベチで
- 707 koasuruash be
コアスルアシ ベ
噂がたつ もの
名高いもの
- 708 kamui koro be
カムイ コロ ベ
神 持つ もの
(すなわち) 神宝を
- 709 obittano
オビッタノ
皆
すべて
- 710 Rebunkuru moshiri
レブンクル モシリ
沖の人 国土
レブンクルの国土へ
- 711 a-ose wa
ア・オセ ワ
我・背負う (接続)
背負って

背鰭長の鯨

- 712 a-orura wa
ア・オルラ ワ
我・運ぶ (接続)
運び出し
- 713 a-epirika
ア・エピリカ
我・よくなる
それで良い思いを
- 714 kusu ne.⁷
クス ネ。』
(理由・目的) (繫辞類)
しよう。』
- 715 ari haweokai koro
アリ ハウエオカイ コロ
(引用) 言う (同時)
と言って、
- 716 inne utara
インネ ウタラ
大勢である 人々
大勢の人々、
- 717 rametok batek
ラメトク バテク
勇者 のみ
勇者ばかり
- 718 utarpa batek
ウタラバ バテク
首領 のみ
頭領ばかりが
- 719 a-yubutari
ア・ユブタリ
我・兄たち
私の兄たちのところへ
- 720 kouwekarba hine
コウウェカラバ ヒネ
集る (接続)
集って
- 721 koramkoro.
コラムコロ。
相談する
相談をしました。
- 722 Oro ta eashiri
オロ タ エアシリ
所 (場所) それこそ
そこでようやく、
- 723 a-yubutari hene
ア・ユブタリ ヘネ
我・兄たち も
兄たちも
- 724 a-saha hene
ア・サハ ヘネ
我・姉 も
姉も
- 725 a-utari utar hene
ア・ウタリ ウタラ ヘネ
我・人々 たち も
村人たちも
- 726 tanepo
タネポ
たった今
今は
- 727 tapne kane ne i
タプネ カネ ネ イ
これである (程度) (繫辞類) こと
このような出来事に
- 728 i-kobashte.
イ・コバシテ。
我・気付く
気付きました。
- 729 'Achikarata
『アチカラタ
嫌なことだ
『汚らわしいことだ、
- 730 ayakannata
アヤカンナタ
ろくでもないことだ
碌でもないことだ、
- 731 a-wentureshihi
ア・ウェントウレシヒ
我・悪い妹
性悪の妹、
- 732 a-otui ike*¹⁹
ア・オトウイ イケ
尻が切れる こと
碌でもない者、
- 733 neike huike
ネイケ フイケ
どこに 隅
どこの

*¹⁹ 原ノートでは Aotuike と表記されている。

- 734 **yairakbare p**
 ヤイラクパレ プ
 同じ血を引く もの
 血筋を引く者が
- 735 **Ponyaumbe**
 ポンヤウムベ
 小さな内地人
 ポイヤウンベ、
- 736 **toi Yaumbe**
 トイ ヤウムベ
 土 内地人
 性悪のヤウンベで
- 737 **ne wa kusu**
 ネ ワ クス
 (繫辞類) (接続) (理由・目的)
 あって、
- 738 **nuireshu**
 スイナレシユ
 隠して育てる
 隠して育てていると
- 739 **hawe ta an.'**
 ハウエ タ アン。』
 声 これ ある
 いうのか。』
- 740 **ari boronno**
 アリ ボロンノ
 (引用) たくさん
 と何度も
- 741 **i-sembirke**
 イ・セムビリケ
 我・陰
 私の陰口を
- 742 **oitak koro**
 オイタク コロ
 話す (同時)
 言って
- 743 **shino irushka koro**
 シノ イルシカ コロ
 まことに 怒る (同時)
 ひどく怒って
- 744 **okai i hene**
 オカイ イ ヘネ
 ある こと も
 いることも
- 745 **a-ramnukare koroka**
 ア・ラムヌカレ コロカ
 我・知る (逆接)
 私は知っていましたが、
- 746 **i-or un nep ka**
 イ・オロ ウン ネプ カ
 我・ところ (方向) 何 も
 私の方へは何も
- 747 **yeba ka**
 イェバ カ
 言う も
 言いも
- 748 **somo ki no**
 ソモ キ ノ
 (否定) する (接続)
 しないで、
- 749 **attumunchi**
 アットウムンチ
 激しい戦闘
 激しい戦闘
- 750 **anrorumbe**
 アンロルムベ
 激しい戦い
 激しい戦いを
- 751 **Yaunkuru moshiri**
 ヤウンクル モシリ
 内地人 国土
 ヤウンクルの国土に
- 752 **oyapte etoko**
 オヤアテ エトコ
 上陸させる 前方
 巻き起こす前に、
- 753 **eyaikamui-**
 エヤイカムイ・
 みずからの神
 みずから神を
- 754 **shinukare kusu**
 シヌカレ クス
 人目をひく (理由・目的)
 祭るために
- 755 **sake karba**
 サケ カラバ
 酒 作る
 酒を造り、

背鰭長の鯨

p. 16

- 756 **tanekuran wano**
 タネクラン ワノ
 今夜 から
 今晚から
- 757 **nei sake kupa.**
 ネイ サケ クパ。
 その 酒 飲む
 その酒を飲んでいます。
- 758 **Nei raboki ta**
 ネイ ラボキ タ
 その 間 (場所)
 その間に
- 759 **a-reshu kamui**
 ア・レシュ カムイ
 我・育てる 神
 私が育てた神(弟君)を
- 760 **raiike kusu**
 ライケ クス
 殺す (理由・目的)
 殺すために
- 761 **ene i-kosunkeba i:—**
 エネ イ・コスンケバ イー
 このように 我・嘘をつく こと
 このように嘘をつきました。
- 762 **'E-reshu hekachi**
 『エ・レシュ ヘカチ
 汝・育てる 子供
 『おまえの育てた子供と
- 763 **tanekuran**
 タネクラン
 今夜
 今晚
- 764 **a-eshinot**
 ア・エシノツ
 我・遊ぶ
 遊んで
- 765 **kusu ne na.**
 クス ネ ナ。
 (理由・目的) (繋辞類) ぞ
 みたい。
- 766 **Irukai**
 イルカイ
 しばらくの間
 しばらく
- 767 **i-erusa yan.'**
 イ・エルサ ヤン。』
 我・貸す (命令)
 連れ出すぞ。』
- 768 **ari haweokai koro**
 アリ ハウエオカイ コロ
 (引用) 言う (同時)
 と言って、
- 769 **a-reshu kamui**
 ア・レシュ カムイ
 我・育てる 神
 私が育てた神(弟君)を
- 770 **i-kouina wa**
 イ・コウイナ ワ
 我・奪う (接続)
 私から奪って、
- 771 **tap tanepo**
 タプ タネポ
 これ たった今
 今まさに
- 772 **iku hawe ne.**
 イク ハウエ ネ。
 酒を飲む 声 (繋辞類)
 酒を飲んでいるのです。
- 773 **Raboki ta**
 ラボキ タ
 間 (場所)
 その間に
- 774 **tumi suikere**
 トウミ スイケレ
 戦い 終える
 戦いを終わらせること
- 775 **wembe suikere**
 ウェムベ スイケレ
 悪いもの 終える
 凶事を終わらせることを
- 776 **e-ki wa**
 エ・キ ワ
 汝・する (接続)
 あなたがして、
- 777 **e-yan shiri**
 エ・ヤン シリ
 汝・上陸する 様子
 帰途につく様子を

- 778 a-nukar wa kusu
ア・ヌカラ ワ クス
我・見る (接続) (理由・目的)
私は見ましたので、
- 779 pon Rebun kamui
ポン レブン カムイ
小さい 沖の 神
幼い鯨の神に
- 780 a-nishuk wa
ア・ニシュク ワ
招かれる (接続)
お願いして、
- 781 Shirebunsanta
シレブンサンタ
(地名)
シレブンサンタへ
- 782 e-oette-an^{*20}
エ・オエツテ・アン
汝・来させる・我
あなたが来るように仕向けた
- 783 ruwe ne.
ルウェ ネ。
跡 (繫辞類)
のです。
- 784 Orowa
オロワ
(始点)
そして、
- 785 taban tumunchi
タバン トウムンチ
この 戦争
これからの戦闘は
- 786 somoka anakne
ソモカ アナクネ
(否定) は
どうやら
- 787 saure kuni p
サウレ クニ プ
並みである すべきこと もの
小規模なものでは
- 788 somo ne.
ソモ ネ。
(否定) (繫辞類)
ないようです。
- 789 Aokai utara
アオカイ ウタラ
我 たち
私たちは、
- 790 taan pon matushiu
タアン ポン マトウシウ
この 小さい 召使いの女
この召使いの娘
- 791 turanno
トゥランノ
ともに
も同じですが、
- 792 nep wen keutum
ネプ ウェン ケウトウム
何 悪い 心
少しの悪意も
- 793 ponno ka
ポンノ カ
少し も
持つては
- 794 a-kon ruwe ka
ア・コン ルウェ カ
我・もつ 跡 も
いない
- 795 somo ne.
ソモ ネ。
(否定) (繫辞類)
のです。
- 796 Ikkewe wem be
イクケウエ ウェム ベ
元 悪い もの
正しくないこと
- 797 motoho wem be
モトホ ウェム ベ
理由 悪い もの
理不尽なことに
- 798 eikurka-
エイクルカ・
上
加担する

^{*20} e-oekte-an の k が t に同化した形で表記されている。

背鰭長の鯨

- 799 **tamomare**
タモマレ
刀を向ける
ことは
- 800 **somo a-ki kusu**
ソモ ア・キ クス
(否定) 我・する (理由・目的)
できないので、
- 801 **wen yattuibo**
ウェン ヤットウイボ
悪い むしろ
破れたむしろが
- 802 **ikokararse**
イコカララセ
絡まる
物に絡みつく
- 803 **semkorachi**
セムコラチ
まるで (する) ように
程度ではあります、
- 804 **kamui ne ambe**
カムイ ネ アムベ
神 (繫辞類) あること
神である者 (ポイヤウンベ) の
- 805 **sermakkashi**
セレマクカシ
背後の上
側に
- 806 **a-oshiraiba**
ア・オシライバ
我・移動する
加勢したいと
- 807 **kusu ne**
クス ネ
(理由・目的) (繫辞類)
思う
- 808 **ruwe ne.**
ルウェ ネ。
跡 (繫辞類)
のです。
- 809 **Konep ochiwe**
コネプ オチウエ
何 捨てる
何かの欲望、
- 810 **konep kinini**
コネプ キニニ
何 淫情
何かの邪心を
- 811 **a-chibachiba kusu**
ア・チバチバ クス
我・望む (理由・目的)
持つて
- 812 **ikichi an i**
イキチ アニ
する ある こと
このようなことをする
- 813 **somo tap an na.**
ソモ タプ アン ナ。
(否定) これ ある ぞ
ではありません。
- 814 **Arabasakkuru**
アラバサックル
親族のいない者
身寄り無き者よ、
- 815 **tun moimoike**
トゥン モイモイケ
二人 動く
二人分の働き
- 816 **ren moimoike**
レン モイモイケ
三人 動く
三人分の働きを
- 817 **ki p tap okai na.**
キ プ タプ オカイ ナ。
する もの これ ある ぞ
なさってください。
- 818 **Kamui rametok**
カムイ ラメトク
神 勇者
神の如き勇者よ、
- 819 **huwoiki e-ki**
フウォイキ エ・キ
頑張る 汝・する
頑張って
- 820 **kush tap ne**
クシ タプ ネ
ように これ (繫辞類)
戦って

p. 17

821 shiran na.”
シラン ナ。」
有様であるぞ
ください。」

822 ari hawean.
アリ ハウエアン。
(引用) 言う
娘はこのように語った。

1.5 ポイヤウンペの回想

823 Inu ne wa
イヌ ネ ワ
聞く (繫辞類) (接続)
私は話を聞いた

824 a-ki p ne koroka
ア・キ プ ネ コロカ
我・するもの (繫辞類) (逆接)
だけではあるが、

825 shiyoro keutum
シヨロ ケウトウム
驚く 心
驚きの気持ちを

826 a-yaikore.
ア・ヤイコレ。
我・もつ
抱いた。

827 Sonno hetapne
ソンノ ヘタプネ
真に これ
まことに

828 ene bak okai be
エネ バク オカイ ベ
このように まで あるもの
このようなことが (あるのか)、

829 ituren hetap
イトゥレン ヘタプ
憑く これ
(異国の者たちは) 憑き神のためか、

830 neptapteta
ネプタプテタ
何ということか
何ということか、

831 orsaureko
オロサウレコ
とんでもなく
このような尋常ではないことを

832 kichi hawe okai.
キチ ハウエ オカイ。
する 声 ある
するということか。

833 Iwatarapbe
イワタラアベ
赤子
私は赤子で

834 a-ne kusu
ア・ネ クス
我・である (理由・目的)
あったので、

835 nekona nekona
ネコナ ネコナ
どのように どのように
どのような

836 ikkewe okai kusu
イクケウエ オカイ クス
元 ある (理由・目的)
宿命か、

837 tumunchi hontom
トゥムンチ ホントム
戦争 途中
戦闘の中で

838 rorumbe
ロルムベ
戦闘
戦い (の中で)

839 koyaisshikarun
コヤイシカルン
思い出す
覚醒することを

840 a-ki awa
ア・キ アワ
我・する (展開)
私はしたのだが、

841 oroyachiki
オロヤチキ
驚いたことに
驚いたことに、

842 tapne tapne
タプネ タプネ
これである これである
私はこのように

背鰭長の鯨

- 843 **shinrit kor be**
 シンリッ コロ ベ
 出自 持つ もの
 先祖を持つもので
- 844 **a-ne.**
 ア・ネ。
 我・である
 あったのだ。
- 845 **Takar korachi**
 タカラ コラチ
 夢 ように
 おぼろげながら、
- 846 **a-kor ainu**
 ア・コロ アイヌ
 我・もつ 父
 私の父親、
- 847 **a-kor totto**
 ア・コロ トット
 我・もつ 母
 私の母親、
- 848 **a-aktonoke**
 ア・アクトノケ
 我・弟君
 私の弟君を
- 849 **a-eshikarun.**
 ア・エシカルン。
 我・思い出す
 私は思い出した。
- 850 **Nep kusu am be**
 ネブ クス アム ベ
 何 (理由・目的) ある もの
 どのような理由で
- 851 **tumunchi ne ya,**
 トウムンチ ネ ヤ、
 戦争 (繋辞類) (疑問)
 戦闘があつたのか、
- 852 **tane bakno**
 タネ バクノ
 今 まで
 今まで
- 853 **a-kor ainu**
 ア・コロ アイヌ
 我・もつ 父
 私の父親
- 854 **a-kor totto**
 ア・コロ トット
 我・もつ 母
 私の母親を
- 855 **a-hunara koro**
 ア・フナラ コロ
 我・探す (同時)
 探し求めて
- 856 **tu rur ekari**
 トウ ルル エカリ
 二つの 海 回る
 二つの海をまわり
- 857 **re rur ekari**
 レ ルル エカリ
 三つの 海 回る
 三つの海をまわり
- 858 **i-shinoshbare-an**
 イ・シノシバレ・アン
 我・追われる
 追い回されるようなことを
- 859 **humi ne kunak**
 フミ ネ クナク
 気配 (繋辞類) (引用)
 しているのだと
- 860 **a-ramu rok wa**
 ア・ラム ロク ワ
 我・思う (完了) (接続)
 思っていたが、
- 861 **oroyachiki**
 オロヤチキ
 驚いたことに
 驚くべきことに、
- 862 **hushkotoi wano**
 フシコトイ ワノ
 以前 から
 随分前に
- 863 **kamui or un**
 カムイ オロ ウン
 神 所 (方向)
 (両親は) 神の世界へ
- 864 **ikesui wa isam**
 イケスイ ワ イサム
 去る (接続) いない
 去ってしまった

第1章 シレプンサンタへの上陸

- 865 **hawe okai chiki**
 ハウエ オカイ チキ
 声 ある (条件)
 ということなので、
- 866 **rametok rak be**
 ラメトク ラク ベ
 勇者 末裔 もの
 私は勇者の末裔、
- 867 **utarpa rak be**
 ウタラパ ラク ベ
 首領 末裔 もの
 頭領の末裔
- 868 **a-ne a koroka**
 ア・ネ ア コロカ
 我・である (完了) (逆接)
 ではあるが、
- 869 **a-shiksutkonna**
 ア・シクスツコンナ
 我・目の末端
 目の端から
- 870 **chiunu kane.**
 チウヌ カネ。
 流れ出る (音節調整)
 涙を流した。
- 871 **Eebaki ta**
 エエバキ タ
 次 (場所)
 さらに、
- 872 **am be he an,**
 アム ベ ヘ アン、
 ある もの (疑問) ある
 事実であるのか、
- 873 **son p he an,**
 ソネ プ ヘ アン、
 らしく もの (疑問) ある
 本当のことであるのか、
- 874 **a-aktonoke**
 ア・アクトノケ
 我・弟君
 私の弟君、
- 875 **moshiri koro kamui**
 モシリ コロ カムイ
 国土 持つ 神
 国土の神が
- 876 **taban kotan ot ta**
 タバン コタン オツ タ
 この 村 所 (場所)
 この村で
- 877 **pirika shikup**
 ピリカ シクフ
 良い 成長する
 立派な成長、
- 878 **utarpa shikup**
 ウタラパ シクフ
 首領 成長する
 頭領としての成長を
- 879 **ki wa an hawe**
 キ ワ アン ハウエ
 する (接続) ある 声
 遂げているとのこと、
- 880 **sonno**
 ソンノ
 真に
 私は本当に
- 881 **ramoshi wano**
 ラモシ ワノ
 心の底 から
 心の底から
- 882 **nubetne-an.**
 ヌベツネ・アン。
 喜ぶ・我
 嬉しく思った。
- 883 **A-kutsamkonna**
 ア・クツサムコンナ
 我・喉元
 そして、私は喉元を
- 884 **uwetunuise**
 ウウエトゥヌイセ
 美しく響く
 響かせて
- 885 **ene okai i:—**
 エネ オカイ イー
 このように ある こと
 次のように言った。
- 886 **“Koninkar kusu**
 「コニンカラ クス
 さて (理由・目的)
 「さてさて、

背鰭長の鯨

- 887 **Shirebunsanta un**
シレブンサンタ ウン
(地名) ある
シレブンサンタの
- 888 **kamui katkemat**
カムイ カツケマツ
神 婦人
神である婦人よ、
- 889 **itak-an chiki**
イタク・アン チキ
言う・我 (条件)
話すから
- 890 **pirikano nu yan.**
ピリカノ ヌ ヤン。
良く 聞く (命令)
聞きなさい。
- 891 **Konepkeukata**
コネケウカタ
何ということか
何ということか、
- 892 **konepkashita**
コネカシタ
何としたことか
何としたことか、
- 893 **nekona shiko p**
ネコナ シコ プ
どのように 目がついている もの
私はどのような素性の者
- 894 **nekona baro p**
ネコナ バロ プ
どのように 口がついている もの
どのような生まれ育ちの者
- 895 **a-ne wa**
ア・ネ ワ
我・である (接続)
であって、
- 896 **tapne oroyachiki**
タップネ オロヤチキ
これである 驚いたことに
驚いたことに
- 897 **shinrit or wano**
シンリッ オロ ワノ
出自 所 から
先祖から
- 898 **oikkeusak no**
オイッケウサク ノ
理由を欠く (接続)
宿命により
- 899 **chiukokeshke**
チウコケシケ
嫉まれる
嫉まれて
- 900 **a-i-y-ekarkar**
ア・イ・イエカラカラ
我・される
いたので
- 901 **hawe okai.**
ハウエ オカイ。
声 ある
あったのか。
- 902 **Oman ikiri**
オマン イキリ
行く 列
その経緯、
- 903 **tumunchi hontom**
トゥムンチ ホントム
戦争 途中
戦闘の中で
- 904 **koyaiishikarun**
コヤイシカルン
思い出す
覚醒することを
- 905 **a-ki.**
ア・キ。
我・する
私はした。
- 906 **Tushu sak kuni p**
トゥシュ サク クニ プ
巫術 欠く べき もの
私は巫術の力の無い者、
- 907 **nubur sak kuni p**
ヌブル サク クニ プ
霊力 欠く べき もの
霊能力の無い者で
- 908 **a-ne kusu**
ア・ネ クス
我・である (理由・目的)
あるから、

p. 19

- 909 ene ash be ka
エネ アシ ベ カ
このように 立つ もの も
これまでの出来事も
- 910 koikataraye.*21
コイカタライエ。
見過ごす
見逃していた。
- 911 Tane bakno
タネ バクノ
今 まで
私は今まで
- 912 an-an awa
アナン アワ
いる・我 (展開)
そのようであったが、
- 913 ituren kor be
イトゥレン コロ ベ
憑く 持つ もの
あなたは霊能力に
- 914 e-ne kusu
エ・ネ クス
汝・である (理由・目的)
優れているので、
- 915 tumunchi ikkeu*22
トゥムンチ イクケウ
戦争 元
戦闘の原因、
- 916 rorumbe ikkeu hene
ロルムベ イクケウ ヘネ
戦闘 元 も
戦いの原因が
- 917 ene okai i
エネ オカイ イ
このように ある こと
そのようにあることを
- 918 obitta e-eramanan.*23
オビッタ エ・エラマナン。
皆 汝・理解する
すべて理解した(?)。
- 919 Katkemat keutum
カッケマツ ケウトウム
婦人 心
あなたは婦人の気立て、
- 920 katkemat buri
カッケマツ ブリ
婦人 行い
婦人の振る舞いに
- 921 e-eashkai kusu
エ・エアシカイ クス
汝・上手にする (理由・目的)
優れているので、
- 922 a-aki hene
ア・アキ ヘネ
我・弟 も
私の弟を
- 923 chieramboken
チエラムボケン
憐れに思われる
憐れに
- 924 e-ekarkar kusu
エ・エカラカラ クス
汝・する (理由・目的)
思い
- 925 orsetakko
オロセタクコ
長い間
長い間
- 926 chipirikaresu
チピリカレス
よく育てること
立派な養育を
- 927 e-i-y-ekarkar hawe
エ・イ・イエカラカラ ハウエ
汝・我・する 声
ほどこしてくれたこと、
- 928 sonno
ソンノ
真に
本当に
- 929 yayiraike ne
ヤイライケ ネ
感謝 (繫辞類)
感謝して

*21 koikataraye a-ki「見逃すことを私がする」とみなして解釈する。

*22 原ノートでは ikke と表記されている。

*23 この語の解釈については未詳。

背鰭長の鯪

- 930 **onkami-an**
 オンカミ・アン
 拝礼する・我
 拝礼
- 931 **ruwe tab an na.**
 ルウェ タバン ナ。
 跡 これ ある ぞ
 する。
- 932 **Seta poka**
 セタ ポカ
 犬 さえ
 私は犬にさえも
- 933 **eabasak be**
 エアバサク ベ
 親族を欠く もの
 身内がいないもので
- 934 **a-ne awa**
 ア・ネ アワ
 我・である (展開)
 あったが、
- 935 **chiabakore**
 チアバコレ
 味方する
 あなたは私に身寄りを
- 936 **e-i-y-ekarkar kusu**
 エ・イ・イエカラカラ クス
 汝・我・する (理由・目的)
 与えるために、
- 937 **pom matushiu tura**
 ポム マトゥシウ トウラ
 小さい 召使いの女 とともに
 召使いの娘とともに
- 938 **i-kobaksam ne**
 イ・コバクサム ネ
 我・方向 (繫辞類)
 私の側に
- 939 **echi-oshiraipa wa**
 エチ・オシライパ ワ
 汝ら・移動する (接続)
 加勢して
- 940 **i-kore hawe hene**
 イ・コレ ハウエ ヘネ
 我・与える 声 も
 くれるとのこと、
- 941 **shino yayiraike**
 シノ ヤイライケ
 まことに 感謝
 本当に有難く
- 942 **ruwe ne.”**
 ルウェ ネ。」
 跡 (繫辞類)
 思う。」
- 943 **ari itak-an kane.**
 アリ イタク・アン カネ。
 (引用) 言う・我 (程度)
 このように私は言った。
- 944 **Boronno**
 ボロンノ
 たくさん
 深く
- 945 **yayiraike-an chiki**
 ヤイライケ・アン チキ
 ありがたく思う・我 (条件)
 感謝の意を表すと、
- 946 **katu ne kane**
 カトゥ ネ カネ
 様子 (繫辞類) (音節調整)
 (娘は) 当たり前
- 947 **enubetne kuni p**
 エヌベツネ クニ プ
 喜ぶ はずの もの
 喜ぶもの
- 948 **ne wa ne yakne**
 ネ ワ ネ ヤクネ
 (繫辞類) (接続) (繫辞類) (条件)
 であるならば
- 949 **kotom korokaiki**
 コトム コロカイキ
 ようである (逆接)
 さもあろうが、
- 950 **eramupo hemesusu.**
 エラムポ ヘメスス。
 心 遡る
 まことに安心した様子である。
- 951 **Chirikibuni**
 チリキブニ
 起き上がる
 そして (娘は) 起き上がって

- 952 otu betchirbe
オトゥ ベッチリベ
二つの 水滴
二つの水滴、
- 953 ore betchirbe
オレ ベッチリベ
三つの 水滴
三つの水滴を
- 954 yaikokarkar
ヤイコカラカラ
みずから整える
みずから用いて
- 955 pirika shuke
ピリカ シュケ
良い 炊事する
見事な煮炊きを
- 956 koyairikta-
コヤイリクタ・
みずから高く
かいがいしく
- 957 ante kane.
アンテ カネ。
あらしめる (音節調整)
おこなった。
- 958 Tane shu chi
タネ シュ チ
今 鍋 煮える
今や鍋が煮え、
- 959 pirika aep
ピリカ アエプ
良い 食物
良い食物の
- 960 rai sonabi
ライ ソナビ
死ぬ 高盛の椀
高盛りの御椀を、
- 961 oribak tura
オリバク トウラ
畏まる ともに
畏まりながら、
- 962 shikankitai
シカンキタイ
自分の頭上
みずからの上に
- 963 eimekani
エイメカニ
御膳をもつ
持ち上げて
- 964 i-koibuni
イ・コイブニ
我・食事を出す
私に差し出した。
- 965 A-uina wa
ア・ウイナ ワ
我・取る (接続)
私はそれを受け取って
- 966 a-rikunruke
ア・リクンルケ
我・高くさしあげる
高くかざし、
- 967 a-raunruke
ア・ラウンルケ
我・低くかざす
低くかざし、
- 968 a-koonkami.
ア・コオンカミ。
我・拝礼する
拝礼した。
- 969 Ibebo mashkin
イベボ マシキン
食物 ますます
あまりに食物が無く
- 970 a-ekot noine
ア・エコツ ノイネ
我・死ぬ らしく
空腹を
- 971 yainu-am be
ヤイヌ・アム ベ
考える・我 もの
感じていた
- 972 ne kusu
ネ クス
(繫辞類) (理由・目的)
ので、
- 973 ibe-an ko
イベ・アン コ
食事する・我 (条件)
食事をして

背鰭長の鯨

- 974 **pirika aep**
ピリカ アエフ
良い 食物
良い食物で
- 975 **a-sambe ba wa**
ア・サムベ バ ワ
我・心臓 上 から
心臓の上から
- 976 **a-sambe kesh wa**
ア・サムベ ケシ ワ
我・心臓 末端 から
心臓の下まで
- 977 **koshituri.**
コシトゥリ。
伸びる
落ち着いた気持ちになった。
- 978 **Sonno**
ソンノ
真に
本当に
- 979 **a-esambeshituri.*24**
ア・エサムベシトゥリ。
我・落ち着く
伸び伸びした気持ちになった。
- 980 **Tu pom menoko**
トゥ ポム メノコ
二つの 小さい 女
二人の娘
- 981 **ne yakka**
ネ ヤクカ
(繫辞類) (讓歩)
も
- 982 **rai sonabi**
ライ ソナビ
死ぬ 高盛の椀
高盛りの御椀を
- 983 **yaikobumba.**
ヤイコブムバ。
自分によそう
みずから用意した。
- 984 **Ibe-an aine**
イベ・アン アイネ
食事する・我 (接続)
そして私たちは食事を
- 985 **ibeokere-an.**
イベオケレ・アン。
食事を終える・我
終えた。

*24 原ノートでは **Aesambeshituri** と表記されている。

第2章

シレプンサンタでの戦い

2.1 酒宴の座へ向かう

- 986 Tap orowa
 タブ オロワ
 これ (始点)
 それから、
- 987 rikunsui kurka
 リクンスイ クルカ
 煙出しの穴 上
 私は煙り出しの窓の上へ
- 988 nochiu meru ne
 ノチウ メル ネ
 星 光る (繫辞類)
 星の光のように
- 989 a-kotuikosanu.
 ア・コトウイコサヌ。
 我・消える
 (飛び上って) 消えた。
- 990 Ikuush chise
 イクウシ チセ
 酒を飲む 家
 酒宴がおこなわれている家の
- 991 rorunburai ne
 ロルンブライ ネ
 神窓 (繫辞類)
 神窓に
- 992 a-koyaitunashka.
 ア・コヤイトウナシカ。
 我・急ぐ
 私は急いだ。
- 993 Ratki burai
 ラッキ ブライ
 垂れ下がった 窓
 そして、垂れ下がった窓の簾の
- 994 burai chinki
 ブライ チンキ
 窓 裾
 裾に
- 995 a-kokkaechiu
 ア・コッカエチウ
 我・ひざまづく
 私は膝をつき、
- 996 burai kurkashike
 ブライ クルカシケ
 窓 上
 窓の簾の表面に
- 997 a-nankotukka.
 ア・ナンコトゥッカ。
 我・顔をつける
 顔をつけた。
- 998 Sepka utur
 セプカ ウトゥル
 簾の隙間 間
 簾の隙間に
- 999 a-shikbosore wa
 ア・シクボソレ ワ
 我・目を通す (接続)
 目をあてて
- 1000 inkar-an ko
 インカラ・アン コ
 見る・我 (条件)
 見ると、

背鰭長の鯨

- 1001 **ineapkusu**
 イネアプクス
 何と
 なんとまあ、
- 1002 **Shirebunsanta un rup**
 シレブンサンタ ウン ルフ
 (地名) ある 集団
 シレブンサンタの人々は
- 1003 **nishpa ne wa**
 ニシパ ネ ワ
 長者 (繫辞類) (接続)
 長者である
- 1004 **shiran nankor a,**
 シラン ナンコラ、
 有様である だろう か
 ことか、
- 1005 **tam boro chise**
 タム ボロ チセ
 この 大きい 家
 大きな家の
- 1006 **aman emboki**
 アマン エムボキ
 棟木 下
 梁の下に
- 1007 **chiibiyere**
 チイビイエレ
 すきまなく
 隙間なく
- 1008 **kamui koro be**
 カムイ コロ ベ
 神 持つ もの
 神宝が
- 1009 **eekirtekka ne**
 エエキリテッカ ネ
 並ぶ (繫辞類)
 積み上がり、
- 1010 **Chise oshke ebitta**
 チセ オシケ エビットタ
 家 中 一面に
 家の中の
- 1011 **huihuina wano**
 フイフイナ ワノ
 隅々 から
 どこもかしこにも
- 1012 **a-erayap kashba.**
 ア・エラヤフ カシバ。
 我・感心する 甚だしい
 私は感嘆した。
- 1013 **Sem shikbuye**
 セム シクブイエ
 (否定) 瞳
 そして、目元に
- 1014 **a-amkir kuni p**
 ア・アムキリ クニ プ
 我・覚えがある べき もの
 見覚えのない者が
- 1015 **chise upsoro**
 チセ ウプソロ
 家 内部
 家の中に
- 1016 **euranrari.**
 エウランラリ。
 いっぱいいる
 たくさんいる。
- 1017 **Tanne chikupso**
 タンネ チクフソ
 長い 酒宴の座
 今は酒宴の座が
- 1018 **chishiturire**
 チシトゥリレ
 伸びる
 伸びており、
- 1019 **chikupso bake**
 チクフソ バケ
 酒宴の座 先頭
 酒宴の座の上手は
- 1020 **homar kane.**
 ホマラ カネ。
 かすんでいる (音節調整)
 かすんでいる。
- 1021 **Chikupso kese**
 チクフソ ケセ
 酒宴の座 末端
 酒宴の座の下手も
- 1022 **homar kane.**
 ホマラ カネ。
 かすんでいる (音節調整)
 かすんでいる。

- 1023 **Hayok num ikir**
 ハヨク ヌム イキリ
 武装する 集団 列
 武装した集団が^ダ
- 1024 **kokinnatara.**
 コキンナタラ。
 きらびやかである
 光り輝いている。
- 1025 **Shintoko oshmak**
 シントコ オシマク
 ほかい 陰
 漆塗りの器の奥に
- 1026 **a-ye rok okai**
 ア・イエ ロク オカイ
 言われる (完了) ある
 話に聞いた
- 1027 **Atuiyaumbe**
 アトゥイヤウムベ
 アトゥイヤの者
 アトゥイヤ人
- 1028 **an-ekotomka p**
 アネコトムカ プ
 似つかわしい もの
 らしき者が^ダ
- 1029 **ehorari.**
 エホラリ。
 居る
 座っている。
- 1030 **Bishkanike**
 ビシカニケ
 周囲
 その周囲に、
- 1031 **Esannotumbe**
 エサンノトゥムベ
 エサンノツの者
 エサンノツ人、
- 1032 **Kaibokumbe**
 カイボクムベ
 カイボクの者
 カイボク人、
- 1033 **Shirarkaumbe**
 シララカウムベ
 シララカの者
 シララカ人、
- 1034 **Pommoshiriumbe**
 ポムモシリウムベ
 ボンモシリの者
 ボンモシリ人
- 1035 **an-ekotomka p**
 アネコトムカ プ
 似つかわしい もの
 らしき者たち (がおり)、
- 1036 **neike huike**
 ネイケ フイケ
 どこに 隅
 一体どこに
- 1037 **an-ekot^{*1} kuni p**
 アネコツ クニ プ
 我・死ぬ べき もの
 私が殺す (?) べきものが^ダ
- 1038 **okai nankor a,**
 オカイ ナンコラ、
 ある だろう か
 いるのだろうか、
- 1039 **rametok batek**
 ラメトク バテク
 勇者 のみ
 勇者ばかり、
- 1040 **utarpa batek**
 ウタラパ バテク
 首領 のみ
 頭領ばかりが^ダ
- 1041 **utaberari.**
 ウタベラリ。
 肩を並べる
 肩を並べている。
- 1042 **Atuiyaumbe**
 アトゥイヤウムベ
 アトゥイヤの者
 アトゥイヤウンベに
- 1043 **yaibekare p**
 ヤイベカレ プ
 向かう もの
 向かっていく者は
- 1044 **a-ye rok okai**
 ア・イエ ロク オカイ
 言われる (完了) ある
 話に聞いた

*1 この語の解釈については未詳。

背鰭長の鯨

- 1045 **Shirebunsanta**
シレブンサンタ
(地名)
シレブンサンタの
- 1046 **poniune ike**
ポニウネ イケ
年下の こと
年少の者
- 1047 **an-ekotomka p**
アネコトムカ プ
似つかわしい もの
であるらしく、
- 1048 **eboso kusu**
エボソ クス
突き抜ける (理由・目的)
なるほど、
- 1049 **mataba pirika p**
マタバ ピリカ プ
女 良い もの
身内の女性に美しい者が^が
- 1050 **okai nankor a,**
オカイ ナンコラ、
ある だろう か
いるはずである、
- 1051 **tam ba ne wa**
タム バ ネ ワ
この 上 (繫辞類) (接続)
今年あたりに
- 1052 **i-turkasuno**
イ・トゥルカスノ
我・以上
私よりも
- 1053 **chishikupka**
チシクプカ
成長する
成長を遂げた
- 1054 **pon ainu pon kuru**
ポン アイヌ ポン クル
小さい 人間 小さい 人
幼い少年 (であって)
- 1055 **kani kosonte**
カニ コソンテ
黄金 小袖
こがねの小袖を
- 1056 **nenā imi ne^{*2}**
ネナ イミ ネ
(?) 着物 (繫辞類)
同じ衣装として
- 1057 **arutomechiu.**
アルトメチウ。
身にまとう
重ねて身にまとっている。
- 1058 **Kani pon kasa**
カニ ポン カサ
黄金 小さい 笠
こがねの兜 (を被り)
- 1059 **kasa rantubep**
カサ ラントウベプ
笠 垂れた紐
兜の紐を
- 1060 **eyaisannankashi-**
エヤイサンナンカシ・
みずからの顔の上
顔に
- 1061 **yuppa kane**
ユヅパ カネ
締める (音節調整)
縛り、
- 1062 **kasa kepsam ta**
カサ ケプサム タ
笠 端 (場所)
兜の縁で
- 1063 **nan nubeki^{*3}**
ナン ヌベキ
顔 光
顔が^が
- 1064 **maknatara.**
マクナタラ。
輝いている
輝いている。
- 1065 **Urar tumu**
ウララ トウム
霧 中
そして霧の中に

^{*2} nena imi ne は「同じな衣装に」と解釈されている (ユ集 III,p.86)。

^{*3} 原ノートでは nube と表記されている。

- 1066 **yayomare kane.**
 ヤヨマレ カネ。
 自分を入れる (程度)
 包まれている。
- 1067 **Kirsama ta**
 キリサマ タ
 側 (場所)
 その座のそばに、
- 1068 **shintoko teksam ta**
 シントコ テクサム タ
 ほかい すぐそば (場所)
 漆塗りの器のそばに、
- 1069 **okutchi urar**
 オクッチ ウララ
 たちこめる 霧
 たちこめた霧、
- 1070 **buyatek urar**
 ブヤテク ウララ
 もやもやとする 霧
 濃い霧が
- 1071 **chishireanu**
 チシレアヌ
 おかれる
 あり、
- 1072 **urar tumu**
 ウララ トウム
 霧 中
 霧の中で
- 1073 **kamui imeru**
 カムイ イメル
 神 光
 神々しい光が
- 1074 **eshimaka.**
 エシマカ。
 輝く
 輝いている。
- 1075 **Tu urar ikkeu**
 トウ ウララ イクケウ
 二つの 霧 元
 二つの霧の根元、
- 1076 **re urar ikkeu**
 レ ウララ イクケウ
 三つの 霧 元
 三つの霧の根元を
- 1077 **a-kocharikar.**
 ア・コチャリカラ。
 我・私のける
 私は目で散らした。
- 1078 **Tu nishte urar**
 トウ ニシテ ウララ
 二つの かたい 霧
 (しかし) 二つの強固な霧、
- 1079 **re nishte urar**
 レ ニシテ ウララ
 三つの かたい 霧
 三つの強固な霧を
- 1080 **shiokarire p**
 シオカリレ プ
 我が身に包む もの
 めぐらせている者
- 1081 **ne p ne kusu**
 ネ プ ネ クス
 (繫辞類) もの (繫辞類) (理由・目的)
 であり、
- 1082 **naani tu sui**
 ナアニ トウ スイ
 まさに 二つの 回
 二度 (繰り返しても)、
- 1083 **naani re sui**
 ナアニ レ スイ
 まさに 三つの 回
 三度 (繰り返しても)、
- 1084 **ainu kat ne**
 アイヌ カツ ネ
 人間 姿 (繫辞類)
 人間の姿を
- 1085 **a-kar eaikap**
 ア・カラ エアイカフ
 我・する できない
 見定めることができない。
- 1086 **Hushkotoi wano**
 フシコトイ ワノ
 以前 から
 長い間
- 1087 **a-kourarchari aine**
 ア・コウララチャリ アイネ
 我・霧を散らす (接続)
 霧を目で散らしていると、

背鰭長の鯨

- 1088 **urar tum ta**
 ウララ トウム タ
 霧 中 (場所)
 霧の中で
- 1089 **a-shiketoko**
 ア・シケトコ
 我・目先
 私の目の前が
- 1090 **raikosanu.**
 ライコサヌ。
 くらむ
 急に暗くなった。
- 1091 **Konepkeukata**
 コネケウカタ
 何ということか
 何ということか、
- 1092 **konepkashita**
 コネカシタ
 何としたことか
 何としたことか、
- 1093 **a-ye rok okai**
 ア・イエ ロク オカイ
 言われる (完了) ある
 話に聞いた
- 1094 **a-aktonoke**
 ア・アクトノケ
 我・弟君
 私の弟君、
- 1095 **oar pon hekachi**
 オアラ ポン ヘカチ
 全く 小さい 子供
 まだ幼い子供 (であり)、
- 1096 **Rebun kosonte**
 レブン コソンテ
 沖の 小袖
 異国の小袖、
- 1097 **kani kosonte**
 カニ コソンテ
 黄金 小袖
 こがねの小袖を
- 1098 **arutomechiu**
 アルトメチウ
 身にまとう
 身にまとい、
- 1099 **Rebun chimuttam**
 レブン チムットム
 沖の 佩刀
 異国の刀を
- 1100 **kutbok echiu.**
 クツボク エチウ。
 帯の下 刺す
 帯に差している。
- 1101 **Kani pon kasa**
 カニ ポン カサ
 黄金 小さい 笠
 こがねの兜 (を被り)
- 1102 **kasa rantubep**
 カサ ラントゥベプ
 笠 垂れた紐
 兜の紐を
- 1103 **yaikoyubu.**
 ヤイコユブ。
 締める
 締めている。
- 1104 **Kasa kepsam ta**
 カサ ケプサム タ
 笠 端 (場所)
 兜の縁で
- 1105 **nan nubeki**
 ナン ヌベキ
 顔 光
 顔が
- 1106 **komaknatara p**
 コマクナタラ プ
 輝いている もの
 輝いている者 (弟君) は
- 1107 **tu okne ibor**
 トウ オクネ イボロ
 二つの 悲しむ 顔色
 二つの悲しみの表情、
- 1108 **re okne ibor**
 レ オクネ イボロ
 三つの 悲しむ 顔色
 三つの悲しみの表情を
- 1109 **enuratkire**
 エヌラッキレ
 顔に浮かべる
 浮かべて

- 1110 **kane okai chiki**
カネ オカイ チキ
(程度) ある (条件)
おり、
- 1111 **a-sambe bake*4**
ア・サムベ バケ
我・心臓 先頭
私の心臓は上から
- 1112 **a-sambe kese**
ア・サムベ ケセ
我・心臓 末端
下まで
- 1113 **ekobuyuise.**
エコブユイセ。
湿る
かきむしられたようになる。
- 1114 **Hesei buira**
ヘセイ ブイラ
息をする 孔
息をする喉も
- 1115 **a-i-koseshke.**
ア・イ・コセシケ。
我・塞がれる
塞がれたようになる。
- 1116 **Tu kishnu nube**
トゥ キシヌ ヌベ
二つの 僅かな 涙
二つの僅かな涙、
- 1117 **re kishnu nube**
レ キシヌ ヌベ
三つの 僅かな 涙
三つの僅かな涙を
- 1118 **a-yaikoranke.**
ア・ヤイコランケ。
我・みずから流す
私は流した。
- 1119 **Konepkeukata**
コネペケウカタ
何ということか
何ということか、
- 1120 **konepkashita**
コネペカシタ
何としたことか
何としたことか、
- 1121 **chiukokeshke p**
チウコケシケ プ
嫉まれる もの
私たちは嫉まれた者
- 1122 **a-ne kusu**
ア・ネ クス
我・である (理由・目的)
であるから、
- 1123 **senne otobar**
センネ オトバラ
(否定) 普通である
立派な
- 1124 **shinrit koro be**
シンリッ コロ ベ
出自 持つ もの
先祖を持つ者
- 1125 **a-ne hawe okai ko**
ア・ネ ハウェ オカイ コ
我・である 声 ある (条件)
であったのに、
- 1126 **shukup hontomo ta**
シュクプ ホントモ タ
成長する 途中 (場所)
成長の途中で
- 1127 **toi Rebumbe**
トイ レブムベ
土 沖の人
性悪のレブンベ
- 1128 **wen Rebumbe**
ウエン レブムベ
悪い 沖の人
悪人のレブンベの
- 1129 **utar orke**
ウタラ オロケ
たち 所
集団の
- 1130 **wen renkabi**
ウエン レンカビ
悪い 意思
悪だくみが

*4 原ノートでは Asambbake と表記されている。

背鰭長の鯨

- 1131 **okai kusu**
 オカイ クス
 ある (理由・目的)
 あったために、
- 1132 **shukup hetapne**
 シュクフ ヘタプネ
 成長する これ
 成長することも、
- 1133 **neptapteta**
 ネプタプテタ
 何ということか
 何ということか、
- 1134 **a-ki shiri an awa**
 ア・キ シリ アン アワ
 我・する 様子 ある (展開)
 私はしたのだが、
- 1135 **kamui renkai ne**
 カムイ レンカイ ネ
 神 (自由) 意志 (繫辞類)
 神の意向で、
- 1136 **ituiba p uibe**
 イトゥイバ プ ウイベ
 人を斬る もの 血筋
 人斬りの血統
- 1137 **ironnu p uibe**
 イロンヌ プ ウイベ
 殺す もの 血筋
 人殺しの血統
- 1138 **ne wa ne yakka**
 ネ ワ ネ ヤクカ
 (繫辞類) (接続) (繫辞類) (譲歩)
 ではあるが、
- 1139 **Shirebunsanta un**
 シレブンサンタ ウン
 (地名) ある
 シレブンサンタの
- 1140 **kamui katkemat**
 カムイ カツケマツ
 神 婦人
 神の如き婦人が
- 1141 **an kushkeraibo**
 アン クシケライボ
 ある おかげで
 いたおかげで、
- 1142 **a-aktonoke**
 ア・アクトノケ
 我・弟君
 私の弟君が
- 1143 **nishpa shikup**
 ニシパ シクフ
 長者 成長する
 長者の成長、
- 1144 **utarpa shikup**
 ウタラパ シクフ
 首領 成長する
 頭領の成長 (をして)
- 1145 **orsaureko**
 オロサウレコ
 とんでもなく
 見事に
- 1146 **a-tomte kane**
 ア・トムテ カネ
 輝いている (音節調整)
 飾り立てられて
- 1147 **okai chiki**
 オカイ チキ
 ある (条件)
 いるのだから、
- 1148 **chikibo ne wa**
 チキボ ネ ワ
 行為 (繫辞類) (接続)
 今すぐにも
- 1149 **awoshma-an wa**
 アウオシマ・アン ワ
 中に入る (接続)
 家の中に入って
- 1150 **a-raukotabu anke**
 ア・ラウコタブ アンケ
 我・つかむ しようとする
 (弟君を) 抱きしめたいと
- 1151 **yainu-an kane.**
 ヤイヌ・アン カネ。
 考える・我 (音節調整)
 私は思った。
- 1152 **Sake sanke p**
 サケ サンケ プ
 酒 前方のもの
 酒を出している者を

第2章 シレブンサンタでの戦い

- 1153 a-nukar ko
ア・ヌカラ コ
我・見る (条件)
見ると、
- 1154 Shirebunsanta
シレブンサンタ
(地名)
シレブンサンタの
- 1155 kiyanne ike
キヤンネ イケ
年長である こと
年長の者
- 1156 an-ekotomka p
アネコトムカ プ
似つかわしい もの
であるらしく、
- 1157 inkinebe
インキネベ
どちら
どの者も
- 1158 shiretok ot ta
シレトク オツ タ
美貌の人 所 (場所)
容貌において、
- 1159 rametok ot ta
ラメトク オツ タ
勇者 所 (場所)
勇敢さにおいて、
- 1160 urabokkari wa
ウラボッカリ ワ
優劣がある (接続)
優劣が
- 1161 okai nankor a,
オカイ ナンコラ、
ある だろう か
あるのだろうか、
- 1162 shine shikbui
シネ シッブイ
一つの 目つき
同じような目元 (の者)、
- 1163 shine rachiu
シネ ラチウ
一つの 眉
同じような眉 (の者) が
- 1164 ukoturba kane.
ウコトゥルバ カネ。
長く伸ばし合う (程度)
並んでいる。
- 1165 Imeru kusu
イメル クス
光 (理由・目的)
そして、光のために、
- 1166 urar kusu
ウララ クス
霧 (理由・目的)
霧のために、
- 1167 a-nukar boka
ア・ヌカラ ボカ
我・見る さえ
正視することも
- 1168 ewen kane.
エウエン カネ。
よくない (音節調整)
難しい。
- 1169 Chikupso utur
チクプソ ウトゥル
酒宴の座 間
酒宴の座の間を
- 1170 erututke p
エルトゥツケ プ
行き来する もの
行き来する者を
- 1171 a-nukar kusu
ア・ヌカラ クス
我・見る (理由・目的)
見ると、
- 1172 a-ye rok okai
ア・イエ ロク オカイ
言われる (完了) ある
話に聞いた
- 1173 Shirebunsanta
シレブンサンタ
(地名)
シレブンサンタの
- 1174 kiyanne mat
キヤンネ マツ
年長である 女
年長の婦人

背鰭長の鯪

p. 24

- 1175 ne yakka
ネ ヤクカ
(繫辭類) (讓歩)
であるが、
- 1176 chitomtereshup
チトムテレシユブ
輝かしい養育
美しい教育、
- 1177 chiarareshup
チアラレシユブ
最高の教育
まったき養い
- 1178 sone kusu
ソネ クス
らしく (理由・目的)
らしく
- 1179 huihuinawano
フイフイナワノ
隅々まで
どこからどこまでも言葉では
- 1180 a-reka*⁵
ア・レカ
我・ほめる
誉めようもないほど完璧だ。
- 1181 Iku eshiyuk be
イク エシユク ベ
酒を飲む 盛装する もの
酒宴の盛装した者を
- 1182 mashkin teta
マシキン テタ
ますます ここで
凌いで
- 1183 kisar kashike
キサラ カシケ
耳 上
耳の上に
- 1184 rekut kashike
レクツ カシケ
首 上
首の上に
- 1185 koikatara.
コイカタラ。
つける
(気品が) 匂っている。
- 1186 Mataki tura
マタキ トウラ
妹 ともに
妹と
- 1187 shine rachiu
シネ ラチウ
一つの 眉
同じ眉を
- 1188 shine shikbui
シネ シクブイ
一つの 目つき
そっくりな眼窩を
- 1189 ukoturba kane
ウコトゥルバ カネ
長く伸ばし合う (同時)
兼ね備え
- 1190 ani pontari
アニ ポンタリ
手に持つ 酒差し
酒の盛られた酒差しを
- 1191 amba kane
アムバ カネ
持つ (同時)
手にして
- 1192 iyomare koro okai.
イヨマレ コロ オカイ。
酒を注ぐ 持つ ある
酌をして回っている。
- 1193 Chikup soba ta
チクフ ソバ タ
酒宴 上座 (場所)
宴の筵の上手に、
- 1194 chikup sokesh ta
チクフ ソケシ タ
酒宴 座の下手 (場所)
下手に
- 1195 inne kunip
インネ クニフ
大勢である すべきもの
多くの者どもが
- 1196 ukireotke
ウキレオツケ
膝でつき合う
膝をつつき、

*⁵ areka i ka isam の下略であろう。

第2章 シレプンサンタでの戦い

- 1197 **umoneotke kane.**
 ウモネオツケ カネ。
 肘でつつき合う (音節調整)
 肘をつつきあっている。
- 1198 **Hemanta am be**
 ヘマンタ アム ベ
 何 ある もの
 何者かが
- 1199 **eukobabise*6**
 エウコバピセ
 ひそひそ話をする
 ひそひそ言葉を
- 1200 **atte kane**
 アツテ カネ
 たたせる (音節調整)
 交わす。
- 1201 **Tambe kusu**
 タムベ クス
 これ (理由・目的)
 そこで
- 1202 **kisaruheubare an wa**
 キサルヘウバレ アン ワ
 盗み聴きをする ある (接続)
 我が聞き耳を立て
- 1203 **pirikano ikokanu an awa**
 ピリカノ イコカヌ アン アワ
 良く 聞く ある (展開)
 注意して耳を澄ますと、
- 1204 **“Nekon a shiko p**
 「ネコン ア シコ プ
 どのように 完了 生まれる もの
 「一体いかなる目つき (生まれの者) か、
- 1205 **nekona baro p**
 ネコナ バロ プ
 どのように 口がついている もの
 一体いかなる口つき (生まれの者) か、
- 1206 **a-borse katu**
 ア・ボロセ カトウ
 よばれる 様
 口の端にのぼる
- 1207 **Ponyaumbe**
 ポンヤウムベ
 小さな本土人
 陸に住むガキ
- 1208 **Toiyaumbe ne wa**
 トイヤウムベ ネ ワ
 汚い本土人 (繫辞類) (接続)
 陸に住む地べた野郎であって
- 1209 **tu moshiri kama**
 トウ モシリ カマ
 二つの 国土 越える
 多くの
- 1210 **re moshiri kama**
 レ モシリ カマ
 三つの 国土 越える
 国々を越えて
- 1211 **shiasurashte.**
 シアスラシテ。
 名高き者となる
 名が通っている。
- 1212 **Reb un kuru kusu**
 レ プン クル クス
 沖 ある 人 (理由・目的)
 外つ国に住む者であるから (我らとは
- 1213 **ki rusui be**
 キ ルスイ ベ
 する (欲求) もの
 違って) やりたいことといたら
- 1214 **rai ne wa he tap ne**
 ライ ネ ワ ヘ タプ ネ
 死ぬ (繫辞類) (接続) (疑問) これ (繫辞類)
 死ぬことだから、
- 1215 **moshiri ekari**
 モシリ エカリ
 国土 回る
 国を巡り
- 1216 **chiutattuye hawe an.**
 チウタットウイエ ハウエ アン。
 仲間を斬り殺す 声 ある
 我らが仲間を斬り殺そうというのだな。
- 1217 **I-nepkoro kane**
 イ・ネブコロ カネ
 我・ように (同時)
 我らと同じ
- 1218 **tu tek ush ainu**
 トウ テク ウシ アイヌ
 二つの 手 ある 人間
 二本の手を生やした人間、

*6 eukochapise と書かれることもある。

背鰭長の鯨

- 1219 tu chikir ush kur
 トウ チキリ ウシ クル
 二つの 足 ある 人
 二本の足の付いた男
- 1220 ne nankor be
 ネ ナンコロ ベ
 (繫辞類) だろう もの
 なのであろうが、
- 1221 teta henta
 テタ ヘンタ
 ここで (未詳)
 ここにでも
- 1222 ek wa ne yakne
 エク ワ ネ ヤクネ
 来る (接続) (繫辞類) (条件)
 やって来たなら
- 1223 tapne a-kar
 タプネ ア・カラ
 これである 我・する
 手ひどい仕打ち、
- 1224 anno a-kar.”
 アンノ ア・カラ。」
 (不明) 我・する
 ひどい仕置きをしてやる。」
- 1225 ari shine itak
 アリ シネ イタク
 (引用) 一つの 言葉
 と同じ言葉を
- 1226 eubaemko-
 エウバエムコ・
 口の半分
 一人が言い終わらぬうちに
- 1227 uina kane
 ウイナ カネ
 手に取る (音節調整)
 皆が取り合う。
- 1228 uwohumse-
 ウウオフムセ・
 力み声
 声に力をこめて
- 1229 echiuba kane
 エチウバ カネ
 刺す (音節調整)
 頷き合う。
- 1230 hawash chiki
 ハワシ チキ
 言われる (条件)
 そんな声を耳にして
- 1231 Shirebunsanta
 シレブンサンタ
 シレブンサンタ
 全き沖合のサンタの
- 1232 kiyanne ike
 キヤンネ イケ
 年長である こと
 長男が
- 1233 chihosarire
 チホサリレ
 振り返る
 おもむろに振り向いて
- 1234 chikupso kurka
 チクプソ クルカ
 酒宴の座 上
 宴の座を
- 1235 uwambare
 ウワムバレ
 見て調べる
 見渡し、
- 1236 hakma hakma
 ハクマ ハクマ
 ひそひそと話す ひそひそと話す
 小声でささやくように
- 1237 hase hase
 ハセ ハセ
 はあはあ言う はあはあ言う
 声を止め止め
- 1238 ene itak i:—
 エネ イタキ —
 このように 言う ことには
 言ったことには、
- 1239 “Koninkar kusu
 「コニンカラ クス
 さて (理由・目的)
 「なんとまあ、
- 1240 rametok utar
 ラメトク ウタラ
 勇者 たち
 勇者たちが

第2章 シレプンサンタでの戦い

- 1241 **somo am be**
ソモ アム ベ
(否定) あるもの
いないわけでもないのに。
- 1242 **tap ne utarpa sembir**
タップ ネ ウタラパ セムビリ
これ (繫辞類) 首領 陰
首領の陰を、
- 1243 **rametok sembir**
ラメトク セムビリ
勇者 陰
勇者の陰を
- 1244 **a-uraurakka ne.**
ア・ウラウラッカ ネ。
人・そしる (繫辞類)
そしるというものだ。
- 1245 **Ene hawash ko**
エネ ハワシ コ
このように 言われる (条件)
そんなことを言っている
- 1246 **yaikota**
ヤイコタ
自分で
自分の方が
- 1247 **a-esermaka-**
ア・エセレマカ・
我・背後
憑きの神の力を
- 1248 **bewam be ne**
ベワム ベ ネ
弱めるもの (繫辞類)
弱くするもの
- 1249 **yak a-ye na.” ari** itak1260 **Nei ta tap ne**
ヤク ア・イエ ナ。」 アリ イタク。 ネイ タ タップ ネ
ということ 言われる ぞ (引用) 言う どこ (場所) これ (繫辞類)
「というじゃないか。」と言う。 一体全体、
- 1250 **Ne rabokita**
ネ ラボキタ
(繫辞類) 間に
たちまち
- 1251 **batek nep hawe ka**
バテク ネプ ハウエ カ
のみ 何 声 も
それつきり、何の声も
- 1252 **nep humi ka isam.**
ネプ フミ カ イサム。
何 音 も 無い
いかなる音もしなくなる。
- 1253 **Orowa sui**
オロワ スイ
(始点) 再び
それからまた
- 1254 **ponno shirantek ko**
ポンノ シランテク コ
少し 時がたつ (条件)
少しすると
- 1255 **sui neino hawe okai.**
スイ ネイノ ハウエ オカイ。
再び ように 声 ある
またぞろ同じことを言う声がする。
- 1256 **Inu ne wa**
イヌ ネ ワ
聞く (繫辞類) (接続)
私がしたことといったら
- 1257 **a-ki p ne koroka**
ア・キ プ ネ コロカ
我・するもの (繫辞類) (逆接)
それを耳にしたことだけだが、
- 1258 **irushka keutum**
イルシカ ケウトウム
怒る 心
それだけで怒りが
- 1259 **a-yaikore ki.**
ア・ヤイコレ キ。
我・もつ する
こみあがる。
- 1261 **oikkeu sakno**
オイッケウ サクノ
原因 無くて
さしたる訳もなく
- 1262 **toi rebumbe**
トイ レブムベ
土 沖の人
腐れ沖人を

背鰭長の鯨

- 1263 **wen rebumbe utari**
 ウェン レブムベ ウタリ
 悪い 沖の人 仲間
 沖人の悪党どもを
- 1264 **a-tuiba wa kusu**
 ア・トゥイバ ワ クス
 我・切る (接続) (理由・目的)
 我が斬り殺した
- 1265 **chisembiroitak**
 チセムビロイタク
 陰口
 陰口を
- 1266 **i-y-ekarkar-an**
 イ・イエカラカラ・アン
 我・される
 我になした
- 1267 **haweokai chiki**
 ハウエオカイ チキ
 言う (条件)
 というのであれば、
- 1268 **a-santek ka ta**
 ア・サンテク カ タ
 我・手 上 (場所)
 私の腕に
- 1269 **chibukrototo.**
 チブクロトト。
 節々が鳴る
 血が脈動する。
- 1270 **Chikibo ka un**
 チキボ カ ウン
 行為 も (方向)
 すんでのところで
- 1271 **awoshma-an wa**
 アウオシマ・アン ワ
 中に入る (接続)
 中に入って
- 1272 **tan inne kuni p**
 タン インネ クニ プ
 この 大勢である はずの もの
 おびただしく群れる者らを
- 1273 **oro a-chari**
 オロ ア・チャリ
 所 我・散らす
 刈り取るように
- 1274 **oro a-nanke anke**
 オロ ア・ナンケ アンケ
 所 我・刈る しようとする
 まき散らそう (とも)
- 1275 **yainu an koroka**
 ヤイヌ アン コロカ
 考える ある (逆接)
 考えたが、
- 1276 **an-eramne**
 アネラムネ
 我・よく考える
 我は自制し (我が頭を低くして?)、
- 1277 **an-eyaikutum-**
 アネヤイケウトウム・
 我・己の気持ち
 我が心を
- 1278 **oubekare kane**
 オウベカレ カネ
 抑える (同時)
 抑えて
- 1279 **beken rera ne**
 ベケン レラ ネ
 明るい 風 (繫辞類)
 透明の風となって
- 1280 **sepka utur**
 セプカ ウトゥル
 簾の隙間 間
 (窓のとぼりの) 隙間を
- 1281 **a-yaibosore.**
 ア・ヤイボソレ。
 我・抜ける
 くぐり抜ける。
- 1282 **Shintoko sermak**
 シントコ セレマク
 ほかい 背後
 行器 (ほかい、シントコ) の陰を
- 1283 **beken rera ne**
 ベケン レラ ネ
 明るい 風 (繫辞類)
 透明な風となって
- 1284 **an-echararse.**
 アネチャララセ。
 我・流れ下る
 流れ去る。

p. 26

第2章 シレプンサンタでの戦い

- 1285 **A-yaikokutkoro-**
ア・ヤイコクッコロ・
我・帯
我は帯を
- 1286 **bitabita.**
ビタバタ。
ほどく
解く。
- 1287 **A-aktonoke**
ア・アクトノケ
我・弟君
我が弟の
- 1288 **kisarbuye**
キサラブイェ
耳の孔
耳の孔に
- 1289 **a-barkotukka**
ア・バラコトウッカ
我・口をつける
口をつけて
- 1290 **otu babiror**
オトゥ バビロロ
二つの 密かな呪文
数々の
- 1291 **ore babiror**
オレ バビロロ
三つの 密かな呪文
言葉を (呪文を)
- 1292 **a-koturikar kane**
ア・コトゥリカラ カネ
我・長々と言う (同時)
述べつつ
- 1293 **a-shiseturka-**
ア・シセトゥルカ・
我・おのれの背
私の背に
- 1294 **eterkere.**
エテレケレ。
跳ねとばす
跳ね上げる。
- 1295 **Bakkai atbo**
バツカイ アツボ
赤子を背負う 紐
おんぶ紐を
- 1296 **a-yaikoyubu.**
ア・ヤイコユブ。
我・体に締める
締める。
- 1297 **Shintoko sembir**
シントコ セムビリ
ほかい 陰
行器の陰に
- 1298 **an-ehorari.**
アネホラリ。
我・居る
我は座る。
- 1299 **An-an yakka**
アナン ヤッカ
いる・我 (譲歩)
我がいるにもかかわらず、
- 1300 **nen ka nukar^{*7} be**
ネン カ ヌカラ ベ
誰 も 見る もの
誰か我を見る者が^ス
- 1301 **ne wa ne yakne**
ネ ワ ネ ヤクネ
(繫辞類) (接続) (繫辞類) (条件)
いても
- 1302 **kotom korokaiki**
コトム コロカイキ
ようである (逆接)
よさそうなのに
- 1303 **shinen ka somo i-nukar.**
シネン カ ソモ イ・ヌカラ。
一人 も (否定) 我・見る
一人として我を見ない。
- 1304 **A-ak tonoke batek**
ア・アク トノケ バテク
我・弟 殿 のみ
我が弟だけが^ス
- 1305 **an ruwe ne kuni**
アン ルウェ ネ クニ
ある 跡 (繫辞類) ように
いるだけと
- 1306 **inne kunip**
インネ クニプ
大勢である すべきもの
大勢の者らは

^{*7} i-nukar とすべきではなからうか。

背鰭長の鯪

- 1307 **ramuba hine**
ラムバ ヒネ
思う (接続)
思って
- 1308 **i-koiyomare-an.**
イ・コイヨマレ・アン。
我・酒を注がれる
我に酒を注ぐ。
- 1309 **Iku-an wa**
イク・アン ワ
酒を飲む・我 (接続)
飲んで
- 1310 **inkar-an ko**
インカラ・アン コ
見る・我 (条件)
みると、
- 1311 **ineapkusu**
イネアプクス
何と
存外
- 1312 **keraan wa**
ケラアン ワ
味がある (接続)
おいしく
- 1313 **humash nankor a.**
フマシ ナンコラ。
気配がする だろう か
思われ、驚く。
- 1314 **Tanepo tap ne**
タネポ タプ ネ
たった今 これ (繫辞類)
今初めて
- 1315 **tonoto ari a-ye p**
トノト アリ ア・イエ プ
酒 (引用) 言われる もの
酒というものを
- 1316 **a-ku wa inu-an.**
ア・ク ワ イヌ・アン。
我・飲む (接続) 聞く・我
飲み、味わう。
- 1317 **Sonno a-sambe ba wa**
ソンノ ア・サムベ バ ワ
真に 我・心臓 上 (接続)
実に我が心臓の上 (かみ) から
- 1318 **a-sambe kesh wa**
ア・サムベ ケシ ワ
我・心臓 末端 から
下 (しも) までが
- 1319 **koshituriri.**
コシトゥリリ。
のびのびとする
ために寛ぐ。
- 1320 **A-esambeshituri.**
ア・エサムベシトゥリ。
我・心落ち着く
心臓がのびやかになる。
- 1321 **Boronno iku-an.**
ボロンノ イク・アン。
たくさん 酒を飲む・我
我は、多飲する。
- 1322 **Shirebunsanta**
シレブンサンタ
シレブンサンタ
沖つサンタの
- 1323 **kianne ike**
キヤンネ イケ
年長である こと
長男が
- 1324 **ene itak i:—**
エネ イタキ —
このように 言う ことには
言うことには、
- 1325 **“Hetak hetak**
「ヘタク ヘタク
さあ さあ
「さあ、さあ
- 1326 **ya un hekachi**
ヤ ウン ヘカチ
(疑問) ある 子供
陸の子供と
- 1327 **a-eshinot**
ア・エシノツ
我・もてあそぶ
遊んで
- 1328 **kusu ne na.**
クス ネ ナ。
(理由・目的) (繫辞類) ぞ
やろう。

第2章 シレブンサンタでの戦い

- 1329 **Nekon ne humi**
 ネコン ネ フミ
 どのように (繫辞類) 気配
 いかなることで
- 1330 **ne nankor a.**
 ネ ナンコラ。
 (繫辞類) だろう か
 であろうか。
- 1331 **A-sermakkonna-**
 ア・セレマクコンナ・
 我・守り神
 我が守り神が
- 1332 **orai kane**
 オライ カネ
 おどおどする (音節調整)
 怖じ気づき、
- 1333 **kibip kane**
 キビア カネ
 どきどきする (音節調整)
 びくびく、どきどきしているように
- 1334 **yainu-an na.**
 ヤイヌ・アン ナ。
 考える・我 ぞ
 思われる。
- 1335 **Taan hekachi**
 タアン ヘカチ
 この 子供
 この子供を
- 1336 **tunashno**
 トゥナシノ
 早く
 さっさと
- 1337 **a-eshinot okere**
 ア・エシノッ オケレ
 我・もてあそぶ (完了)
 やって
- 1338 **somoki ko anakne**
 ソモキ コ アナクネ
 しない (条件) は
 しまわないと
- 1339 **ramushinne-an wa**
 ラムシンネ・アン ワ
 我安心する (接続)
 心落ち着かず
- 1340 **iku-an eaikap**
 イク・アン エアイカプ
 酒を飲む・我 できない
 酒も飲めない
- 1341 **ruwe ne ari**
 ルウェ ネ アリ
 跡 (繫辞類) (引用)
 ぞ。」と
- 1342 **haweian chiki**
 ハウェアン チキ
 言う (条件)
 言うのと、
- 1343 **inne kunip**
 インネ クニプ
 大勢である すべきもの
 大勢の者らが
- 1344 **“Ohaine ohaine**
 「オハイネ オハイネ
 なるほど なるほど
 「なるほど、確かにそうだ。
- 1345 **aokai ne yakka**
 アオカイ ネ ヤクカ
 我 (繫辞類) (譲歩)
 我らも
- 1346 **nekon ne humi**
 ネコン ネ フミ
 どのように (繫辞類) 気配
 どうした
- 1347 **ne nankor a,**
 ネ ナンコラ、
 (繫辞類) だろう 完了
 ことか
- 1348 **eshiri wano**
 エシリ ワノ
 先程 から
 先程から
- 1349 **a-konramkonna-**
 ア・コンラムコンナ・
 我・抱く気持ち
 心の持ちようが
- 1350 **kibip kane**
 キビア カネ
 どきどきする (音節調整)
 ざわざわ

背鰭長の鯪

- 1351 orai kane
オライ カネ
おどおどする (音節調整)
どきどき怯えが
- 1352 humash awa.” ari
フマシ アワ。」 アリ
気配がする (展開) (引用)
走るような気がする。」と
- 1353 utashba utashba
ウタシバ ウタシバ
互いに 互いに
口々に言葉を交わす
- 1354 hawe okai chiki
ハウエ オカイ チキ
声 ある (条件)
声がするので、
- 1355 rauki mina
ラウキ ミナ
密かに 笑う
我は密かな嘲りの笑いを
- 1356 a-uwesuye.
ア・ウウエスイエ。
我・思う
禁じえない。
- 1357 “Hokure hokure
「ホクレ ホクレ
早く 早く
「さあさあ、
- 1358 ya un hekachi,
ヤ ウン ヘカチ、
(疑問) ある 子供
陸の子供よ、
- 1359 teta abe sam ta san!
テタ アベ サム タ サン!
ここで 火 そば (場所) くだる
ここに、炉のそばに出てこい。
- 1360 Ponno e-eshinot-
ポンノ エ・エシノツ・
少し 汝・遊ぶ
いささかお相手
- 1361 an kusu ne na.” ari
アン クス ネ ナ。」 アリ
ある (理由・目的) (繫辞類) ぞ (引用)
してあげよう。」と
- 1362 hawash chiki
ハワシ チキ
言われる (条件)
(沖つサンタらが) 言うので、
- 1363 shintoko teksam wa
シントコ テクサム ワ
ほかい すぐそば (接続)
行器の陰から
- 1364 a-kishimatu*8
ア・キシマトゥ
我・抑える紐
我がつかむ紐 (?)
- 1365 rorunso ka ta
ロルンソ カ タ
上座 上 (場所)
上座に
- 1366 a-teshkosanu.
ア・テシコサヌ。
我・すべって行く
我は滑るように現れる。
- 1367 A-yaikokutkoro-
ア・ヤイコクッコロ・
我・帯
我は我が身から帯を
- 1368 bita bita.
ビタ ビタ。
解く 解く
ほどく。
- 1369 Koeramno
コエラムノ
同時に
それと同時に
- 1370 senne nak sui
センネ ナク スイ
(否定) (?) 再び
まさか
- 1371 shiriki kuni
シリキ クニ
そのような有様である ように
こんなことが起ころうかと

*8 a-kishma atu か? それにしても解釈できない。

- 1372 a-ramu a i
ア・ラム ア イ
我・思う 完了 こと
思いもしていないのに
- 1373 a-seturkashike wa
ア・セトゥルカシケ ワ
我・背の上 から
我が後ろに
- 1374 a-aktonoke
ア・アクトノケ
我・弟君
我が弟が
- 1375 beken rera ne
ベケン レラ ネ
明るい 風 (繫辞類)
透明な風となって
- 1376 rikunsui kurka
リクンスイ クルカ
煙出しの穴 上
煙出しの孔から
- 1377 echararse.
エチャララセ。
滑り落ちる
滑るように降りてくる。
- 1378 Uwok kani kut
ウウォク カニ クツ
引っかかりあう 黄金 帯
我はバックルの付いた帯を
- 1379 a-tumamko-
ア・トゥمامコ・
我・胴
胴に
- 1380 saye kane
サイエ カネ
群れ (音節調整)
締めて
- 1381 tan arka itak
タン アラカ イタク
この 痛い 言葉
激しく耳に痛い言葉を
- 1382 a-eterkere.
ア・エテレケレ。
我・投げつける
浴びせる。
- 1383 “Achikarata
「アチカラタ
イヤッ!
「ああ、
- 1384 ayakannata,
アヤカンナタ、
ろくでもないことだ
いやだ、いやだ。
- 1385 toi rebumbe
トイ レブムベ
土 沖の人
腐れ沖つ人
- 1386 wen rebumbe
ウェン レブムベ
悪い 沖の人
悪しき沖つ人
- 1387 utarorke
ウタロロケ
たち
どもが
- 1388 katkoro hawe
カッコロ ハウエ
振舞う 声
言う言葉こそ
- 1389 a-oyamokte na.
ア・オヤモクテ ナ。
我・不思議に思う ぞ
あきれ果てたこと。
- 1390 Nep ikkewe
ネプ イクケウエ
何 元
どんな理由が
- 1391 eonebare
エオネバレ
ために
あるものか
- 1392 neita bakno
ネイタ バクノ
いつ まで
いつまでも
- 1393 chiukokeshke
チウコケシケ
嫉まれる
皆してそねみ

背鰭長の鯢

- 1394 **chiraike rusui**
 チライケ ルスイ
 殺される (欲求)
 殺してやりたい、
- 1395 **chituye rusui**
 チトウイエ ルスイ
 切れた (欲求)
 斬り殺したいという思いを
- 1396 **echi-i-y-ekarkar.**
 エチ・イ・イエカラカラ。
 汝ら我に対してなす
 汝らは我に対して抱く。
- 1397 **Shisembiroitak**
 シセムビロイタク
 陰口
 陰でこそこそ言う
- 1398 **ne yakka**
 ネ ヤッカ
 (繫辞類) (譲歩)
 のでさえ
- 1399 **orsaureko**
 オロサウレコ
 とんでもなく
 由々しいことなのに
- 1400 **echi-ki hawe**
 エチ・キ ハウエ
 汝ら・する 声
 汝らがすることは
- 1401 **tambe ne ya?**
 タムベ ネ ヤ?
 これ (繫辞類) (疑問)
 こんなことなのか。
- 1402 **Taban tonoto**
 タバン トノト
 この 酒
 いったい、この酒で
- 1403 **nep kamui**
 ネブ カムイ
 何 神
 どんな神を
- 1404 **echi-enomi kusu**
 エチ・エノミ クス
 汝ら・祭る (理由・目的)
 祭ろうとて
- 1405 **echi-kar tonoto**
 エチ・カラ トノト
 汝ら・作る 酒
 醸した
- 1406 **ne ruwe ta an**
 ネ ルウェ タ アン
 (繫辞類) 跡 (感嘆) ある
 ものであるのか。
- 1407 **a-aktonoke**
 ア・アクトノケ
 我・弟君
 弟を
- 1408 **nekon a tap ne**
 ネコン ア タブ ネ
 どのように 完了 これ (繫辞類)
 いったいどのように
- 1409 **echi-eshinot**
 エチ・エシノツ
 汝ら・遊ぶ
 構いたいと
- 1410 **rusui hawe an ya?**
 ルスイ ハウエ アン ヤ?
 (欲求) 声 ある (疑問)
 いうのか。
- 1411 **aokai ne yakka**
 アオカイ ネ ヤッカ
 我 (繫辞類) (譲歩)
 我もまた
- 1412 **shinot-an rusui na.**
 シノツ・アン ルスイ ナ。
 我・遊ぶ (欲求) ぞ
 遊んでやりたいものだ。
- 1413 **Hokure hokure,**
 ホクレ ホクレ、
 早く 早く
 さあさあ、かかってこい。
- 1414 **an ko pirika p**
 アン コ ピリカ プ
 ある (条件) よい もの
 あって良いものが
- 1415 **rai ne hawe ne chiki**
 ライ ネ ハウエ ネ チキ
 死ぬ (繫辞類) 声 (繫辞類) (条件)
 死であるというのなら、

- 1416 **shinot-an kusu ne.**
シノッ・アン クス ネ。
我・遊ぶ (理由・目的) (繫辞類)
お相手してさしあげよう。
- 1417 **Ikkewe ta**
イッケウエ タ
元 (場所)
理において
- 1418 **echi-kor epirka p**
エチ・コロ エピリカ プ
汝ら・持つ 勝る もの
汝らが勝るもの
- 1419 **ne wa ne yakne**
ネ ワ ネ ヤクネ
(繫辞類) (接続) (繫辞類) (条件)
ならば、
- 1420 **shine hekachi**
シネ ヘカチ
一つの 子供
我は、一介の幼児、
- 1421 **shine okkayo**
シネ オッカヨ
一つの 男
一介の青い男で
- 1422 **a-ne kusu**
ア・ネ クス
我・である (理由・目的)
あるのだから、
- 1423 **chiattamnere**
チアットムネレ
一刀のもとに斬る
汝らは我を
- 1424 **echi-i-y-ekarkar**
エチ・イ・イエカラカラ
汝ら我に対してなす
一刀両断にできる
- 1425 **nankoro koroka**
ナンコロ コロカ
だろう (逆接)
であろうが、
- 1426 **ikkewe ta**
イッケウエ タ
元 (場所)
理において
- 1427 **echi-koro ewem be**
エチ・コロ エウエム ベ
汝ら・持つ 劣る もの
汝らが劣る
- 1428 **ne yakanakne**
ネ ヤカナクネ
(繫辞類) ならば
ならば、
- 1429 **Shirebunsanta**
シレブンサンタ
シレブンサンタ
沖つサンタの国が
- 1430 **tanne yakka**
タンネ ヤッカ
長い (譲歩)
長かろうが
- 1431 **takne yakka**
タクネ ヤッカ
短い (譲歩)
短かろうが
- 1432 **arshitteke**
アラシッテケ
全ての枝葉
(その国土は) 一片も
- 1433 **a-koisamka**
ア・コイサムカ
無くさせられる
無くして
- 1434 **kusu ne na.**
クス ネ ナ。
(理由・目的) (繫辞類) ぞ
しまうだろう。
- 1435 **Eramokai yan.” ari**
エラモカイ ヤン。」 アリ
知る (命令) (引用)
覚悟しやがれ。」と
- 1436 **itak-an kane**
イタク・アン カネ
言う・我 (同時)
我は言うと
- 1437 **hokaetok ta**
ホカエトク タ
横座 (場所)
炉の上手に

背鰭長の鯢

- 1438 yupke tesh ne
ユプケ テシ ネ
強い (川の) 止め (繫辞類)
頑丈な網代のように
- 1439 a-yaishiretchiu.*⁹
ア・ヤイシレッチウ。
我・大地に立つ
立ちふさがった。
- 1440 Inne kunip
インネ クニプ
大勢である すべきもの
大勢の者たちの
- 1441 kurkashike
クルカシケ
上
上を
- 1442 a-uwambare
ア・ウワムバレ
我・調べる
見渡し、
- 1443 a-einkar kunip
ア・エインカラ クニプ
我・～で見る すべきもの
我がそれもて見るもの、すなわち目が
- 1444 tu pon nochiu ne
トゥ ポン ノチウ ネ
二つの 小さい 星 (繫辞類)
二つの小さな星となって
- 1445 uweutuisam-
ウウエウトウイサム・
等間隔に
並び
- 1446 ante kane
アンテ カネ
あらしめる (音節調整)
立ち
- 1447 an-an chiki
アナン チキ
いる・我 (条件)
我いると、
- 1448 tan inne kunip
タン インネ クニプ
この 大勢である すべきもの
この大勢の者らは
- 1449 homatpa rui be
ホマツパ ルイ ベ
驚く 激しい もの
大いに驚いて
- 1450 shine ikin ne
シネ イキン ネ
一つの 列 (繫辞類)
一度に
- 1451 i-kurkashike
イ・クルカシケ
我・上
我に
- 1452 shikomarba
シコマラバ
目を向ける
眼差しを据えた。
- 1453 Tu urar ikkeu
トゥ ウララ イクケウ
二つの 霧 元
我を包むおびただしい霧の
- 1454 re urar ikkeu
レ ウララ イクケウ
三つの 霧 元
根元を
- 1455 i-kocharikar
イ・コチャリカラ
我・払う
払い、
- 1456 ainu kat ne
アイヌ カツ ネ
人間 姿 (繫辞類)
人の姿を
- 1457 i-kar-an kuni
イ・カラ・アン クニ
我・される ように
現そうとするので
- 1458 wen hayaise
ウエン ハヤイセ
悪い 叫び声
激しい声を

*⁹ -t- を落とした a-yaishiretchiu として解釈する。しっかりと立つこと。

- 1459 **an-i-y-ekote**
 アニ・イエコテ
 我・結びつけられる
 あげる。
- 1460 **tu nishte urar**
 トウ ニシテ ウララ
 二つの かたい 霧
 我は、固い霧を
- 1461 **re nishte urar**
 レ ニシテ ウララ
 三つの かたい 霧
 ふんだんに
- 1462 **a-shiokarire kane.**
 ア・シオカリレ カネ。
 我・めぐらせる (音節調整)
 我が身の周りに巡らせる。
- 1463 **Hushkotoi wano**
 フシコトイ ワノ
 以前 から
 (サンタ人は) しばらく
- 1464 **i-kourarchari rok ine**
 イ・コウララチャリ ロク イネ
 我・霧を散らす (完了) (接続) どこ
 我が周りから霧を散らそうとしていたが、
- 1465 **makan okai be**
 マカン オカイ ベ
 どのように ある もの
 ある者には
- 1466 **i-nukar**
 イ・ヌカラ
 我・見る
 我が見られて、
- 1467 **makan okai be**
 マカン オカイ ベ
 どのように ある もの
 ある者には
- 1468 **somo i-nukar.**
 ソモ イ・ヌカラ。
 (否定) 我・見る
 我が見られない。
- 1469 **I-nukar wa okai be**
 イ・ヌカラ ワ オカイ ベ
 我・見る (接続) ある もの
 我を見ている者は
- 1470 **konep kamuye**
 コネプ カムイェ
 何 神
 (我が) どんな神であるか、
- 1471 **konep bitoho**
 コネプ ビトホ
 何 人
 何という人かと (恐れ感嘆し)
- 1472 **koshikraiba p**
 コシクライバ プ
 目撃する もの
 我に眼差しを留め、
- 1473 **kanibor ka ta**
 カニボロ カ タ
 顔色 上 (場所)
 顔色を
- 1474 **koraikosamba**
 コライコサムバ
 蒼ざめる
 失い、
- 1475 **i-tukarikebo**
 イ・トゥカリケボ
 我・前
 我的手前に
- 1476 **koshikerana-**
 コシケラナ・
 目を下に
 目を
- 1477 **atte kane.**
 アッテ カネ。
 たたせる (音節調整)
 落とす。
- 1478 **Shine ikin ne**
 シネ イキン ネ
 一つの 列 (繫辞類)
 皆一斉に (驚き、心臓が飛び
- 1479 **shietu uina**
 シエトゥ ウイナ
 鼻 手に取る
 出ないようにと) 鼻をふさぎ
- 1480 **shibar uina.**
 シバラ ウイナ。
 自分の口 手に取る
 口をふさぐ。

背鰭長の鯨

- 1481 “Sonno he tap ne
「ソンの ヘ タブ ネ
真に (疑問) これ (繫辞類)
「なんとまあ、
- 1482 Ponyaumbe
ポンヤウムベ
小さな本土人
ポイヤウンベ、
- 1483 Toiyaumbe
トイヤウムベ
汚い本土人
汚い陸の人。
- 1484 Atanan ainu
アタナン アイヌ
ただの 人間
ただの凡人
- 1485 ne be ka ahun wa
ネ ベ カ アフン ワ
(繫辞類) もの も 入る (接続)
である者でも入って来て*10
- 1486 tetashintoko kir sam ta
テタ シントコ キリ サム タ
ここで ほかい 列 そば (場所)
この行器のそばに
- 1487 akihi kai kane
アキヒ カイ カネ
弟 折れる (同時)
その弟を背負って
- 1488 a ruwe ne
ア ルウェ ネ
座る 跡 (繫辞類)
座って
- 1489 rok okai ko
ロク オカイ コ
(完了) ある (条件)
いるとは。
- 1490 akihi batek a wa
アキヒ バテク ア ワ
弟 のみ 座る (接続)
弟だけが座って
- 1491 an ruwe ne kuni
アン ルウェ ネ クニ
ある 跡 (繫辞類) ように
いると
- 1492 a-ramu kusu
ア・ラム クス
我・思う (理由・目的)
思っていたから
- 1493 tane a-eshinot wa
タネ ア・エシノツ ワ
今 我・もてあそぶ (接続)
今こそ相手になって
- 1494 a-raike p kunip
ア・ライケ プ クニプ
我・殺す もの すべきもの
殺してやるべき者と
- 1495 ari yainu-an kusu
アリ ヤイヌ・アン クス
(引用) 考える・我 (理由・目的)
思っていたので、
- 1496 ikarashki tonoto
イカラシキ トノト
もったいない 酒
もったいない酒を
- 1497 a-kure shiri ne kuni
ア・クレ シリ ネ クニ
我・飲ませる 様子 (繫辞類) ように
飲ませようと
- 1498 a-ramu awa
ア・ラム アワ
我・思う (展開)
思っていたが、
- 1499 oroyachiki
オロヤチキ
驚いたことに
たまげたことに
- 1500 Ponyaumbe
ポンヤウムベ
小さな本土人
おまえはちびの陸の人、
- 1501 Toiyaumbe e-ne.
トイヤウムベ エ・ネ。
汚い本土人 汝・である
土塊の陸の人であった。
- 1502 Hushko toi wano
フシコ トイ ワノ
以前 土 から
久しく

*10 この行の意味、よく分からない。

第2章 シレブンサンタでの戦い

- 1503 **baro a-ramu**
 バロ ア・ラム
 生まれ(?) 我・思う
 (未詳)
- 1504 **shiri ne**
 シリ ネ
 様子 (繫辞類)
 に見えるの
- 1505 **ne awan.**
 ネ アワン。
 (繫辞類) のだった
 であった。*11
- 1506 **Sonno hetap ne**
 ソンノ ヘタップ ネ
 真に これ (繫辞類)
 嘘か真か
- 1507 **Shirebunsanta**
 シレブンサンタ
 シレブンサンタ
 沖つサンタには
- 1508 **nuburkur batek**
 ヌブルクル バテク
 霊力のある者 のみ
 霊の力のある者ばかりが
- 1509 **uwatte kuni**
 ウワッテ クニ
 集まる ように
 五万といると
- 1510 **a-ramu awa**
 ア・ラム アワ
 我・思う (展開)
 と思っていたが、
- 1511 **Poyaumbe***12
 ポヤウムベ
 ポイヤウンベ
 土塊の
- 1512 **Toiyaumbe**
 トイヤウムベ
 汚い本土人
 ポイヤウンベの
- 1513 **chinuburkasure ne yakka**
 チヌブルカスレ ネ ヤクカ
 霊力が強い (繫辞類) (譲歩)
 優れた霊の力のうち
- 1514 **orsaureko i-y-ekarkar**
 オロサウレコ イ・イエカラカラ
 とんでもなく 我・する
 とてつもないものを我らになし
- 1515 **shiri okai.” ari**
 シリ オカイ。」 アリ
 様子 ある (引用)
 ているのだな」と
- 1516 **ukooshserke-**
 ウコオシセレケ・
 皆が驚く
 皆して驚嘆の
- 1517 **haukanroise kane.**
 ハウカンロイセ カネ。
 声が騒がしい (音節調整)
 声をあげる。
- 1518 **“Hokure Ponyaumbe**
 「ホクレ ポンヤウムベ
 早く 小さな本土人
 さあ、急ぎポイヤウンベの

2.2 戦い始まる

- 1519 **akihi kirare wa**
 アキヒ キラレ ワ
 弟 逃がす (接続)
 弟を逃がして
- 1520 **isam yakka**
 イサム ヤクカ
 いない (譲歩)
 いなくなったら
- 1521 **Ponyaumbe**
 ポンヤウムベ
 小さな本土人
 ポイヤウンベの
- 1522 **a-eshinot**
 ア・エシノッ
 我・もてあそぶ
 相手を
- 1523 **kusu ne.” ari**
 クス ネ。」 アリ
 (理由・目的) (繫辞類) (引用)
 してやろう。」と

*11 この3行の意味、分からない。

*12 Ponyaumbe のこと。

背鰭長の鯨

p. 31

- 1524 uwohumse-
ウウオフムセ・
力み声
雄叫びをあげて
- 1525 echiu kane
エチウ カネ
刺す (音節調整)
励まし合い、
- 1526 rametok utar
ラメトク ウタラ
勇者 たち
猛者どもが
- 1527 shinen ranke
シネン ランケ
一人 (反復)
一人ずつ
- 1528 i-kotchake ta
イ・コッチャケ タ
我・前 (場所)
我が前に
- 1529 teshkosamba
テシコサムバ
音もなく立つ
さっと現れる。
- 1530 Hoshki ruino
ホシキ ルイノ
先に 甚だしく
まずは
- 1531 a-kotekturi
ア・コテクトゥリ
我・手を伸ばす
手を伸ばし
- 1532 an-eshikari
アネシカリ
我・つかむ
捉えると
- 1533 chikap korachi
チカプ コラチ
鳥 ように
鳥のように
- 1534 ikkeu kiror
イクケウ キロロ
腰 力
胴の力、
- 1535 mon tum kiror
モン トウム キロロ
腕 中 力
腕の力を
- 1536 a-yaikosanke
ア・ヤイコサンケ
我・産む
發揮して
- 1537 oman inumbe
オマン イヌムベ
行く 焔縁
長々と伸びた
- 1538 inumbe kurka
イヌムベ クルカ
焔縁 上
焔縁木の上に
- 1539 an-ekik humi
アネキク フミ
たたきつけられる 音
叩きつけると、その音が
- 1540 rimkosanu.
リムコサヌ。
ドスンと鳴る
響き渡る。
- 1541 Nittek kewe
ニツテク ケウエ
硬い 身体
ぐにやりとなった骸が
- 1542 chikususuye.
チクススイエ。
転がる
ごろりと転がる。
- 1543 A-temka konna
ア・テムカ コンナ
我・手元 は
我が腕は
- 1544 barkosanu
バラコサヌ
光る
燃え立つ。
- 1545 Yupke tamkur
ユプケ タムクル
強い 太刀影
激しい太刀を

第2章 シレブンサンタでの戦い

- 1546 a-koterkere
ア・コテレケレ
我・とばす
我はひらめかせると
- 1547 inoto orke
イノト オロケ
魂 所
死んだ魂の
- 1548 hobuni humi
ホブニ フミ
飛ぶ 音
飛び立つ音が
- 1549 keurototke.
ケウロトツケ。
響く
鳴り渡る。
- 1550 Inne kunip
インネ クニプ
大勢である すべきもの
皆々の
- 1551 shiyoro hawe
シヨロ ハウエ
驚く 声
呆れかえる声、
- 1552 humse hawe
フムセ ハウエ
声を出す 声
うなる声が
- 1553 chiutasare.
チウタサレ。
入り乱れる
交錯する。
- 1554 Oshi ek be
オシ エク ベ
追いかけて 来る もの
次に挑みくる者も
- 1555 arukorachi.
アルコラチ。
同じく
全く同様な目に遭う。
- 1556 Irukaikai ne ko
イルカイカイ ネ コ
すぐに (繋辞類) (条件)
すぐに
- 1557 tu p a-raike
トゥ プ ア・ライケ
二つの もの 我・殺す
おびただし
- 1558 re p a-raike.
レ プ ア・ライケ。
三つの もの 我・殺す
敵を我は殺した。
- 1559 Nei korachi
ネイ コラチ
そのとき ように
それと同時に
- 1560 chashi tap ka ta
チャシ タプ カ タ
チャシ これ 上 (場所)
屋根の上で
- 1561 a-turen kamui
ア・トゥレン カムイ
我・悪く 神
我が憑き神、
- 1562 tu inkush kamui
トゥ インクシ カムイ
二つの 危険な予感がする 神
おびただし
- 1563 re inkush kamui
レ インクシ カムイ
三つの 危険な予感がする 神
予見の神が
- 1564 kohumbushba
コフメブシバ
音がたつ
爆発的に音を鳴らす。
- 1565 Tata otta
タタ オッタ
ここ (場所)
まさにそのとき
- 1566 shiyutarkorbe
シユタラコロベ
族長
首領
- 1567 utarorke
ウタロロケ
たち
たちが

背鰭長の鯨

- 1568 **uhobumbare**
 ウホブムバレ
 立ち上がる
 一斉に立ち上がり、
- 1569 **i-ukotoisere**
 イ・ウコトイセレ
 我・集まる
 我に向かって蝟集し、
- 1570 **i-eshikarba**
 イ・エシカラバ
 我・つかみかかる
 我につかみかかろうと
- 1571 **kusu ne ko**
 クス ネ コ
 (理由・目的) (繫辞類) (条件)
 するので
- 1572 **hoshki ruino**
 ホシキ ルイノ
 先に 甚だしく
 最初のやつを
- 1573 **a-eshikarba**
 ア・エシカラバ
 我・つかみかかる
 捉え、さらに
- 1574 **uoshioishi**
 ウオシオシ
 次々と
 次々と
- 1575 **inumbe kurka**
 イヌムベ クルカ
 焔縁 上
 焔縁の上に
- 1576 **an-ekik**
 アネキク
 たたきつけられる
 叩きつけ、
- 1577 **an-etuiba.**
 アネトウイバ。
 我・斬り殺す
 その上で斬り殺す。
- 1578 **Tane anakne**
 タネ アナクネ
 今 は
 今や、
- 1579 **burai kari**
 ブライ カリ
 窓 から
 窓から
- 1580 **tu shupne rera**
 トウ シュプネ レラ
 二つの 渦になっている 風
 多くの
- 1581 **re shupne rera**
 レ シュプネ レラ
 三つの 渦になっている 風
 巻き風が
- 1582 **chiesurure.**
 チエスルレ。
 覆う
 入ってくる。
- 1583 **Shisotta terke-an**
 シソッタ テレケ・アン
 右座に 跳ねる・我
 我は右座で暴れまわり、
- 1584 **harkisotta terke-an.**
 ハラキシソッタ テレケ・アン。
 左座に 跳ねる・我
 左座で跳ねまわる。
- 1585 **Shiokamkino**
 シオカムキノ
 わざと知らない振りをして
 わざと
- 1586 **a-ki p ne kusu**
 ア・キ プ ネ クス
 我・する もの (繫辞類) (理由・目的)
 知らない振りをして
- 1587 **rupne abekesh**
 ルプネ アベケシ
 大きい 燃えさし
 大きな燃えさしと
- 1588 **nokan abekesh**
 ノカン アベケシ
 幼い 燃えさし
 小さな燃えさしを
- 1589 **a-ureechari**
 ア・ウレエチャリ
 我・足で蹴散らす
 我は蹴散らし、

p. 32

- 1590 **amso ka ta**
 アムソ カ タ
 寝台 上 (場所)
 寝床の上は
- 1591 **kabara nuibo**
 カバラ ヌイボ
 薄い 炎
 薄い炎が
- 1592 **ukonuikur-**
 ウコヌイクル・
 盛んに炎が
 舞い
- 1593 **bashte kane.**
 バシテ カネ。
 走らせる (音節調整)
 上がる。
- 1594 **Kohanepo***13
 コハネポ
 おかしなことに
 笑うべし、
- 1595 **shirushka kunip**
 シルシカ クニプ
 火事を消す すべきもの
 火を消そうとする者が
- 1596 **nui tukari**
 ヌイ トウカリ
 炎 手前
 炎に向けて
- 1597 **eush eush.**
 エウシ エウシ。
 顔を付ける 顔を付ける
 駆けつける。
- 1598 **A-nuikotata**
 ア・ヌイコタタ
 我・炎とともに打つ
 我はそれを炎とともに切り捨て、
- 1599 **a-nuikootke.**
 ア・ヌイコオツケ。
 我・炎とともに突く
 炎とともに突き殺す。

2.3 二人の娘と弟の活躍

- 1600 **Kanakan kuni p**
 カナカン クニ プ
 どういう はずの もの
 何者かが、
- 1601 **burai ot ta**
 ブライ オツ タ
 窓 所 (場所)
 窓辺で
- 1602 **soyumba p**
 ソユムバ プ
 外に出る もの
 外に逃れようとする者の
- 1603 **ekantuye**
 エカントウイェ
 頭を切り落とす
 頭を切り
- 1604 **ekanchari,**
 エカンチャリ、
 頭を切り飛ばす
 飛ばす。
- 1605 **aba ot ta**
 アバ オツ タ
 簾戸 所 (場所)
 (何者かが) 戸口で
- 1606 **soyumba p**
 ソユムバ プ
 外に出る もの
 外に出ようとする者の
- 1607 **ekantuye**
 エカントウイェ
 頭を切り落とす
 頭を切り、
- 1608 **ekanchari kane.**
 エカンチャリ カネ。
 頭を切り飛ばす (音節調整)
 飛ばす。
- 1609 **Tane eashiri**
 タネ エアシリ
 今 それこそ
 今やようやく
- 1610 **chashi kar be**
 チャシ カラ ベ
 チャシ 打つ もの
 館を打つ風の音が

*13 kohanepo という形で解釈する。

背鰭長の鯨

- 1611 kosebebatki.
コセベバッキ。
鳴る
ほのかに聞こえる。
- 1612 Toyan kar be
トヤン カラ ベ
地面 打つ もの
地を打つ風の音が
- 1613 koturimimse.
コトゥリミムセ。
響き渡る
響く。
- 1614 Tam boro chise
タム ボロ チセ
この 大きい 家
広壮な家屋に
- 1615 nuikokushke.
ヌイコクシケ。
火事になる
火が付く。
- 1616 Tane rapték kuni
タネ ラフテク クニ
今 落ちる すべきとき
今や焼け落とす
- 1617 kotboke ta
コッボケ タ
直前 (場所)
ときに
- 1618 soyoterke-an.
ソヨテレケ・アン。
外に飛び出す・私
我は外に飛び出る。
- 1619 Inkar-an ko
インカラ・アン コ
見る・我 (条件)
気づくと
- 1620 taban boro kotan
タバン ボロ コタン
この 大きい 村
この大きな村
- 1621 kotan kurkashi
コタン クルカシ
村 上
一面に
- 1622 hau shitaiki.
ハウ シタイキ。
声 振り上げる
声があがっている。
- 1623 Neita am be
ネイタ アム ベ
どこに ある もの
どこのどいつが
- 1624 koiki kunip
コイキ クニフ
攻撃する すべきもの
攻めているのか、
- 1625 kikir basushke
キキリ バスシケ
虫 湧く
虫が湧くかのように
- 1626 ekannayukar
エカンナユカラ
ようである
てんやわんやの大騒ぎ。
- 1627 tu wan ikiri
トゥ ワン イキリ
二つの 十の 列
(逃げ惑う人々の)
- 1628 re wan ikiri
レ ワン イキリ
三つの 十の 列
おびただしい群れが
- 1629 arushoshkamu.
アルシオシカム。
重なり合う
うち重なっている。
- 1630 Enkashi ta
エンカシ タ
離れた上 (場所)
上空には
- 1631 tatushbe nubek
タトゥシベ ヌベク
樺のたいまつ 光
樺の灯りの輝きが
- 1632 maknatara.
マクナタラ。
輝いている
照り映える。

第2章 シレブンサンタでの戦い

- 1633 **Utat teksam ta**
 ウタッ テクサム タ
 たち すぐそば (場所)
 人々のそばに
- 1634 **Shirebunsanta**
 シレブンサンタ
 シレブンサンタ
 沖つサンタの
- 1635 **kamui katkemat newa**
 カムイ カッケマツ ネワ
 神 婦人 と
 尊い淑女と
- 1636 **pon matushiu**
 ポン マトゥシウ
 小さい 召使いの女
 小娘の召使い、
- 1637 **a-aktonoke**
 ア・アクトノケ
 我・弟君
 我が弟の
- 1638 **ren ne kane tamani.**
 レン ネ カネ タマニ。
 三人 (繫辞類) (同時) 斬り合い
 三人が刀を振るっている。
- 1639 **Neap kokurkakonna-**
 ネアア コクルカコンナ・
 それ 頭の上
 そやつ (沖つサンタの淑女) の髪は
- 1640 **charke kane**
 チャラケ カネ
 散らばる (音節調整)
 乱れている。
- 1641 **Num teksama**
 ヌム テクサマ
 集団 すぐそば
 (敵の) 群れのそばを
- 1642 **an-i-y-ebashte**
 アニ・イエバシテ
 我・走らせる
 我は走り抜ける。
- 1643 **Tanepo konna**
 タネポ コンナ
 たった今 こそ
 今こそ
- 1644 **a-aktonoke**
 ア・アクトノケ
 我・弟君
 弟を
- 1645 **a-raukotabu**
 ア・ラウコタブ
 我・つかむ
 つかまえ
- 1646 **bannu tap ta**
 バンヌ タブ タ
 荒涼・寂寞 これ (感嘆)
 荒れ果て静まり返った峰の上に
- 1647 **a-teshkosanu.**
 ア・テシコサヌ。
 我・すべって行く
 滑るように登る。
- 1648 **“Akpo” ari**
 「アクポ」 アリ
 弟 (引用)
 「弟よ」
- 1649 **“Sambe” ari**
 「サムベ」 アリ
 心臓 (引用)
 「愛しい君よ」と
- 1650 **itak-an kane**
 イタク・アン カネ
 言う・我 (同時)
 我は言いながら
- 1651 **a-shikoruye.**
 ア・シコルイェ。
 我・撫でる
 我は抱擁する。
- 1652 **Kurkashike**
 クルカシケ
 上
 そうしながら
- 1653 **tu nubur nube**
 トウ ヌブル スベ
 二つの 濃い 涙
 おびただし
- 1654 **re nubur nube**
 レ ヌブル スベ
 三つの 濃い 涙
 涙を

背鰭長の鯢

- 1655 a-eranke chiki
ア・エランケ チキ
我・～に降ろす (条件)
流すと
- 1656 i-kohebuni.
イ・コヘブニ。
我・頭を上げる
弟は我に向けて顔を上げる。
- 1657 Ene an kamui
エネ アン カムイ
このように ある 神
(弟は) 神とってよいか、
- 1658 ene an bito
エネ アン ビト
このように ある 人
人としてよいか、
- 1659 hemshiehose.
ヘムシエホセ
みずからを差し置く。
自分を抑えて慎む。
- 1660 Konep kamuye
コネプ カムイエ
何 神
どんな神を
- 1661 konep bitoho
コネプ ビトホ
何 人
どんな人を
- 1662 koshikraiba p
コシクライバ プ
目撃する もの
目にしたからというのか、
- 1663 kan ibor ka ta
カン イボロ カ タ
上 顔色 上 (場所)
顔が
- 1664 koraikosamba
コライコサムバ
蒼ざめる
サッと青ざめる。*14
- 1665 Katu ne kane
カトゥ ネ カネ
様子 (繫辞類) (同時)
形ばかりでも
- 1666 i-erayap be
イ・エラヤップ ベ
我・感心する もの
我を賞賛するの
- 1667 ne wa ne yakne
ネ ワ ネ ヤクネ
(繫辞類) (接続) (繫辞類) (条件)
ならば
- 1668 kotom korkaiki
コトム コロカイキ
ようである (逆接)
ありそうなことだが、
- 1669 i-tukaripo
イ・トゥカリポ
我・手前
我の一つ手前に
- 1670 koshikerana-
コシケラナ・
目を下に
目を
- 1671 atte kane
アッテ カネ
たたせる (音節調整)
落として
- 1672 “Yuppo” ari
「ユブポ」 アリ
兄 (引用)
「兄さん」と
- 1673 itak kane
イタク カネ
言う (同時)
言いながら
- 1674 a-rekuchi wa
ア・レクチ ワ
我・首 から
我が首から
- 1675 ratki ratki ranke.
ラッキ ラッキ ランケ。
垂れ下がった 垂れ下がった (反復)
ぶら下がり
- 1676 Nube apto shinne
ヌベ アプト シンネ
涙 雨 のように
弟の涙は雨のように

*14 兄の立派さに打たれる。

- 1677 **chiranananke.**
チラナランケ。
降りてくる
流れる。
- 1678 **Hekachi kishma**
ヘカチ キシマ
子供 抱える
子供を抱きしめるように
- 1679 **teinep kishma**
テイネプ キシマ
赤子 抱える
赤子を抱きしめるように
- 1680 **a-ekarkar kane**
ア・エカラカラ カネ
我・する (同時)
我は弟を愛しむ。
- 1681 **a-ekapikeuhumsu a-okere.**
ア・エカピケウフムス ア・オケレ。
労いの礼 我・終わる
我らは挨拶とねぎらいの礼をすます。
- 1682 **Shine shikirba**
シネ シキリバ
一つの 振り向く
二人一斉に
- 1683 **a-utapkurka-**
ア・ウタプクルカ・
我・両肩の上
肩を
- 1684 **rarba kane**
ララバ カネ
押す (音節調整)
並べて
- 1685 **utat teksam**
ウタツ テクサム
たち すぐそば
敵どものそばを
- 1686 **an-i-y-ebashte.**
アニ・イエバシテ。
我・走らせる
我らは駆け抜ける。

p. 34

2.4 妹を責めるシレブンサンタ 人の罵り

- 1687 **Utar sermak ta**
ウタラ セレマク タ
仲間 背後 (場所)
雑兵どもの背後に
- 1688 **Shirebunsanta**
シレブンサンタ
シレブンサンタ
沖つサンタの
- 1689 **uirwak ne**
ウイリワク ネ
親類 (繫辞類)
兄弟らが
- 1690 **chakke hau kan**
チャクケ ハウ カン
舌打ちする 声 は
叱咤する声
- 1691 **kari kane.**
カリ カネ。
回る (音節調整)
はじける。
- 1692 **Achikarata**
アチカラタ
イヤッ!
なんと
- 1693 **ayakannata**
アヤカンナタ
ろくでもないことだ
汚らわしい。
- 1694 **a-wentureshi**
ア・ウエントウレシ
我・悪い妹
我が悪しき妹の
- 1695 **an-otuiike**
アノトゥイイケ
我・尻尾切れた奴
割れ目アマ、
- 1696 **menoko boro**
メノコ ボロ
女 大きい
女が大きくなり

背鰭長の鯨

- 1697 **matkachi boro**
 マッカチ ポロ
 少女 大きい
 少女が大きくなり
- 1698 **okai wa**
 オカイ ワ
 ある (接続)
 色気づき、
- 1699 **neike huike**
 ネイケ フイケ
 どこに 隅
 ポイヤウンベ、
- 1700 **yairakbare p**
 ヤイラックバレ プ
 同じ血を引く もの
 土塊ヤウンベが
- 1701 **Ponyaumbe**
 ポンヤウムベ
 小さな本土人
 どこにも
- 1702 **Toiyaumbe**
 トイヤウムベ
 汚い本土人
 縁故のない者
- 1703 **ne wa kusu**
 ネ ワ クス
 (繫辞類) (接続) (理由・目的)
 であるから、
- 1704 **koochiubashte**
 コオチウバシテ
 淫心を走らせる
 淫乱と
- 1705 **kokininbashte**
 コキニンバシテ
 淫乱を走らす
 淫らに走り
- 1706 **rusui kusu nesun**
 ルスイ クス ネスン
 (欲求) (理由・目的) こそ
 たいがため
- 1707 **yaikotan ka**
 ヤイコタン カ
 自分の村 も
 おのれの村も
- 1708 **yaiutar ka**
 ヤイウタラ カ
 自分一族 も
 おのれ一族も
- 1709 **tuye shiri okai.**
 トウイエ シリ オカイ。
 斬る 様子 ある
 裏切っていやがる。
- 1710 **Ne pon matushiu**
 ネ ポン マトウシウ
 (繫辞類) 小さい 召使いの女
 その奴婢の小娘、
- 1711 **shirum menoko**
 シルム メノコ
 汚い 女
 醜い
- 1712 **wem menoko**
 ウェム メノコ
 悪い 女
 卑しい女
- 1713 **ne wa ne yakka**
 ネ ワ ネ ヤクカ
 (繫辞類) (接続) (繫辞類) (譲歩)
 も
- 1714 **ukosamke wa**
 ウコサムケ ワ
 共謀する (接続)
 いっしょになって
- 1715 **chihoiyore shiri.**
 チホイヨレ シリ。
 乱心する 様子
 淫らに走るさまのなんたることか。
- 1716 **Nekon a hene**
 ネコン ア ヘネ
 どのように 完了 も
 いったい
- 1717 **katkoro kunip**
 カッコロ クニプ
 振舞う すべきもの
 そんな
- 1718 **echi-ne a p kusu**
 エチ・ネ ア プ クス
 汝ら・である 完了 も (理由・目的)
 ふるまいをして

- 1719 **echi-eokatune**
エチ・エオカトウネ
汝らただでは済まない
ただでは済まない
- 1720 **nankor wa.” ari**
ナンコロ ワ。」 アリ
だろう (文終結) (引用)
だろう。」と
- 1721 **wembashrotaba.**
ウエムバシロタバ。
怒鳴る
激しく罵る。
- 1722 **Tu pon menoko**
トゥ ポン メノコ
二つの 小さい 女
二人の娘は
- 1723 **ashba kisar**
アシバ キサラ
聞こえない 耳
つんぼの耳を
- 1724 **itutanure**
イトウタヌレ
人に向ける
人に向け (聞こえない振りをして)
- 1725 **senne ponno ekottanu.**
センネ ポンノ エコッタヌ。
(否定) 少し 関わる
少しも顧慮しない。
- 1726 **Orowano inne kunip**
オロワノ インネ クニフ
(始点) 大勢である すべきもの
それから、大勢の雑兵どもは
- 1727 **a-etametoko-**
ア・エタメトコ・
我・太刀先
我が太刀の先で
- 1728 **sennatara.**
センナタラ。
ズバツとなり続ける
音を立てて斬られていく。
- 1729 **Iyainumare,**
イヤイヌマレ、
驚いた
驚くべし、
- 1730 **a-aktonoke**
ア・アクトノケ
我・弟君
我が弟は
- 1731 **ene bak am be**
エネ バク アム ベ
このように まで ある もの
こんなに幼いのに
- 1732 **ine a p kusu**
イネ ア プ クス
(接続) どこ 完了 もの (理由・目的)
なんともはや、
- 1733 **arikiki wa**
アリキキ ワ
頑張る (接続)
活躍
- 1734 **shirki nankor a.**
シリキ ナンコラ。
そうする だろう 完了
することか。
- 1735 **Oro kush kuni**
オロ クシ クニ
所 通る ところ
通過する所が
- 1736 **chituri so ne**
チトゥリ ソ ネ
伸びる 平面 (繫辞類)
広げた敷物のように
- 1737 **chirabi so ne**
チラビ ソ ネ
散らばる 平面 (繫辞類)
乱れた敷物のようになる。
- 1738 **Tu pom menoko**
トゥ ポム メノコ
二つの 小さい 女
二人の娘が
- 1739 **oro oshma i**
オロ オシマ イ
所 ぶつかる ところ
ぶつかる所は
- 1740 **pon toi bakno**
ボン トイ バクノ
小さい 土 まで
小さな畑のように

背鰭長の鯨

1741 boro toi bakno
ボロ トイ バクノ
大きい 土 まで
大きな畑のように

1742 nanke nanke
ナンケ ナンケ
刈る 刈る
刈り取られる。

1743 shiyoro keutum
シヨロ ケウトウム
驚く 心
我は

1744 a-yaikore.
ア・ヤイコレ。
我・もつ
恐れ入る。

2.5 屋外でのすさまじい戦い

1745 Isenram kusu
イセンラム クス
通常 (理由・目的)
いつものように

1746 a-turen kamui
ア・トゥレン カムイ
我・憑く 神
我が憑き神

1747 utarorke
ウタロロケ
たち
たちは

1748 i-enkashike
イ・エンカシケ
我・上
我が上空で

1749 tu nishte humi
トゥ ニシテ フミ
二つの かたい 音
たくさんの

1750 re nishte humi
レ ニシテ フミ
三つの かたい 音
固い音を

1751 ante kane
アンテ カネ
あらしめる (音節調整)
響かせ、

1752 tu shupne rera
トゥ シュプネ レラ
二つの 渦になっている 風
おびたしい

1753 re shupne rera
レ シュプネ レラ
三つの 渦になっている 風
巻き風が

1754 uraike tapka
ウライケ タプカ
戦場 頂き
戦たけなわのところに

1755 chiesorore
チエソロレ
吹き降りる
吹き降りる。

1756 hayok*¹⁵ wa koshne p
ハヨク ワ コシネ プ
武装する (接続) 軽い もの
武装の軽い者は

1757 rera etok
レラ エトク
風 前方
吹き

1758 ehobumba
エホブムバ
起き上がる
飛ばされ

1759 komam baru
コマム バル
枯葉 吹き飛ぶ
枯れ葉が舞い飛ぶかの

1760 ekannayukar.
エカンナユカラ。
ようである
ようだ。

1761 A-tuimatuye p
ア・トゥイマトウイエ プ
我・遠くを斬る もの
我が遠くの者を斬るには

*¹⁵ hayok と綴られているが、hayok の誤記とみなす。

- 1762 **a-koshibenchor-**
ア・コシベンチョロ・
我・上体
我は上体を
- 1763 **turi kane.**
トゥリ カネ。
伸ばす (音節調整)
伸ばす。
- 1764 **A-hanketuye p**
ア・ハンケトウイエ プ
我・近くを斬る もの
近くの者を斬るには
- 1765 **an-eyaimonbok-**
アネヤイモンボク・
我・腕の下
腕の下に
- 1766 **kotamani.**
コタマニ。
太刀を握る
太刀を握る。
- 1767 **Shimon sam ta**
シモン サム タ
右の そば (場所)
右手にいて
- 1768 **a-tametuye p**
ア・タメトウイエ プ
我・太刀で斬る もの
我が太刀に斬られる者は
- 1769 **ainu benna**
アイヌ ベンナ
人間 上半身
上体に
- 1770 **ram urar kunne**
ラム ウララ クンネ
低い 霧 ように
垂れ込めた霧のように
- 1771 **a-emushebuni.**
ア・エムシエブニ。
我・刀を上げる
太刀をあげる。
- 1772 **Harki sam ta**
ハラキ サム タ
左 そば (場所)
左手にいて
- 1773 **a-tekekik be**
ア・テケキク ベ
我・手で打つ もの
我が手に打たれる者は
- 1774 **rai chep turse**
ライ チェプ トウルセ
死ぬ 魚 落ちる
死んだ魚が落ちるが
- 1775 **ekannayukar**
エカンナユカラ
ようである
ように
- 1776 **ainu banna**
アイヌ バンナ
人間 下半身
その下肢を
- 1777 **chikuta so ne**
チクタ ソ ネ
ひろげる 平面 (繫辞類)
うち捨てられた敷物のように
- 1778 **a-shiokote.**
ア・シオコテ。
我・引き連れる
我は引きずる。
- 1779 **Kunne hene**
クンネ ヘネ
夜 も
夜も
- 1780 **tokap hene**
トカプ ヘネ
昼 も
昼も
- 1781 **taban tumunchi**
タバン トウムンチ
この 戦争
我は、この戦に
- 1782 **shirushwembe ne**
シルシウエムベ ネ
ド悪党 (繫辞類)
ひどくまがまがしい者となって
- 1783 **a-yaiturashte.**
ア・ヤイトウラシテ。
我・たどる
携わる。

背鰭長の鯨

- 1784 **Inne kunip**
 インネ クニプ
 大勢である すべきもの
 雑兵どもは、
- 1785 **makan okai be**
 マカン オカイ ベ
 どのように ある もの
 ある者は
- 1786 **kamui nishka**
 カムイ ニシカ
 神 上空
 空へと
- 1787 **koukarari.**
 コウカラリ。
 重なり合う
 押し合いへし合い昇っていく。
- 1788 **Orhetobo**
 オロヘトボ
 もと来た方へ
 逆に
- 1789 **makan okai be**
 マカン オカイ ベ
 どのように ある もの
 ある者は
- 1790 **atuiso kurka**
 アトゥイソ クルカ
 海面 上
 海の上に
- 1791 **chierapte**
 チエラッテ
 落下している
 落ち、
- 1792 **ma eaikap be**
 マ エアイカプ ベ
 泳ぐ できない もの
 泳げない者は
- 1793 **shuma ren shir**
 シュマ レン シリ
 石 三人 様
 石が沈むように
- 1794 **shikobayar**
 シコバヤラ
 さながらである
 沈んで行く。
- 1795 **Ma eashkai ike**
 マ エアシカイ イケ
 泳ぐ できる こと
 泳げる者は
- 1796 **atuiso ka ta**
 アトゥイソ カ タ
 海面 上 (場所)
 海面に
- 1797 **ukokashupsaba-**
 ウコカシュプサバ・
 しゃもじの頭
 頭をしゃもじのように
- 1798 **kirukiru**
 キルキル
 振り回す
 くるくる回し
- 1799 **rukoeburburke**
 ルルコエブルブルケ
 海水にむせる
 海水にむせて
- 1800 **tu wem bakamui**
 トウ ウエム バカムイ
 二つの 悪い 悪口
 呪いの声を
- 1801 **re wem bakamui**
 レ ウエム バカムイ
 三つの 悪い 悪口
 悪たれを
- 1802 **oshirotatba.**
 オシロタツパ。
 吐き散らす
 まき散らす。
- 1803 **Atui erai be**
 アトゥイ エライ ベ
 海 死ぬ もの
 海におぼれ
- 1804 **rur erai be**
 ルル エライ ベ
 海 死ぬ もの
 潮に死ぬ者の
- 1805 **tu kamui rai hum**
 トウ カムイ ライ フム
 二つの 神 死ぬ 音
 おびただしい魂が

第2章 シレプンサンタでの戦い

- 1806 re kamui rai hum
レ カムイ ライ フム
三つの 神 死ぬ 音
体から離れていく音が
- 1807 arukeshure.
アルケシュレ。
継続する
絶え間なく続く。
- 1808 Tuima iwa
トゥイマ イワ
遠い 岩山
遠くの岩山
- 1809 hanke iwa
ハンケ イワ
近い 岩山
近くの岩山の
- 1810 iwa kurkashi
イワ クルカシ
岩山 上
上に
- 1811 chierapte p
チエラプテ プ
落下している もの
落ち
- 1812 iwa ekot be
イワ エコッ ベ
岩山 死ぬ もの
岩に打たれ
- 1813 iwa erai be
イワ エライ ベ
岩山 死ぬ もの
死ぬ者の
- 1814 tu kamui rai hum
トゥ カムイ ライ フム
二つの 神 死ぬ 音
おびただしい魂が
- 1815 re kamui rai hum
レ カムイ ライ フム
三つの 神 死ぬ 音
体から離れて行く音が
- 1816 arukesure.
アルケスレ。
続く
うち続く。
- 1817 Oro ne am be
オロ ネ アム ベ
所 (繫辞類) ある もの
その音が
- 1818 keurototke.
ケウロトツケ。
響く
響き渡る。
- 1819 Inne kunip
インネ クニプ
大勢である すべきもの
多くの者らのうち
- 1820 makan okai be
マカン オカイ ベ
どのように ある もの
あるものは
- 1821 wor oma kombu
ウォロ オマ コムブ
水 ある 昆布
水に浸かっている昆布の
- 1822 shikobayar.
シコバヤラ。
さながらである
ように、
- 1823 Makan okai be
マカン オカイ ベ
どのように ある もの
またあるものは
- 1824 hotur*¹⁶ ka ta
ホトゥル カ タ
額 上 (場所)
顔が
- 1825 kotususatki.
コトウスサツキ。
ブルブル震える
ふるえている。
- 1826 Makan okai be
マカン オカイ ベ
どのように ある もの
ある者は
- 1827 shietu uina
シエトゥ ウイナ
鼻 手に取る
おのれの鼻をふさぎ、

*¹⁶ hottur と見なして解釈する。

背鰭長の鯨

- 1828 **shibar uina kane**
シバラ ウイナ カネ
自分の口 手に取る (同時)
おのれの口をふさぐ。
- 1829 “**Sonno he tap ne**
「ソノノ ヘ タブ ネ
真に (疑問) これ (繫辞類)
まこと
- 1830 **Ponyaumbe**
ポンヤウムベ
小さな本土人
ポイヤウンベは
- 1831 **atanan ainu ari**
アタナン アイヌ アリ
ただの 人間 (引用)
平凡な人間だと
- 1832 **a-borse p**
ア・ボロセ プ
よばれる もの
人は言うが
- 1833 **ituren he tap ne**
イトゥレン ヘ タブ ネ
憑く (疑問) これ (繫辞類)
憑依のしかたも
- 1834 **moimoike hetap ne**
モイモイケ ヘタブ ネ
動く これ (繫辞類)
動きも
- 1835 **iramkarsere**
イラムカラセレ
仰天させる
心を転がし、
- 1836 **iramtoinere**
イラムトイネレ
驚く
心を土塊のように
- 1837 **ki shiri okai.” ari**
キ シリ オカイ。」 アリ
する 様子 ある (引用)
するものだ。」と
- 1838 **shiyorba hawe**
シヨロバ ハウエ
懲りる 声
もう懲り懲りだという声が
- 1839 **bebunitara.**
ベブニタラ。
騒がしい
沸き立つ。
- 1840 **Orowano**
オロワノ
(始点)
それから、
- 1841 **tane anakne**
タネ アナクネ
今 は
今ははや、
- 1842 **moyo utar ne**
モヨ ウタラ ネ
わずかの 仲間 (繫辞類)
敵方は
- 1843 **a-kar kane**
ア・カラ カネ
我・する (同時)
僅かとなり、
- 1844 **inrur teksamsam beka**
インルル テクサムサム ベカ
海岸線 そば で
浜をぐるりと
- 1845 **taban tumunchi**
タバン トウムンチ
この 戦争
この戦、
- 1846 **bash rorumbe ne**
バシ ロルムベ ネ
走る 戦闘 (繫辞類)
たちまちに推移する戦闘を
- 1847 **a-tunashrutu.**
ア・トゥナシルトゥ。
我・急いで押しやる
急ぎ進める。
- 1848 **Ne i korachi**
ネ イ コラチ
(繫辞類) とき ように
たちまち
- 1849 **an-oinkar i**
アノインカラ イ
我・そこから見る こと
我の見るものが

p. 37

第2章 シレペンサンタでの戦い

- 1850 **tup ne oman**
 トupp ネ オマン
 二つ (繫辞類) 行く
 二つになり、
- 1851 **rep ne oman.**
 レp ネ オマン。
 三つ (繫辞類) 行く
 三つになっていく。
- 1852 **Honoi shinotcha**
 ホノイ シノッチャ
 うなる 歌の節
 低い声で歌を
- 1853 **a-shikaikire.**
 ア・シカイキレ。
 我・伸ばす
 我は歌う。
- 1854 **A-eraunkuchi-**
 ア・エラウンクチ・
 我・喉元
 我が喉元を
- 1855 **kamuinoye**
 カムイノイエ
 美しくねじる
 美しく捻る。
- 1856 **A-esambarkashi-**
 ア・エサムバラカシ・
 我・口元
 我的つきだした口から
- 1857 **tununitara.**
 トゥヌニタラ。
 美しい音が響く
 声が響く。
- 1858 **A-turen kamui**
 ア・トゥレン カムイ
 我・憑く 神
 我が憑き神の
- 1859 **tu yupke humi**
 トゥ ユpケ フミ
 二つの 強い 音
 おびただしく響く
- 1860 **re yupke humi**
 レ ユpケ フミ
 三つの 強い 音
 強い音が
- 1861 **moshiri umake**
 モシリ ウマケ
 国土 崩れる
 国土が崩れるかのように
- 1862 **kanto umake**
 カント ウマケ
 天 崩れる
 天が壊れるかの
- 1863 **semkorachi.**
 セムコラチ。
 まるで (する) ように
 ようだ。
- 1864 **Tu shupne rera**
 トゥ シュpネ レラ
 二つの 渦になっている 風
 我は多くの
- 1865 **re shupne rera**
 レ シュpネ レラ
 三つの 渦になっている 風
 巻き風の
- 1866 **rera etoko**
 レラ エトコ
 風 前方
 先に
- 1867 **a-i-y-ekoshne-**
 ア・イ・イエコシネ・
 我・軽々と
 軽々と乗せられて
- 1868 **bumba kane.**
 ブムバ カネ。
 上げる (音節調整)
 舞い上がり、
- 1869 **Sanota kurka**
 サノタ クルカ
 砂浜 上
 砂浜の表面が
- 1870 **rera soso.**
 レラ ソソ。
 風 めくる
 風にめくれる。
- 1871 **Taban ota**
 タバン オタ
 この 砂
 すさまじい砂が

背鰭長の鯨

- 1872 wen ubun chise ne
 ウェン ウブン チセ ネ
 悪い 吹雪 家 (繫辞類)
 激しい吹雪のようになり、
- 1873 kuttek nish ne
 クツテク ニシ ネ
 黒い 雲 (繫辞類)
 真っ黒な雲のようになり
- 1874 kanto rabok
 カント ラボク
 天 間
 天のあいだに
- 1875 chibatubatu.
 チバトゥバトゥ。
 吹きあがる
 跳ね上がる。
- 1876 Ne i chorboke
 ネ イ チョロボケ
 (繫辞類) こと 下
 その下で
- 1877 a-uwenoshba aine
 ア・ウウェノシバ アイネ
 我ら・追いつ追われつする (接続)
 追いつ追われつしているうちに
- 1878 nekon a shino
 ネコン ア シノ
 どのように 完了 まことに
 いったい
- 1879 iki-an humi
 イキ・アン フミ
 する・我 気配
 どうした
- 1880 ne nankor a,
 ネ ナンコラ、
 (繫辞類) だろう か
 ことか、
- 1881 a-kon ram konna
 ア・コン ラム コンナ
 我・もつ 心 は
 我が心の持ちようが
- 1882 turushitara,
 トウルシタラ、
 激しく心に抱く
 狂気を帯びて

- 1883 tanak*17 kane
 タナク カネ
 うつらうつらする (同時)
 我を忘れた
- 1884 humash aine
 フマシ アイネ
 気配がする (接続)
 ようだ。

2.6 戦闘が終わる

- 1885 hunak bak i ta
 フナク バク イ タ
 どこ まで とき (場所)
 どれほどときがたったのか、
- 1886 a-yaishikarun
 ア・ヤイシカルン
 我・正気に返る
 我に帰って
- 1887 inkar-an awa
 インカラ・アン アワ
 見る・我 (展開)
 あたりを見回すと
- 1888 ne i ta tap ne
 ネ イ タ タブ ネ
 (繫辞類) ところ (場所) これ (繫辞類)
 どこに
- 1889 kotan an rok wa
 コタン アン ロク ワ
 村 ある (完了) (接続)
 村があった
- 1890 shir an nankor a
 シリ アン ナンコラ
 様 ある だろう か
 のか、
- 1891 Shirebunsanta
 シレブンサンタ
 シレブンサンタ
 シレブンサンタの

*17 tanak ユ集 VI, p.265 に「鍋のにえたさまを su noshki tanak tanak という。」という報告が見られる。完全に理性を失った状態をいっているのであろうか。

- 1892 **kimun iwori turanno**
 キムン イウォリ トウランノ
 山の奥地 奥地 とともに
 山の狩り場ごと
- 1893 **ubeka toi ne**
 ウベカ トイ ネ
 平らな 土 (繫辞類)
 ならした畑のように
- 1894 **chiubekare.**
 チウベカレ。
 平らになる
 平らになっている。
- 1895 **Ota teksam ta**
 オタ テクサム タ
 砂 すぐそば (場所)
 我は浜に
- 1896 **kuttokono**
 クットコノ
 逆さまに
 逆さまになって
- 1897 **a-chiotanne-**
 ア・チオタンネ・
 我・長々と
 長々と
- 1898 **turi kane.**
 トウリ カネ。
 伸ばす (音節調整)
 体を伸ばしている。
- 1899 **Shirebunsanta**
 シレプンサンタ
 シレプンサンタ
 沖つサンタの
- 1900 **uirwak ne**
 ウイリワク ネ
 親類 (繫辞類)
 一族の
- 1901 **ouse sabaha**
 オウセ サバハ
 ただ (だけ) 頭
 頭だけ残ったのを
- 1902 **taan un wa**
 タアン ウン ワ
 この (方向) から
 あちら
- 1903 **toon un wa**
 トオン ウン ワ
 あの (方向) から
 こちらへ
- 1904 **a-eshirkik koro an-an.**
 ア・エシリキク コロ アナン。
 我・地に打ちつける 持つ いる・我
 我は打ちつけている。
- 1905 **A-koyaishikarun.**
 ア・コヤイシカルン。
 我・気が付く
 我ははつきりと覚醒する。
- 1906 **Wen kinra ne**
 ウェン キンラ ネ
 悪い 狂気 (繫辞類)
 激しい怒りが
- 1907 **i-kohtari.**
 イ・コヘタリ。
 我・起きる
 我の中で頭をもたげる。
- 1908 **A-matkosanu,**
 ア・マッコサヌ、
 我・パッと立ち上がる
 ぱっと立ち上がり、
- 1909 **tubish ne wa**
 トウビシ ネ ワ
 (未詳) (繫辞類) (接続)
 (不明)
- 1910 **noshke a-yashba wa**
 ノシケ ア・ヤシバ ワ
 真中 我・裂く (接続)
 (サンタ人の体を) まん中から裂いて
- 1911 **arkehe ranke**
 アラケヘ ランケ
 半分 ずつ
 半分为
- 1912 **toop herebashi**
 トオプ ヘレバシ
 ずっと遠く 沖へ
 遠く沖に投げて
- 1913 **atui koshimbuk**
 アトゥイ コシムブク
 海 妖精
 海の妖魔の

背鱗長の鯰

- 1914 **an-ekokkar**
 アネコクカラ
 我・婿入りさせる
 婿にやり、
- 1915 **arkehe tuima iwa**
 アラケヘ トウイマ イワ
 半分 遠い 岩山
 半分为遠くの岩山の
- 1916 **iwa oshmake**
 イワ オシマケ
 岩山 その背後
 陰に
- 1917 **a-koeyapkiri**
 ア・コエヤフキリ
 我・投げる
 投げ捨てて
- 1918 **iwa koshimbuk**
 イワ コシムブク
 岩山 妖精
 岩山の妖魔、
- 1919 **kina koshimbuk**
 キナ コシムブク
 草 妖精
 草の妖魔の
- 1920 **a-ekokkara.**
 ア・エコクカラ。
 我・婿にやる
 婿にやった。
- 1921 **“Tap echi-kar-an i**
 「タップ エチ・カラ・アニ
 これ 我・汝になす こと
 「こんなことは
- 1922 **shinot tab an na.**
 シノツ タバン ナ。
 遊び これ ある ぞ
 まだお遊びのうち。
- 1923 **Tu imakake**
 トウ イマカケ
 二つの その後
 この先、
- 1924 **Re imakake**
 レ イマカケ
 三つの その後
 ずっとのちに
- 1925 **koyainusashi**
 コヤイヌサシ
 助かる
 おまえらが
- 1926 **echi-ki ko anakne**
 エチ・キ コ アナクネ
 汝ら・する (条件) は
 生き返ることがあれば
- 1927 **oro ta tap ne**
 オロ タ タブ ネ
 所 (場所) これ (繫辞類)
 そのときこそ
- 1928 **sonno ukoiki**
 ソンノ ウコイキ
 真に 相争う
 真の戦い、
- 1929 **shino ukoiki a-ki,**
 シノ ウコイキ ア・キ、
 まことに 相争う 我・する
 紛れのないいくさをしよう。
- 1930 **utasa roshki**
 ウタサ ロシキ
 交わる 立っている
 対決
- 1931 **a-ki kusu ne na.”**
 ア・キ クス ネ ナ。」
 我・する (理由・目的) (繫辞類) ぞ
 しよう。」
- 1932 **ari itak-an kane**
 アリ イタク・アン カネ
 (引用) 言う・我 (同時)
 と我は言う
- 1933 **a-tamrawechiu.**
 ア・タムラウェチウ。
 我・刀を鞘に収める
 刀を鞘に収める。

2.7 無事だった弟と二人の娘

- 1934 **A-aktonoke newa**
 ア・アクトノケ ネワ
 我・弟君 と
 わが弟と

- 1935 **tu pom menoko**
 トウ ポム メノコ
 二つの 小さい 女
 二人の娘の姿が

- 1936 oarar isam.
オアララ イサム。
全く いない
見えない。
- 1937 Tumunchi kinra
トゥムンチ キンラ
戦争 狂気
激しい不安、
- 1938 rorumbe kinra
ロルムベ キンラ
戦闘 狂気
もの狂わしい不安に
- 1939 eyaitushtekka
エヤイトウシテッカ
沈黙する
口もきけずに
- 1940 a-ki ruwe okai ko
ア・キ ルウエ オカイ コ
我・する 跡 ある (条件)
いて、
- 1941 “Senne ne beka
「センネ ネ ベカ
(否定) (繫辞類) で
「もしや
- 1942 a-i-kobayere wa
ア・イ・コバイエレ ワ
我・殺される (接続)
二人は殺されでも
- 1943 he shir un?] ari
へ シリ ウン?] アリ
(疑問) 様 (文終結) (引用)
したのだろうか」と
- 1944 yaikouwebeker-an kane
ヤイコウウェベケレ・アン カネ
我・考え込む (同時)
一人もの憂く考え込むと
- 1945 shinki keutum
シンキ ケウトウム
疲れる 心
我が心は
- 1946 a-yaikore,
ア・ヤイコレ、
我・もつ
疲れてしまい
- 1947 samauni kurka
サマウニ クルカ
倒木 上
倒れ木の上に
- 1948 an-osorushi.
アノソルシ。
我・腰かける
腰をおろす。
- 1949 Ambir boka
アムビリ ボカ
かすり傷 さえ
我が体には爪きずさえも
- 1950 a-sak kane
ア・サク カネ
我・欠く (同時)
ついていない。
- 1951 yaishinire-an wa an-an.
ヤイシニレ・アン ワ アナン。
我・休む (接続) いる・我
我は休息する。
- 1952 Tuima shit ta
トゥイマ シツ タ
遠い 場所 (場所)
遠くに
- 1953 ainu kurmam
アイヌ クルマム
人間 影
人の気配が
- 1954 chishibushbare.
チシブシバレ。
現れる
する。
- 1955 I-kobak un wa
イ・コバク ウン ワ
我・方向へ (方向) から
私の方に
- 1956 arki shir kan
アラキ シリ カン
来る 様 は
まっすぐに
- 1957 ramamatki.
ラママツキ。
さっと進む
やって来る。

背鰭長の鯨

- 1958 Nohankeno arki wa
ノハンケノ アラキ ワ
近くに 来る (接続)
すぐそばまでやって来たのは
- 1959 inkar-an awa
インカラ・アン アワ
見る・我 (展開)
なんと
- 1960 a-aktonoke newa
ア・アクトノケ ネワ
我・弟君 と
弟と
- 1961 tu pon menoko
トゥ ポン メノコ
二つの 小さい 女
二人の娘で、
- 1962 tuimabash be
トゥイマバシ ベ
速く走る もの
遠くから走ってきたの
- 1963 konep ne kusu
コネプ ネ クス
であるもの (繫辞類) (理由・目的)
であるから
- 1964 obittano
オビッタノ
皆
三人とも
- 1965 konubopbeta-
コヌポプベタ・
汗で
汗で
- 1966 rikan kane.
リカン カネ。
湿っている (音節調整)
濡れている。
- 1967 Ki p ne koroka
キ プ ネ コロカ
する もの (繫辞類) (逆接)
しかし
- 1968 ren ne wa
レン ネ ワ
三人 (繫辞類) (接続)
三人とも
- 1969 ambir boka
アムビリ ボカ
かすり傷 さえ
爪の傷さえ
- 1970 chiearhaita
チエアラハイタ
全く欠ける
免れて
- 1971 kane okai.
カネ オカイ。
(同時) ある
いる。
- 1972 A-aktonoke
ア・アクトノケ
我・弟君
弟が
- 1973 kosanchakata-
コサンチャカタ・
口元で
口元で
- 1974 mina kane
ミナ カネ
笑う (音節調整)
笑いながら
- 1975 kutsam konna
クツサム コンナ
喉元 は
喉元を
- 1976 uwetunuisse
ウウエトゥヌイセ
美しく響く
響かせ
- 1977 ene itak i:—
エネ イタキ —
このように 言う ことには
言うことには、
- 1978 “Pon a-kor yubi
「ポン ア・コロ ユビ
小さい 我・もつ 兄
「兄さん、
- 1979 shimoipa he tap ne
シモイパ ヘ タプ ネ
働き (疑問) これ (繫辞類)
身のこなしといい、

第2章 シレプンサンタでの戦い

- 1980 moimoike he tap ne
 モイモイケ ヘ タブ ネ
 動く (疑問) これ (繋辞類)
 動きといい
- 1981 orsaureko ki shiri
 オロサウレコ キ シリ
 とんでもなく する 様子
 ただならぬ働きに
- 1982 iramkursere
 イラムクルセレ
 恐ろしい
 瞳目し、
- 1983 iramtoinere.
 イラムトイネレ。
 驚く
 たまげてしまいました。
- 1984 Emkosama
 エムコサマ
 そのために
 それゆえ*18
- 1985 a-wenkewebo ne yakka
 ア・ウエンケウエボ ネ ヤクカ
 私の体 (繋辞類) (譲歩)
 私の貧しい体も
- 1986 chikibonewa
 チキボネワ
 もう少しで
 もう少しで
- 1987 a-i-koisamka
 ア・イ・コイサムカ
 我・～を滅ぼされる
 滅ぼされ
- 1988 anke shiriki wa
 アンケ シリキ ワ
 しようとする そのような有様である (接続)
 ようとしましたが、
- 1989 shine p boka
 シネ プ ボカ
 一つの もの さえ
 敵一人きりでも
- 1990 a-tuiba-ukasui ka
 ア・トゥイバ・ウカスイ カ
 我・助け合って斬り殺す も
 斬り殺し、兄さんを助けようと
- 1991 an-i-y-eaikapte
 アニ・イエアイカプテ
 我・できなくさせられる
 したが、できなくさせられ、
- 1992 ouse kira batek
 オウセ キラ バテック
 ただ (だけ) 逃げる のみ
 ただひたすら逃げてばかりで
- 1993 A-eyairamu-
 ア・エヤイラム・
 我・気持ち
 心
- 1994 shitne aine
 シツネ アイネ
 痛める (接続)
 苦しく思っているうちに
- 1995 tumunchi oka
 トウムンチ オカ
 戦争 あと
 戦闘が終わり、
- 1996 rorumbe oka
 ロルムベ オカ
 戦闘 あと
 戦いが
- 1997 an ruwe taban.” ari
 アン ルウエ タバン。」 アリ
 ある 跡 この (引用)
 終わりました。」と
- 1998 itak kane
 イタク カネ
 言う (同時)
 と弟は言うので
- 1999 a-emina hau kan
 ア・エミナ ハウ カン
 我・笑う 声 は
 我は声をあげて
- 2000 tununitara.
 トウヌニタラ。
 美しい音が響く
 笑う。
- 2001 A-okkeukurkan-
 ア・オクケウクルカン・
 我・首の骨
 我は首の骨も

*18 兄を助ける余地がなかった、と続く。

p. 40

- 2002 **isam kane**
 イサム カネ
 無い (音節調整)
 なくなるほどうなずき、
- 2003 **ren ne kane**
 レン ネ カネ
 三人 (繫辞類) (同時)
 三人を
- 2004 **shisam un a-hotuibakar.**
 シサム ウン ア・ホトウイバカラ。
 自分の側 (方向) 呼び寄せる
 そばに呼び寄せる。
- 2005 **Oribak ruiba p**
 オリバク ルイバ プ
 畏まる 激しいもの
 三人は恐懼している
- 2006 **konep ne kusu**
 コネプ ネ クス
 であるもの (繫辞類) (理由・目的)
 ものだから、
- 2007 **shinu kane**
 シヌ カネ
 膝行する (同時)
 膝をすり
- 2008 **reye kane**
 レイエ カネ
 這う (同時)
 這いつくばって
- 2009 **i-sam ta arki.**
 イ・サム タ アラキ。
 我・傍ら (場所) 来る
 我が傍らにやってくる。
- 2010 **Shibishkani un**
 シビシカニ ウン
 自分の周り (方向)
 自分の周りに (引き寄せ)
- 2011 **eukobi eukobi**
 エウコビ エウコビ
 別れる 別れる
 一人一人を*19
- 2012 **a-ruiruibā kane**
 ア・ルイルイバ カネ
 我・撫でさせる (同時)
 慈しみをこめてさすりながら
- 2013 **tumi tuika ta**
 トウミ トウイカ タ
 戦い 上 (場所)
 いくさの過程で
- 2014 **arikikiba wa**
 アリキキバ ワ
 頑張る (接続)
 頑張って
- 2015 **i-kore kushkeraibo**
 イ・コレ クシケライボ
 我・与える おかげで
 くれたからこそ
- 2016 **taban tumunchi**
 タバン トウムンチ
 この 戦争
 この戦闘を
- 2017 **tunashno a-okere**
 トウナシノ ア・オケレ
 早く 我・終わる
 すみやかに終えた
- 2018 **ruwe ne i**
 ルウエ ネ イ
 跡 (繫辞類) こと
 のだ、ということに
- 2019 **obittano**
 オビッタノ
 皆
 みなして
- 2020 **shine ikin ne**
 シネ イキン ネ
 一つの 列 (繫辞類)
 一度に
- 2021 **a-ekobuntek kane**
 ア・エコブンテク カネ
 我・喜ぶ (同時)
 喜んで
- 2022 **ponno shini-an.**
 ポンノ シニ・アン。
 少し 休む・一人
 しばし休息した。

*19 この解釈は暫定的。eukobi「別れる」

第3章

故郷トミサンペチ・シヌタブカ

3.1 故郷に向けて

- 2023 **Orowa**
オロワ
(始点)
それから、
- 2024 “**Tanebo boka**
「タネボ ボカ
今 さえ
「もうそろそろ
- 2025 **shinrit kotan**
シンリッ コタン
出自 村
故郷、
- 2026 **Tomisambechi**
トミサムベチ
(地名)
トミサンベチ
- 2027 **Shinutapka**
シヌタブカ
(地名)
シヌタブカに
- 2028 **a-kohekomba**
ア・コヘコムバ
我・戻る
戻ろうと
- 2029 **kusu ne.” ari**
クス ネ。」 アリ
(理由・目的) (繫辞類) (引用)
思う。」と
- 2030 **itak-an kane**
イタク・アン カネ
言う・我 (同時)
我は言い
- 2031 **shini-an.**
シニ・アン。
休む・一人
休息する。
- 2032 **Tap orowa**
タブ オロワ
これ (始点)
それから、
- 2033 **ren ne wa**
レン ネ ワ
三人 (繫辞類) (接続)
三人に
- 2034 **a-yaikoshiren**
ア・ヤイコシレン
我・同行しようと誘う
同行を促し
- 2035 **kamui nishka**
カムイ ニシカ
神 上空
大空に
- 2036 **a-korikoshma.**
ア・コリコシマ。
我・飛び上がる
跳び上がる。
- 2037 **Tanebo konna**
タネボ コンナ
今こそ
今こそ

背鰭長の鯨

- 2038 tumi suikere
トウミ スイケレ
戦い 終わる
いくさの終結
- 2039 wembe suikere
ウエムベ スイケレ
悪いもの 終わる
まがごとの終い
- 2040 an wa
アン ワ
ある (接続)
となつて
- 2041 tu moshiri kama
トゥ モシリ カマ
二つの 国土 越える
多くの国々を
- 2042 re moshiri kama
レ モシリ カマ
三つの 国土 越える
越えて
- 2043 taban kamui mau
タバン カムイ マウ
この 神 風
大風の
- 2044 kamui mau etok
カムイ マウ エトク
神 風 前方
神風の先に
- 2045 an-i-y-ekoshne-
アニ・イエコシネ・
我・軽々と
乗せられて
- 2046 bumba kane
ブムバ カネ
上げる (音節調整)
昇り、かつ
- 2047 yap-an humi
ヤブ・アン フミ
上陸する・我 音
降下する音が
- 2048 keurototke.
ケウロトツケ。
響く
鳴り響く。
- 2049 Yap-an aine
ヤブ・アン アイネ
上陸する・我 (接続)
帰り行くうちに
- 2050 takar korachi
タカラ コラチ
夢 ように
夢のように
- 2051 an-eshikarun
アネシカルン
我・思い出す
思い出されてきた
- 2052 Tomisambechi
トミサムベチ
(地名)
トミサンベツ
- 2053 Shinutapka
シヌタプカ
(地名)
シヌタプカの
- 2054 kamui ekai chish
カムイ エカイ チシ
神 端の折れた 泣く
神々しい天辺の折れた岩山が
- 2055 chiekantoor-
チエカントオロ・
天
天を
- 2056 suye kane
スイエ カネ
揺する (音節調整)
揺らめかして
- 2057 i-koyairikta-
イ・コヤイリクタ・
我・己を上
我に向かって
- 2058 bumba kane.
ブムバ カネ。
上げる (音節調整)
そびえ立っている。

p. 41

3.2 シヌタプカの館

- 2059 Soyun yakura
ソユン ヤクラ
外にある 槽
我らは館の外に立つ艘の

第3章 故郷トミサンペチ・シヌタブカ

- 2060 yakura kurka
ヤクラ クルカ
櫓 上
上に
- 2061 an-i-y-erapte.
アニ・イエラapte。
我ら・降ろされる
降ろされる。
- 2062 Inkar-an ko
インカラ・アン コ
見る・我 (条件)
見れば
- 2063 tanebo konna
タネボ コンナ
今こそ
今初めて
- 2064 an-ewak shiror
アネワク シロロ
我・住む 場所
我が住まいの
- 2065 soike sama
ソイケ サマ
家の外 そば
外観が
- 2066 a-nukar kusu
ア・ヌカラ クス
我・見る (理由・目的)
目に入り、
- 2067 tapkop ka ta
タップコプ カ タ
小山 上 (場所)
小山の上に
- 2068 tam boro chise
タム ボロ チセ
この 大きい 家
非常に大きな家屋、
- 2069 tam boro chashi
タム ボロ チャシ
この 大きい チャシ
広大な館が
- 2070 uworeroshki.
ウウォレロシキ。
重なってそびえる
重なるように建っている。
- 2071 Tam boro chise
タム ボロ チセ
この 大きい 家
大きな家の
- 2072 rikun kibibi
リクン キビビ
上にある 段
高い段ぶき屋根と
- 2073 ranke kibibi
ランケ キビビ
(反復) 段
低い段ぶき屋根に
- 2074 sep birankani
セプ ビランカニ
幅広い 平金
幅広の平金が
- 2075 chiekarbare.
チエカラバレ。
取り囲む
ぐるりと取り付けてある。
- 2076 Birankani kurka
ビランカニ クルカ
平金 上
平金の表面は
- 2077 tu kani moreu
トゥ カニ モレウ
二つの 黄金 モレウ紋
おびただしい
- 2078 re kani moreu
レ カニ モレウ
三つの 黄金 モレウ紋
金の渦巻き紋で
- 2079 chietomte.
チエトムテ。
輝いている
飾られている。
- 2080 Moreu uturu
モレウ ウトゥル
モレウ紋 間
渦巻き紋の間に
- 2081 ubushne etor
ウブシネ エトロ
群をなす 木鈴
群れをなす木鈴、

背鰭長の鯢

- 2082 **ubushne tumshi**
 ウブシネ トウムシ
 群をなす 鎖環
 群れをなす鎖の環が
- 2083 **chiekotba.**
 チエコツバ。
 付いている
 取り付けられている。
- 2084 **Tumshi rek hau**
 トウムシ レク ハウ
 鎖環 鳴る 声
 鎖の鳴る音が
- 2085 **hoku kanhau ne**
 ホク カンハウ ネ
 夫 声 (繫辞類)
 男の声のように
- 2086 **eton rek hawe**
 エトン レク ハウエ
 木鈴 鳴る 声
 鈴の鳴る音が
- 2087 **mat kanhau ne**
 マツ カンハウ ネ
 女 声 (繫辞類)
 女の声のように
- 2088 **ronroratki.**
 ロンロラッキ。
 色々な音が入り交じる
 響く。
- 2089 **Anramasu**
 アンラマス
 まったく好ましい
 我は
- 2090 **a-uwesuye.**
 ア・ウウエスイエ。
 我・思う
 魅了される。
- 2091 **Taban chashi**
 タバン チャシ
 この チャシ
 大きな家の
- 2092 **tanne rasu**
 タンネ ラス
 長い 柵木
 長い柵 (の杭) は
- 2093 **kamui nishka**
 カムイ ニシカ
 神 上空
 天空へ向けて立ち
- 2094 **korashmakakur-**
 コラシマカクル・
 杭が山側へ
 後ろへ
- 2095 **teshba kane**
 テシバ カネ
 反らせる (音節調整)
 それで
- 2096 **takne rasu**
 タクネ ラス
 短い 柵木
 短い柵を
- 2097 **rasu tum ta**
 ラス トウム タ
 柵木 中 (場所)
 柵の中に
- 2098 **nuina kane**
 スイナ カネ
 隠す (音節調整)
 隠している。
- 2099 **tanne sakma**
 タンネ サクマ
 長い 横木
 長い横木は
- 2100 **chirashkoreuba,**
 チラシコレウバ、
 割木に沿って曲がる
 柵なりにうねうねと曲がっている。
- 2101 **takne sakma**
 タクネ サクマ
 短い 横木
 短い横木は
- 2102 **chitoikoreuba.**
 チトイコレウバ。
 地面と共に曲がる
 地面なりにうねうねと曲がっている。
- 2103 **Rikun opbuye**
 リクン オフブイエ
 上にある 杭の孔
 杭の上下の

- 2104 **ranke opbuye**
 ランケ オプブイエ
 下の 杭の孔
 孔は
- 2105 **chikappo sui ne**
 チカポ スイ ネ
 小鳥 穴 (繫辞類)
 鳥の巣となり、
- 2106 **chiubekare.**
 チウベカレ。
 向かい合う
 相對している。
- 2107 **Opbui kar be**
 オプブイ カラ ベ
 杭の孔 打つ もの
 杭の孔に当たる風が
- 2108 **koshiwiwatki.**
 コシウイワツキ。
 シュウシュウと鳴る
 ひゅーひゅー鳴る
- 2109 **Chashi kar be**
 チャシ カラ ベ
 チャシ 打つ もの
 館に当たる風が
- 2110 **kosebebatki.**
 コセベバツキ。
 鳴る
 はたはたと鳴る。
- 2111 **Toyan kar be**
 トヤン カラ ベ
 地面 打つ もの
 地面を打つ風の音が
- 2112 **koturimimse.**
 コトゥリミムセ。
 響き渡る
 響き渡る。
- 2113 **Anramasu**
 アンラマス
 まったく好ましい
 我は
- 2114 **a-uwesuye.**
 ア・ウウエスイエ。
 我・思う
 うっとりとなる。
- 2115 **Chashi nusa**
 チャシ ヌサ
 チャシ 祭壇
 館の外に建てられた幣柵は
- 2116 **nitai ash ruwe**
 ニタイ アシ ルウエ
 林 立つ 跡
 さながら森の木の
- 2117 **ekannayukar.**
 エカンナユカラ。
 ようである
 ようである。
- 2118 **Nusaba wano**
 ヌサバ ワノ
 幣柵の上 から
 幣の東端から
- 2119 **ebisun san ru**
 エビスン サン ル
 浜へ くだる 道
 浜手へと下る (砂) 道は
- 2120 **ekaichish tapka wa**
 エカイチシ タツカ ワ
 頂上の平らな岩山 頂き から
 折れた岩山の頂から
- 2121 **otu ru shittok**
 オトゥ ル シットク
 二つの 道 肘
 肘を折ったように
- 2122 **ore ru shittok**
 オレ ル シットク
 三つの 道 肘
 七曲がりに
- 2123 **kaiba kane**
 カイバ カネ
 折る (音節調整)
 折れ、
- 2124 **nusa kesh wano**
 ヌサ ケシ ワノ
 祭壇 末端 から
 幣柵の西端から
- 2125 **ekimne toi ru**
 エキムネ トイ ル
 山に行く 土 道
 山手へ向かう土面の道、

背鰭長の鯨

- 2126 **toyabir kashi**
トヤビリ カシ
土の獣道 上
けもの道の路面は
- 2127 **kokunnatara.**
コクンナタラ。
黒々としている
黒々としている。
- 2128 **Tomisambechi**
トミサムベチ
(地名)
トミサンベツの
- 2129 **san ru konna**
サン ル コンナ
くだる 道 は
浜へ降りる道は
- 2130 **komaknatara.**
コマクナタラ。
輝いている
明るく輝いている。
- 2131 **Atuiso kurka**
アトウイソ クルカ
海面 上
海面は
- 2132 **koteshnatara.**
コテシナタラ。
平らになっている
なめらかに広がる。
- 2133 **Neto kor chikap**
ネト コロ チカブ
凧 持つ 鳥
海の鳥、
- 2134 **neto kor tori**
ネト コロ トリ
凧 持つ 鳥
凧の鳥の
- 2135 **raribe hau kan**
ラリベ ハウ カン
潜って餌をあさる 声 は
潜って餌をあさる声が
- 2136 **bebunitara.**
ベブニタラ。
騒がしい
沸き立っている。
- 2137 **Anramasu**
アンラマス
まったく好ましい
心揺さぶられる
- 2138 **a-uwesuye.**
ア・ウウエスイエ。
我・思う
光景だ。
- 2139 **Chashi teksam ta**
チャシ テクサム タ
チャシ すぐそば (場所)
館のそばに
- 2140 **ash-an kane**
アシ・アン カネ
立つ・我 (音節調整)
我は立ち、
- 2141 **ekeshne**
エケシネ
あちらこちら
あちらこちらへ
- 2142 **chihosarire-an.**
チホサリレ・アン。
我・振り返る
目をやる。
- 2143 **An-ewak ushike**
アネワク ウシケ
我・住む ところ
我が住まいの
- 2144 **pirika kashba ruwe**
ピリカ カシバ ルウエ
よい 甚だしい 跡
あまりの美しさに
- 2145 **sonno an-eyaikiror-**
ソンノ アネヤイキロロ・
真に 我・喜び
まことに喜び
- 2146 **ante kane.**
アンテ カネ。
あらしめる (音節調整)
うれしく思う。
- 2147 **Ainu ewaki anakne**
アイヌ エワキ アナクネ
人間 住まい は
もうこれは人の

- 2148 oar somo ne.
オアラ ソモ ネ。
全く (否定) (繫辞類)
住まいとは思われない。
- 2149 Kamui ewaki
カムイ エワキ
神 住まい
神の住まいを
- 2150 chiekasure.
チエカスレ。
凌ぐ
凌いでいる。
- 2151 Shiyoro keutum
シヨロ ケウトウム
驚く 心
感嘆の思いが
- 2152 a-yaikore.
ア・ヤイコレ。
我・もつ
わき起こる。
- 2153 Ene okai ne wa
エネ オカイ ネ ワ
このように ある (繫辞類) (接続)
こんなことであれば
- 2154 eboso kusu
エボソ クス
突き抜ける (理由・目的)
なるほど
- 2155 a-kor ainu
ア・コロ アイヌ
我・もつ 父
我が父と
- 2156 a-kor totto
ア・コロ トット
我・もつ 母
我が母が
- 2157 a-ekeshke kusu
ア・エケシケ クス
ねたまれる (理由・目的)
嫉まれ
- 2158 toi rebumbe
トイ レブムベ
土 沖の人
悲惨で
- 2159 wen rebumbe
ウエン レブムベ
悪い 沖の人
激しいいくさ (かあり)
- 2160 utarorke
ウタロロケ
たち
かたき達の
- 2161 katkoro shiri
カッコロ シリ
振舞う 様子
ああした振る舞いも
- 2162 okai ari
オカイ アリ
ある (引用)
もつともだ、と
- 2163 yainu-an chiki
ヤイヌ・アン チキ
考える・我 (条件)
考え
- 2164 a-keutumkashi-
ア・ケウトウムカシ・
我・心の上
我は心の上で
- 2165 chishkot kane.
チシコツ カネ。
泣く (音節調整)
泣く。*1
- 2166 A-aktonoke
ア・アクトノケ
我・弟君
我が弟
- 2167 ne wa ne yakka
ネ ワ ネ ヤッカ
(繫辞類) (接続) (繫辞類) (譲歩)
も
- 2168 somo i-echutkonno
ソモ イ・エチュツコンノ
(否定) 我・異なって
我と異なることを*2

p. 43

*1 前行 keutum の前に e- を補って解釈する。

*2 somo を誤記とみなして解釈する。somo があれば「我と同じことを」となる。

背鰭長の鯢

- 2169 **yainu p ne yakne**
 ヤイヌ プ ネ ヤクネ
 考えるもの (繫辞類) (条件)
 考え
- 2170 **kotom korkaiki**
 コトム コロカイキ
 ようである (逆接)
 てもよさそうだが、
- 2171 **shisembir un wa**
 シセムビリ ウン ワ
 自分の後ろ (方向) から
 後ろを
- 2172 **shikirba ko**
 シキリバ コ
 振り向く (条件)
 向いて
- 2173 **shinanka biru kane**
 シナンカ ビル カネ
 自分の顔 拭う (同時)
 (涙に濡れた) 顔を拭いている。
- 2174 **tu pon menoko**
 トウ ボン メノコ
 二つの 小さい 女
 二人の娘は
- 2175 **katune kane**
 カトゥネ カネ
 姿をとる (同時)
 ごく普通に
- 2176 **an-ewak shiroro**
 アネワク シロロ
 我・住む 場所
 我的住まいに
- 2177 **erayap be**
 エラヤッ ベ
 感心するもの
 感心するの
- 2178 **ne wa ne yakne**
 ネ ワ ネ ヤクネ
 (繫辞類) (接続) (繫辞類) (条件)
 であつたら
- 2179 **kotom korokaiki**
 コトム コロカイキ
 ようである (逆接)
 あたりまえだが、
- 2180 **hebumba boka**
 ヘブムバ ボカ
 顔を上げる さえ
 顔を上げることさえ
- 2181 **eoribak be**
 エオリバク ベ
 畏れ慄むもの
 遠慮した
- 2182 **konep ne kusu**
 コネッ ネ クス
 であるもの (繫辞類) (理由・目的)
 ものだから、
- 2183 **chashi ba ta**
 チャシ バ タ
 チャシ 頭 (場所)
 館の東端の
- 2184 **amtoi kurka**
 アムトイ クルカ
 地面 上
 地べたに
- 2185 **ehorarba**
 エホララバ
 居る
 座り込んで
- 2186 **otop chinki**
 オトッ チンキ
 髪 裾
 髪のを
- 2187 **eshitchiure kane**
 エシッチウレ カネ
 頭を下げる (同時)
 地面に垂らして
- 2188 **okai chiki**
 オカイ チキ
 ある (条件)
 いるので、
- 2189 **“Hokure ahup yan.”**
 「ホクレ アフフ ヤン。」
 早く 入る (命令)
 「さあ、入りなさい。」
- 2190 **a-shiren.**
 ア・シレン。
 我・誘う
 と促す。

3.3 館に入る

- 2191 **Mosem tuyor**
モセム トウヨロ
玄関納屋 中
玄関の中へ
- 2192 **an-eshikiru.**
アネシキル。
我・回る
身を向ける。
- 2193 **A-aktonoke**
ア・アクトノケ
我・弟君
我が弟も
- 2194 **i-seturkashi-**
イ・セトゥルカシ・
我・背中
我にすぐ続いて
- 2195 **rarba kane.**
ララバ カネ。
押す (音節調整)
入る。
- 2196 **Mosem tuyor ta**
モセム トウヨロ タ
玄関納屋 中 (場所)
玄関の中で
- 2197 **tane eashiri**
タネ エアシリ
今 それこそ
今こそ
- 2198 **ikor hura**
イコロ フラ
宝物 匂い
宝物のにおい、
- 2199 **tomi hura**
トミ フラ
財宝 匂い
財宝のにおいが
- 2200 **rui rera ne**
ルイ レラ ネ
激しい 風 (繫辞類)
強い風となって
- 2201 **i-emaknakur-**
イ・エマクナクル・
我・奥
我を後ずさり
- 2202 **raipa kane.**
ライバ カネ。
移動させる (音節調整)
させる。
- 2203 **Ratki aba**
ラッキ アバ
垂れ下がった 簾戸
入り口の垂れた簾を
- 2204 **a-moirechaka.**
ア・モイレチャカ。
我・ゆっくり開ける
我はゆっくりと開ける。
- 2205 **Mintar ka ta**
ミンタラ カ タ
土間 上 (場所)
土間の上に
- 2206 **imeru tura**
イメル トウラ
光 とともに
光りとともに
- 2207 **urar tura**
ウララ トウラ
霧 とともに
霞とともに
- 2208 **a-rutkosamba.**
ア・ルッコサムバ。
(家に) 入る
我は入る。
- 2209 **Inkar-an ko**
インカラ・アン コ
見る・我 (条件)
見ると
- 2210 **kunne urar**
クンネ ウララ
黒い 霧
黒い霞と
- 2211 **retar urar*3**
レタラ ウララ
白い 霧
白い霞が
- 2212 **chise upsoroho**
チセ ウフソロホ
家 内部
家の中に

*3 欠けている urar を補う。

背鰭長の鯨

- 2213 eetushnatki.
エエトウシナツキ。
満ちる
漂っている。
- 2214 Irukai shiran ko
イルカイ シラン コ
しばらくの間 有様である (条件)
しばらくして
- 2215 urar hechawe wa
ウララ ヘチャウエ ワ
霧 弾ける (接続)
霞が弾けたので
- 2216 inkar-an ko
インカラ・アン コ
見る・我 (条件)
見ると
- 2217 iyainumare
イヤイヌマレ
驚いた
驚いたことに
- 2218 iyoshserkere
イヨシセレケレ
恐るべきことだ
たまげたことに
- 2219 tam boro chise
タム ボロ チセ
この 大きい 家
この大きな家の
- 2220 amanemboki
アマネムボキ
棟木の下
棟木の下に
- 2221 chiibiyere
チイビイエレ
すきまなく
隙間なく
- 2222 kamui koro be
カムイ コロ ベ
神 持つ もの
宝器が
- 2223 ukirtek
ウキリテク
並ぶ
並び、
- 2224 taban iyoikir
タバン イヨイキリ
この 宝列
大きな宝壇が
- 2225 rambesh kunne
ラムベシ クンネ
懸崖 ように
懸崖のように
- 2226 chishituri.*4
チシトゥリ。
伸びる
伸びている。
- 2227 Kani shintoko
カニ シントコ
黄金 ほかい
金の行器、
- 2228 yayan shintoko
ヤヤン シントコ
普通の ほかい
木製の行器、
- 2229 kani suyop
カニ スヨフ
黄金 箱
金の箱、
- 2230 yayan suyop
ヤヤン スヨフ
普通の 箱
木製の箱が
- 2231 urutkoboye kane
ウルッコボイエ カネ
入り交じる (音節調整)
ぎっしりと並んでいる。
- 2232 enkashi ta
エンカシ タ
離れた上 (場所)
その上に
- 2233 nishpa mutbe
ニシパ ムツベ
長者 差す太刀
首領の佩く刀の
- 2234 otu san at kan
オトゥ サン アツ カン
二つの くだる 紐 は
多くの

p. 44

*4 -re を補って解釈する。

第3章 故郷トミサンペチ・シスタブカ

- 2235 ore san at kan
オレ サン アッ カン
三つの くだる 紐2 全く は
下げ紐が
- 2236 chieunruke
チエウシルケ
整列
並び
- 2237 rashnachitki
ラシナチッキ
(未詳)
ぶら下がる (?)
- 2238 tusa ran busa
トゥサ ラン プサ
刀飾り 下がる 房
刀飾りが
- 2239 suiba kane
スイバ カネ
揺する (音節調整)
揺れている。
- 2240 kurkashike
クルカシケ
上
その上に
- 2241 kamui imeru
カムイ イメル
神 光
神々しい光が
- 2242 uweshimaka
ウエシマカ
盛んに光る
盛んに輝いている。
- 2243 Ikit tukari
イキッ トウカリ
列 手前
宝列の手前には
- 2244 chituye amset
チトウイエ アムセツ
切れた 寝台
特製の寝台、
- 2245 kani amset
カニ アムセツ
黄金 寝台
金の寝台が
- 2246 chishiturire.
チシトゥリレ。
伸びる
長々と横たわっている。
- 2247 Kurkashike
クルカシケ
上
その上が
- 2248 komeritanke.
コメリタンケ。
光る
光っている。
- 2249 Makun soba
マクン ソバ
奥にある 上座
奥の座の東端は
- 2250 horabaye.
ホラバイエ。
低くなる
低くなり、*5
- 2251 Sanke soba
サンケ ソバ
前方の 上座
手前の座の東端は
- 2252 koteshtatara.
コテシナタラ。
平らになっている
平らに広がっている。
- 2253 Kani inumbe
カニ イヌムベ
黄金 焗縁
金の焗縁が
- 2254 baye ruwe konna
バイエ ルウエ コンナ
行く 跡 こそ
伸びゆくさまは
- 2255 rumaibe tom ne
ルマイベ トム ネ
(色の名。未詳) 色 (繫辞類)
ルマイベの色になり、
- 2256 shiso sam ta
シソ サム タ
右座 そば (場所)
右座のそばには

*5 宝物の重みのため、ということか。

背鰭長の鯨

- 2257 **iyokir kesh wano**
イヨイキリ ケシ ワノ
宝列 末端 から
宝列の端から
- 2258 **kani matsuyop**
カニ マスヨブ
黄金 女物の箱
女物の金の箱の
- 2259 **boro ikiri**
ボロ イキリ
大きい 列
たいそうな列が
- 2260 **utur un shikkeu**
ウトウル ウン シクケウ
火尻座 ある 隅
火尻座の隅まで
- 2261 **chieushi.**
チエウシ。
とどく
届いている。
- 2262 **Nei kotchake**
ネイ コッチャケ
そこ 前
その手前に
- 2263 **menoko mukru**
メノコ ムクル
女 枕
女物の枕が
- 2264 **chishituri.**
チシトゥリレ。
伸びる
伸びている。
- 2265 **Enkashike ta**
エンカシケ タ
離れた上 (場所)
その上には
- 2266 **nekona shiko p**
ネコナ シコ プ
どのように 生まれる もの
いったい
- 2267 **nekona baro p**
ネコナ バロ プ
どのように 口がついている もの
どこの誰が
- 2268 **tekekar kunip**
テケカラ クニプ
手ずからに作る すべきもの
作ったのもの
- 2269 **ne nankor a**
ネ ナンコラ
(繫辞類) だろう か
であるのか、
- 2270 **kamui chikirbe**
カムイ チキリベ
神 刺繡衣
神々しい刺繡のある着物、
- 2271 **kani chikirbe**
カニ チキリベ
黄金 刺繡衣
金の着物が
- 2272 **rikun kakenchai**
リクン カケンチャイ
上にある 掛け竿
高い掛け竿、
- 2273 **ranke kakenchai**
ランケ カケンチャイ
下の 掛け竿
低い掛け竿を
- 2274 **eereweuse.**
エエレウエウセ。
しなる
しならせている。
- 2275 **Kurkashike**
クルカシケ
上
その上で
- 2276 **tu kamui chupki**
トゥ カムイ チュプキ
二つの 神 光
おびただし
- 2277 **re kamui chupki**
レ カムイ チュプキ
三つの 神 光
光りが
- 2278 **eshimaka.**
エシマカ。
輝く
輝いている。

p. 45

- 2279 Anramasu
アンラマス
まったく好ましい
みごとな
- 2280 a-uwesuye.
ア・ウエスイエ。
我・思う
ものだ。

3.4 とともに食事をとる

- 2281 Harkiso ne
ハラキソ ネ
左座 (繫辞類)
我は左座へと
- 2282 a-urekushte.
ア・ウレクシテ。
我・通る
足を運ぶ。
- 2283 Amset ka ta
アムセツ カ タ
寝台 上 (場所)
寝台の上で
- 2284 a-yaikokutkoro-
ア・ヤイコクッコロ・
我・帯
我は帯を
- 2285 bita kane
ビタ カネ
解く (音節調整)
解き、
- 2286 shiraraye-an.
シラライエ・アン。
着替える
着替えをする。
- 2287 Tap orowa
タップ オロワ
これ (始点)
それから
- 2288 shisosam ta san-an.
シソサム タ サン・アン。
右座 (場所) くだる・我
右座に下りる。
- 2289 Abe are-an.
アベ アレ・アン。
火 座らせる・我
我は火を起こす。

- 2290 A-aktonoke
ア・アクトノケ
我・弟君
弟は
- 2291 hokaetok ne
ホカエトク ネ
横座 (繫辞類)
焔の上手に
- 2292 ehorari.
エホラリ。
居る
腰をおろす。
- 2293 Tu pom menoko
トゥ ポム メノコ
二つの 小さい 女
二人の娘は
- 2294 oribak tura
オリバク トウラ
畏まる とともに
うやうやしく
- 2295 tonchikamani
トンチカマニ
入り口の敷居
入り口のそばの敷居を
- 2296 yayoikare.
ヤヨイカレ。
またぐ
またぐ。
- 2297 Mintar ka ta
ミンタラ カ タ
土間 上 (場所)
土間を
- 2298 shinu kane
シヌ カネ
膝行する (同時)
膝行、
- 2299 reye kane ahup.
レイエ カネ アフブ。
這う (同時) 入る
這うようにして入ってくる。
- 2300 Katune kane
カトゥネ カネ
姿をとる (同時)
当たり前

背鰭長の鯪

- 2301 oribak kunip
オリバク クニフ
畏まる すべきもの
謹んでいるのなら
- 2302 ne wa ne yakne
ネ ワ ネ ヤクネ
(繫辞類) (接続) (繫辞類) (条件)
あたりまえ
- 2303 kotom korkaiki
コトム コロカイキ
ようである (逆接)
だが、
- 2304 kurka konna
クルカ コンナ
上こそ
表情が
- 2305 uyanitara
ウヤニタラ
こわばっている
かちかちになって
- 2306 koro okai chiki
コロ オカイ チキ
(同時) ある (条件)
いるので、
- 2307 tu mina itak
トゥ ミナ イタク
二つの 笑う 言葉
我は
- 2308 re mina itak
レ ミナ イタク
三つの 笑う 言葉
冗談を飛ばして
- 2309 a-itasare.
ア・イタサレ。
我・返す
それに応える。
- 2310 “Hokure hokure
「ホクレ ホクレ
早く 早く
「さあ、さあ、
- 2311 abe sam ta
アベ サム タ
火 そば (場所)
火のそばに
- 2312 arki wa rok yan.
アラキ ワ ロク ヤン。
来る (接続) 座る (命令)
寄って座りなさい。
- 2313 Ibebomashkin
イベボマシキン
腹がすく
腹がすいて
- 2314 a-ekot kotom no
ア・エコツ コトム ノ
我・死ぬ ようである (接続)
死に
- 2315 yainu-an na.
ヤイヌ・アン ナ。
考える・我 ぞ
そうだ。
- 2316 Shirebunsanta
シレブンサンタ
シレブンサンタ
沖つサンタの
- 2317 kamui tureshpo
カムイ トウレシポ
神 妹
神なる妹よ、
- 2318 nep ka aep
ネプ カ アエプ
何 も 食物
何か食べ物か
- 2319 okai nankon na.
オカイ ナンコン ナ。
ある だろう ぞ
あるだろ。
- 2320 Shuke kunak
シュケ クナク
炊事する (引用)
調理して
- 2321 ramu yan.
ラム ヤン。
思う (命令)
くれないか。
- 2322 Ibe-an wa
イベ・アン ワ
食事する・我 (接続)
食べて

- 2323 a-obittano
ア・オビッタノ
我・すべて
みんな
- 2324 tumashnu-an wa
トゥマシヌ・アン ワ
元気になる・我 (接続)
元気になったら
- 2325 uweneusar-an
ウウェネウサラ・アン
話し合いをする・我ら
お話しでも
- 2326 kusu ne na.”
クス ネ ナ。」
(理由・目的) (繋辞類) ぞ
しよう。』
- 2327 ari itak-an chiki
アリ イタク・アン チキ
(引用) 言う・我 (条件)
と言うと、
- 2328 oribak kunip
オリバク クニプ
畏まる すべきもの
畏まり言うことを聞く者
- 2329 ne p ne kusu
ネ プ ネ クス
(繋辞類) もの (繋辞類) (理由・目的)
であるから、
- 2330 itak etoko
イトク エトコ
言葉 前方
すぐに
- 2331 tun ne wa
トゥン ネ ワ
二人 (繋辞類) (接続)
二人とも
- 2332 ehobumba.
エホブムバ。
起き上がる
立ち上がる。
- 2333 Pom matushiu wakata
ポム マトゥシウ ワカタ
小さい 召使いの女 水を汲む
若い奴婢は水を汲み
- 2334 Shirebunsanta
シレブンサンタ
シレブンサンタ
沖つサンタの
- 2335 anun tureshpo
アヌン トウレシポ
よその 妹
異邦の妹は
- 2336 otu be chirbe
オトウ ベ チリベ
二つの もの 滴
ぼろぼろと水しずくを
- 2337 ore bechirbe
オレ ベチリベ
三つの 水滴
垂らして
- 2338 yaikarbare,
ヤイカラバレ、
清める
手を清め、
- 2339 pirika shuke
ピリカ シュケ
よい 炊事する
おいしく整え
- 2340 koyairikta-
コヤイリクタ・
おのれより高く
捧げ
- 2341 ante.
アンテ。
あらしめる
持ち (鍋を炉に掛ける)。
- 2342 Hoshkituk be
ホシキトゥク ベ
先に生まれる もの
先に生まれたのが
- 2343 a-ne kusu
ア・ネ クス
我・である (理由・目的)
我であるから、
- 2344 kamui huchi
カムイ フチ
神 祖母
火の神に

背鰭長の鯪

- 2345 **a-tekrikikur-**
ア・テクリキクル・
我・手を高く
手を高く
- 2346 **buni kane**
ブニ カネ
上げる (音節調整)
上げて
- 2347 **tapne tapne ne wa**
タップネ タップネ ネ ワ
これである これである (繫辞類) (接続)
かくかくしかじか
- 2348 **tanebo konna**
タネボ コンナ
今 こそ
今こそ
- 2349 **an-ewak ushike ta**
アネワク ウシケ タ
我・住む ところ (場所)
我が住まいに
- 2350 **hoshippa-an i**
ホシッパ・アニ
我・帰る こと
戻ったことを
- 2351 **a-ekamuikoitak.**
ア・エカムイコイタク。
我・神に語る
神に述べる。
- 2352 **Chise soba ta**
チセ ソバ タ
家 上座 (場所)
家の上座に
- 2353 **horari kamui ne yakka**
ホラリ カムイ ネ ヤクカ
座って居る 神 (繫辞類) (譲歩)
いつもいる神にも
- 2354 **neino a-koitak.**
ネイノ ア・コイタク。
ように 我・話しかける
同じように述べる。
- 2355 **An-eramushinne.**
アネラムシンネ。
我・安心する
我は人心地する。
- 2356 **Tane shu chi wa**
タネ シュ チ ワ
今 鍋 煮える (接続)
もう鍋も煮え、
- 2357 **kabarbe ochike**
カバラベ オチケ
薄造りの物 膳
薄造りの膳に
- 2358 **kabarbe itanki**
カバラベ イタンキ
薄造りの物 御椀
薄造りの椀が
- 2359 **uworeroshki.**
ウウオレロシキ。
重なってそびえる
並び立つ。
- 2360 **Pirika meshi**
ピリカ メシ
よい 飯
うまいご飯を
- 2361 **raisonabi**
ライソナビ
高盛の椀
高々と盛った椀が
- 2362 **a-i-kobuni.**
ア・イ・コブニ。
我に捧げられる
我に差し出される。
- 2363 **Raisonabi**
ライソナビ
高盛の椀
弟にも
- 2364 **a-aktonoke**
ア・アクトノケ
我・弟君
高盛の椀が
- 2365 **a-kobunikar.**
ア・コブニカラ。
捧げ出される
出される。
- 2366 **Tu pom menoko**
トゥ ポム メノコ
二つの 小さい 女
二人の娘

第3章 故郷トミサンペチ・シスタブカ

- 2367 ne yakka
ネ ヤクカ
(繫辞類) (讓歩)
も
- 2368 rupne sonabi
ルプネ ソナビ
大きい 高盛の椀
大きな盛りを
- 2369 yaikobumba.
ヤイコブムバ。
自分によそう
持ち感謝する。
- 2370 Ukoeramno
ウコエラムノ
一緒に
ともに心を一つにして
- 2371 tanebo konno
タネボ コンノ
今こそ
今は
- 2372 hotashnu sakno
ホタシヌ サクノ
びくびくする 無くて
何も恐れることもなく
- 2373 kibip sakno
キビプ サクノ
どきどきする 無くて
おびえることもなく
- 2374 pirika ibe
ピリカ イベ
よい 食事する
おいしい食事、
- 2375 ratchi ibe
ラッチ イベ
穏やかな 食事する
穏やかな食事を
- 2376 a-koyaikurka-
ア・コヤイクルカ・
我・我が上
堪能
- 2377 oma kane.
オマ カネ。
ある (音節調整)
する。
- 2378 A-obittano
ア・オビッタノ
我・すべて
我ら皆
- 2379 shine yainu
シネ ヤイヌ
一つの 考える
一つの思い
- 2380 shine keutum
シネ ケウトウム
一つの 心
同じ気持ち
- 2381 a-kor be ne kusu
ア・コロ ベ ネ クス
我・もつ もの (繫辞類) (理由・目的)
持つのであるから、
- 2382 ibe tuika ta
イベ トウイカ タ
食事する 上 (場所)
食事の合間、
- 2383 tu pom menoko
トゥ ポム メノコ
二つの 小さい 女
二人の娘
- 2384 tane anakne
タネ アナクネ
今 は
今はもう
- 2385 i-eramush kotomno
イ・エラムシ コトムノ
我に心をつける ように
我を信頼したらしく (?)
- 2386 tu mina itak
トゥ ミナ イタク
二つの 笑う 言葉
笑い話
- 2387 re mina itak
レ ミナ イタク
三つの 笑う 言葉
戯れ言を
- 2388 utashbare.
ウタシバレ。
交わし合う
交わし合っている。

背鰭長の鯪

- 2389 **A-aktonoke**
ア・アクトノケ
我・弟君
弟
- 2390 **ne wa ne yakka**
ネ ワ ネ ヤツカ
(繫辞類) (接続) (繫辞類) (譲歩)
も
- 2391 **tu mina**
トゥ ミナ
二つの 笑う
数々の愉快な話を*6
- 2392 **itasare kane**
イタサレ カネ
返す (同時)
返して
- 2393 **uweneusar-an koro**
ウウエネウサラ・アン コロ
話し合いをする・我ら (同時)
お話しを楽しみながら
- 2394 **keran ibe a-ki.**
ケラン イベ ア・キ。
おいしい 食事する 我・する
我らはおいしい食事をする
- 2395 **Shino ramushinne-an.**
シノ ラムシンネ・アン。
まことに 我安心する
まったく心平らかになる。
- 2396 **Bakno.**
バクノ。
まで
ここまで。

*6 itak を補って解釈する。

shiyashbetanne-index.pdf

本報告書で紹介するユーカラ「背鱗長の鯨」のアイヌ語索引が上記のファイルとして付録の CD に収められている。

本書は日本語版 L^AT_EX 2_ε、すなわち pL^AT_EX 2_ε で組版したものである。
本文フォントには、明朝にモリサワリュウミン L-KL、ゴシックにモリサワ新ゴ R、
ローマ字には Times が使われている。

平成 22 年度 アイヌ民俗文化財調査報告書（ユーカラシリーズ 38）

アイヌ英雄叙事詩
背鱗長の鯨

平成 23 年 3 月発行

著者 金成マツ

編集 高橋靖以

翻訳 高橋靖以・切替英雄

組版 山下浩一・切替英雄

発行 北海道教育委員会

〒060-8544 札幌市中央区北 3 条西 7 丁目